

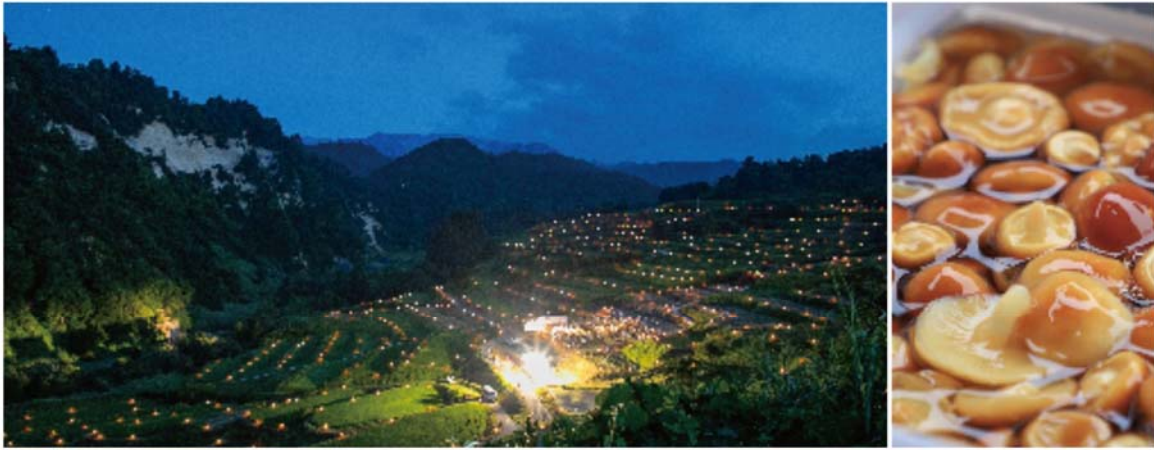


大蔵村 総合計画
2020→2029

～第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略～

令和2年3月





村長 あいさつ



令和という新たな御代の幕開けとともに、大蔵村も村制施行130周年という節目の年を迎えました。記念式典においては、今後150年、200年に向け村民の英知を結集して、持続可能なむらづくりに決意を新たにしたところであります。

これまで、村では平成22年に策定した第3次総合計画でむらづくりの理念として掲げた「むら美しく・人いきいき・キラリおくら」のもと、魅力ある持続可能な、安全なむらづくりを進めてまいりました。

施設園芸作物の振興などにより、農業所得の向上が顕著に表れる一方、全国的な人口減少社会や観光形態の変化などにより、肘折温泉を中心とした観光産業に弱含みが見られる状況にあります。さらに、政府が目標とした「東京一極集中」の是正が進まず、本村では人口の減少に歯止めがかからないなど様々な課題に直面し、新たな挑戦が必要となっています。

このような状況のもと、時代の変化や多様化する地域課題に対応し、「生活の質的向上 真の豊かさ」を求めたむらづくりを総合的に進めるための指針として、この度、第4次大蔵村総合計画を策定いたしました。

本計画において、私たちが目指す10年後の姿を「おかえり、なりわい灯すきよらなる里」として、多様性を尊重した受容の村、新しい時代にふさわしい自然や生き方に結びついた「なりわい」を目指す村、そして、日本一美しく輝く「きよらなる里」であり続けることを目標とするものであります。

今後とも、村内の英知を結集し、対話の中から、明るく・優しく・元気なむらづくりを継続してまいりますので、村民皆様方の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、ご尽力をいただきました総合計画審議会委員の皆様や村議会議員、さらに、貴重なご意見をいただきました村民の皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。

令和2年3月

大蔵村長 加藤正美

<目 次>

第1編 計画策定のあらまし

第1章 計画の意義	P 2
1-1. 意義	P 2
1-2. 構成と期間	P 3
第2章 推計人口	P11
第3章 大蔵村の現状と課題	P12
3-1. 社会の動向	P12
3-2. 大蔵村の概況	P14
3-3. 村づくりへの取組み	P22
3-4. 村づくりの課題	P25

第2編 基本構想と基本計画

基本構想・基本計画体系図	P28
第1章 基本構想	P30
1-1. 大蔵村の将来像と基本理念	P30
1-2. 施策の大綱	P31
第2章 基本計画	
～大蔵村まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）～	P32
2-1. みらい～協働による持続可能な村づくり～ 【持続可能な村、美しい村、協働、行財政運営】	P32
2-2. まち～安心できる安全な生活空間づくり～ 【定住移住や交通等生活基盤、防災、雪対策】	P36
2-3. なりわい～地域の特色を活かした魅力ある産業づくり～ 【産業（農業）、観光、雇用】	P40
2-4. ひと～地域総がかりの人づくり～ 【子育て、人材育成と交流、教育】	P44
2-5. 暮らし～生涯すこやかに暮らせる地域づくり～ 【保健、医療、福祉】	P48
さいごに～みんなの計画とするために大事なこと～	P52

資料編

1. 施策・事業・取組み一覧
2. 村民アンケート
3. 中学生アンケート
4. 観光客アンケート
5. 子育てママのヒアリング
6. ワークショップ

■策定経過

■大蔵村総合計画審議会委員 名簿

第4次

大蔵村総合計画

第1編
計画策定の
あらまし

第1章 計画の意義

1-1. 意義

- 大蔵村（以下「本村」という。）は、平成22（2010）年に平成31（2019）年度を目標年度とした第3次大蔵村総合計画を策定しました。テーマとして「むら美しく・人いきいき・キラリおおくら」を掲げ、美しい自然と人が共生し、豊かな産業と充実した福祉のもとにいきいきと安心して暮らせる村、魅力と個性に輝くむらづくりに取組んできました。
- 第3次計画期間の10年間は、社会全体が、急速な少子高齢化や激甚な自然災害など「これまでにない」様々な問題に直面し、地方自治のあり方はもちろん人々のライフスタイルや価値観を転換せざるを得ない時代となりました。平成の大合併において自立の道を選んだ本村においても、より地域の実情に即した主体的なむら村づくりが必要となっています。
- こうした中、国は、平成26（2014）年度から、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指す地方創生の取組みを始めました。本村では平成27（2015）年度に将来人口を展望する「人口ビジョン」を定め、その目標人口を達成するための指針となる「大蔵村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し各種の事業を展開しています。
- 第4次大蔵村総合計画（以下「本計画」という。）は、村政運営の背骨といえる計画として、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をふまえ、今後本村が目指すべき持続可能な村の将来像を示し、新しい時代にふさわしい基本計画を策定します。

1-2. 構成と期間

(1) 構成

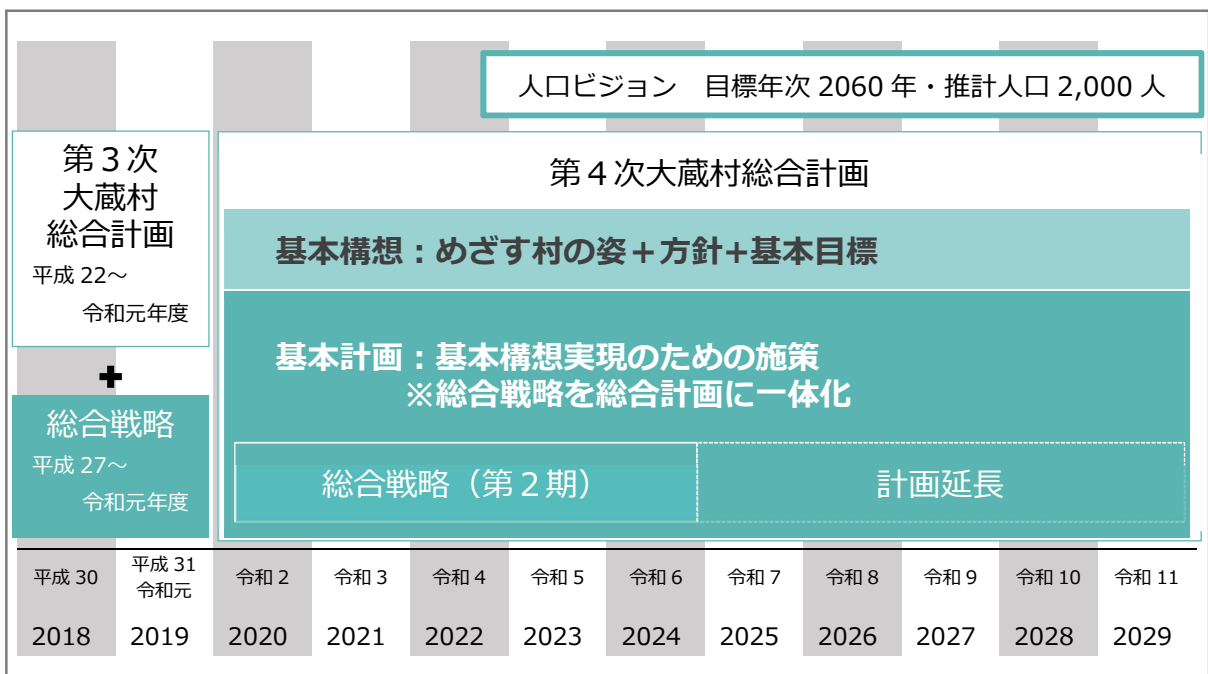
本計画は「基本構想」と「基本計画」で構成します。「基本構想」では、今後10年間でめざす村の姿と、その実現に必要な村づくりの柱・方針を示します。「基本計画」では、基本構想の実現に必要な具体的な取組みを示します。

なお、本村では総合計画と「総合戦略」を一体的に策定することとし、総合計画の施策が大蔵村総合戦略にあたります。また、本計画の中にSDGs（国連サミットで採択された国際目標）の基本理念を取り入れ、「誰一人取り残さない」、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指します。

(2) 計画期間

本計画の期間は令和2（2020）年度から令和11（2029）年度までの10年間です。施策や取組みの目標年度は令和11年度となります。総合戦略の見直しは基本的に5年毎となっていますが、適宜効果検証を行い、時代の情勢に合わせ柔軟に取組みの延長や変更・見直しを行います。

<図> 計画の構成と期間



解説 1

「人口ビジョンとまち・ひと・しごと創生総合戦略」

日本では少子高齢化による人口減少が進行する中、東京圏への一極集中の傾向が継続し、地方における人口が急速に減少しています。このままでは、地方が維持できなくなってしまうため、国は人口減少による地方の数々の課題の解決・克服をめざし、各地域がそれぞれの特徴を活かした自立的で持続的な社会の創生（＝地方創生）に取り組みました。

平成26（2014）年、国は「人口ビジョン」で現状分析と目標を示し、4つの基本目標を柱とする「総合戦略」で対策を示しました。

<図>人口ビジョン・総合戦略の概要

社会背景：人口減少+超高齢化＝地域の活力が保てない！



活力維持のために：人口の回復+人の循環によるにぎわいが必要



人口ビジョン：推計人口をもとに人口の目標値を示す

総合戦略：人口ビジョン実現に向けた取組みの方向性を示す



「まち」「ひと」「しごと」に即した第1期4つの基本目標

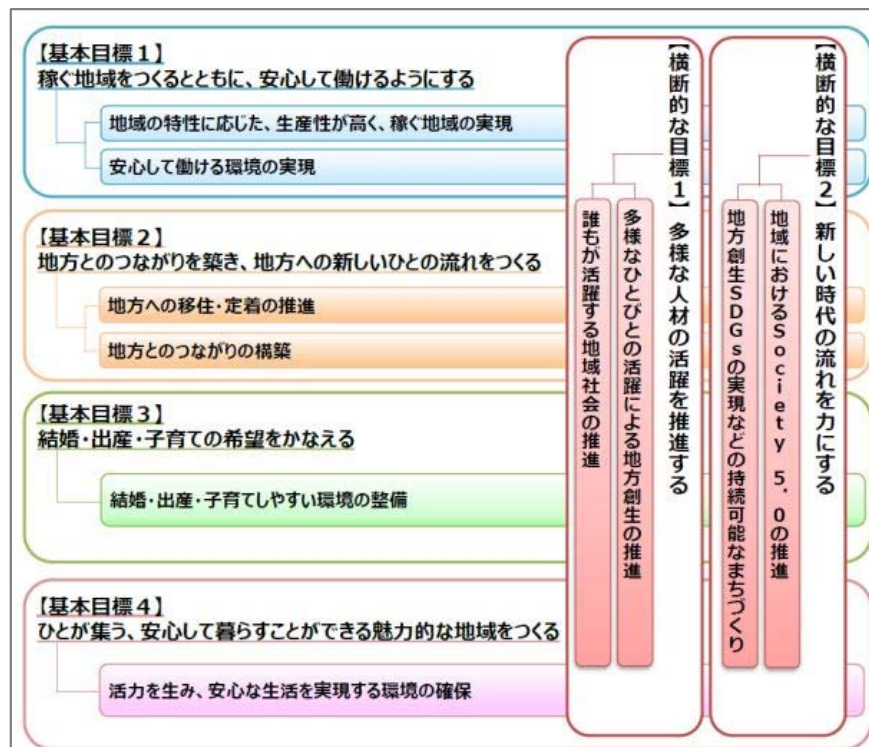
1. 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする
2. 地方への新しい人の流れをつくる
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

国は取組みの基本方針と政策を定め、市町村ではそれぞれの地域の実情に即した具体的施策や取組みを定めることとなりました。本村でも、自治体の運営計画である総合計画に加えて、人口減少問題への対策に特化した「人口ビジョン」と「総合戦略」を策定しました。

「人口ビジョン」と「まち・ひと・しごと地方創生総合戦略」は平成27(2015)年度から令和元(2019)年度にかけて第1期の取組みを終え、令和2年度からは、第2期とされています。

第2期(2020~2024年度)においては、4つの基本目標を更新するとともに、横断的な目標として「多様な人材の活躍を推進する」「新しい時代の流れを力にする」の2つが追加されました。

<図> 第2期における施策の方向性



出典：まち・ひと・しごと創生基本方針 2019 について
令和元年12月 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局

本村の第4次総合計画においても「人口減少克服」「地方創生」という目的に向かい、4つの基本目標と横断的な目標をふまえ、各施策や取組みを策定しています。

解説2 「SDGs (えす・でいー・じーず)」って？

「持続可能な開発目標」

2016年からの15年間ですべての人々にとってより良い世界をつくるため、世界の国々の政府は、すべての人や私たちの地球にとって最も重要な目標について話し合いました。そして、若者や子どもを含む、多くの人びとや組織が協力し、17の「持続可能な開発目標(=SDGs)」が決められました。

持続可能な開発目標



持続可能な開発目標(SDGs)は、貧困や不平等・格差、気候変動などのさまざまな問題を根本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標です。



私たちが目指す世界 子どものための「持続可能な開発目標(SDGs)」～2030年までの17の目標～

原著著作権: The Global Movement for Children of Latin America and Caribbean (MML-LAC)

"The World We Want - A Young Person's Guide to the Global Goals for Sustainable Development"

2014年10月初版発行、2015年8月改定

グローバル版編集: SOS Children's Villages International, Save the Children ユニセフ(国連児童基金) World's Largest Lesson

「グローバル目標」ロゴ・アイコン: The Global Goals <http://www.globalgoals.org>

日本語版制作: 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4階 Tel: 03-6859-0070 Fax: 03-6859-0069 <http://www.savechildren.or.jp>

2015年10月初版発行、2016年5月改訂、2017年9月再刷、2018年2月再刷、2018年3月改訂

※グローバル版を日本語版に翻訳するにあたり、一部の事例を日本の状況に合わせて変更しています

監訳: (特活)ACE、(特活)国際子ども権利センター、(特活)チャイルド・ファンド・ジャパン、一般社団法人環境パートナーシップ会議、(特活)国際協力NGOセンター、

(公財)プラン・インターナショナル・ジャパン、動く→動かす、UNICEF東京事務所/(公財)日本ユニセフ協会、(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン

イラスト・デザイン: たかはしなな

持続可能って？

今、自分のまわりのことだけではなく、未来のみんなや地球も今みたいに暮らせるということ。

開発って？

十分に食べられなかったり、学校に行けなかったり、病気で病院に行けなかったり、住んでいるところがとても危険だったり、暴力をふるわれたり、自由に意見が言えなかったりすることをなくして、みんなが安心して、自分の能力を十分に発揮しながら満足して暮らせるようにすること。

出典：私たちが目指す世界




SDGsは、2015年に達成期限を迎えた「MDGs（ミレニアム開発目標）」に代わる新たな世界の目標として定められました。

MDGsが先進国による途上国の支援を中心とする内容であったのに対しSDGsは「誰ひとり置き去りにしない」ことを目指し、先進国と途上国（＝すべての人）が一丸となって達成すべき目標で構成されています。我が国においても、各分野でSDGsに対する取り組みがすすめられ、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても「地方創生SDGsの推進」が掲げられています。

17の「持続可能な開発目標(＝SDGs)」(以下、「17の目標」という。)は貧困や飢餓といった問題から、働きがいや経済成長、気候変動など、私たちの暮らしと密接に関係しています。これまで認識していなかっただけで、「もったいない」精神や自然との共生などSDGsの考え方にマッチする生き方・暮らし方がたくさんあるはずです。

17の目標には、それらを達成するために必要なターゲット(具体目標)が全部で169設定されています。17の目標と、本計画にも関連したターゲットの例を以下に示します。

<表> 17の目標とターゲット例

アイコン	目標	ターゲット
	1. 貧困をなくそう 世界中の、あらゆる形の貧困を終わらせる	<ul style="list-style-type: none"> ●生きていくために必要な食べ物すら手に入れないほどの「極度の貧困」を終わらせる ●すべての人が失業のような状態から守られ、医者による診察など必要なサービスを受けられるようにする
	2. 飢餓をゼロに 飢餓をなくし、生きていくために必要な食料を安定して手に入れることのできる権利を保障し、栄養状態を良くして、持続可能な農業を進める	<ul style="list-style-type: none"> ●栄養不良を無くす ●農業の生産量を増やし、小さい農家の収入を増やす。その際、それぞれの地域の生物多様性や資源を守るよう気をつける ●干ばつや洪水、その他の災害を予防する
	3. すべての人に健康と福祉を 何歳であっても、健康で、安心して満身に暮らせるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ●麻薬・アルコールの危険性や心の病気の予防についての知識を広める ●感染症や肝炎、水によって感染する病気などの流行を終わらせる ●交通事故による死亡者や負傷者の数を半分に減らす

<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p>4. 質の高い教育をみんなに だれもが平等に質の高い教育を受けられるようにし、だれもが生涯にわたってあらゆる機会に学習できるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●若者や大人がより良い仕事を得られるように、様々な職業訓練を受けられるようにする ●みんなが安全で通いやすく、過ごしやすい場所で勉強できるように学校設備を整える ●職業訓練を受ける人たちへの奨学金を増やす
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> 	<p>5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー（性）が平等であるようにし、すべての女性や女子に力を与える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●女性や女子に対するあらゆる種類の差別を、世界のどの場所においてもなくす ●女性の家事労働が価値あるものとして認められるようにする ●女性や女子が政治や経済などの公の活動に参加する機会を男性と同じように得られるようにする ●性と生殖の健康（妊娠と出産）に関する女性の権利を守る
<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> 	<p>6. 安全な水とトイレを世界中に 水と衛生的な環境をきちんと管理して、だれもが水と衛生的な環境を得られるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての人が安全な方法での下水処理やごみ処理などの衛生設備が整った環境で暮らせるようにする ●きれいな水を提供するため、水質を管理する。化学物質や汚染物質が水に入らないようにする ●水の使い方を改善する。水の再利用にもっと力を入れて取り組む
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> 	<p>7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに 価格が安くて、安定して発電でき、持続可能で近代的なエネルギーをすべての人が使えるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギーをもっと効率よく使うようにする。エネルギーを節約できる技術を早く開発する ●石油や石炭などではなく、再生可能エネルギーの使用を世界中で増やす ●再生可能エネルギーやその他の環境にやさしいエネルギー源についてさらに調べそれらをもっと利用できるようにする
<p>8 働きがいも経済成長も</p> 	<p>8. 働きがいも経済成長も 自然資源が守られ、みんなが参加できる経済成長を進め、すべての人が働きがいのある人間らしい仕事をできるようにする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●仕事を通じて人として成長できるような安全でやりがいのある仕事を提供する ●経済活動において、天然資源を大切に、守る ●男性、女性、若者、障害者、移民労働者など、すべての人にとって働きがいのある人間らしい仕事と、安全に働ける場所や環境を提供する ●訓練を受けられる機会を増やすことで、仕事がない若者の数を減らす

<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	<p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 災害に強いインフラをつくり、みんなが参加できる持続可能な経済発展を進め、新しい技術を生み出しやすくする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●持続可能で、災害に強いインフラをつくり、経済成長と人びとの健康で安全な暮らしを支援する ●小さな規模のビジネスを行っている人々に資金を貸したり、技術の支援を行う ●すべての人がインターネットや新しい技術を使えるようにする
<p>10 人や国の不平等をなくそう</p> 	<p>10. 人や国の不平等をなくそう 国と国の間にある不平等や、国の中での不平等を減らす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●貧しい人たちが、すぐに、とぎれることなく収入を増やせるよう、支援する ●特定のグループを差別するような法律や習慣をなくす ●不利な立場にある人を守るような法律や政策を取り入れる ●他の国に移住する人が法律により守られるようにする
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> 	<p>11. 住み続けられるまちづくりを まちや人びとが住んでいるところを、だれもが受け入れられ、安全で、災害に強く、持続可能な場所にする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●環境を破壊せず、特に子どもや女性、弱い立場にある人たちにとって、安全で使いやすい公共交通機関をつくる ●自分たちのまちをより良くするための話し合いや計画づくりに、地域の人々が参加できるようにする ●災害に強いまちと地域をつくる
<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 	<p>12. つくる責任つかう責任 持続可能な方法で生産し、消費する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●一人あたりの、捨てられる食べ物の量を、世界全体で半分にするよう、人も企業も取り組む ●3R（リデュース、リユース、リサイクル）を通して、廃棄物を減らす ●人々が自然と調和した暮らしに関する知恵や知識を得られるようにし、持続可能な生活習慣に必要な情報や手段を提供する
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p>13. 気候変動に具体的な対策を 気候変動や、それによる影響を止めるために、すぐに行動を起こす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●気候変動が原因の災害や、自然災害に対して、きちんと備える ●政府は気候変動の問題に取り組み、そのために国の予算を使う

	<p>14. 海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために、海や海の資源を守り、持続可能な方法で使用する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●海の汚染を減らす。海の汚染の多くは陸上の人間の活動が原因 ●違法な漁業や魚のとりすぎなど、海の環境を破壊するような魚のとり方を禁止する法律を作る
	<p>15. 陸の豊かさを守ろう 陸のエコシステムを守り、再生し、持続可能な方法で利用する。森林をきちんと管理し、砂漠がこれ以上増えないようにし、土地が悪くなることを止めて再生させ、生物多様性が失われることを防ぐ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●国際条約にしたがって、砂漠や熱帯雨林などのエコシステムを守る ●森林を再生させることを目指して、森林破壊を減らし、木を植える ●絶滅危惧種を一刻も早く保護する ●外来種の侵入を防ぐ
	<p>16. 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のため、平和でみんなが参加できる社会をつくり、すべての人が司法を利用でき、地域・国・世界のどのレベルにおいても、きちんと実行され、必要な説明がなされ、だれもが対象となる制度をつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●暴力や、暴力による死をなくす ●虐待（暴力をふるう、必要な世話をしない、ひどい言葉を浴びせ続けるなど）・搾取・人身取引など、子どもに対するあらゆる形の暴力をなくす ●政府は何かを決める時、例えば、子どもや若者に影響を与えるような法律を作る時には、事前に子どもや若者の意見を聞かなければならない
	<p>17. パートナーシップで目標を達成しよう 実施手段（目標達成のために必要な行動や方法）を強化し、持続可能な開発に向けて世界の国々が協力する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●2030年までに、すべての国がこれらの目標を達成できるように助け合う。それぞれの国が国内の政策の中にSDGsを取り入れるようにする ●SDGsに関連する分野の問題について取り組んできた組織や人と協力する ●SDGsの達成に向けてどれくらい進歩したかを調べられるようにするため、国々はより詳しいデータや統計を集める

17の目標は決して単独ではなく、お互いに関係しあっています。本村は将来像において、「持続可能ななりわいの村」であることを基本理念の1つとしています。本村が望ましいとする仕事のあり方、暮らし方そのものが、SDGsと合致しており、世界基準の将来像であると言えます。

第2章 推計人口

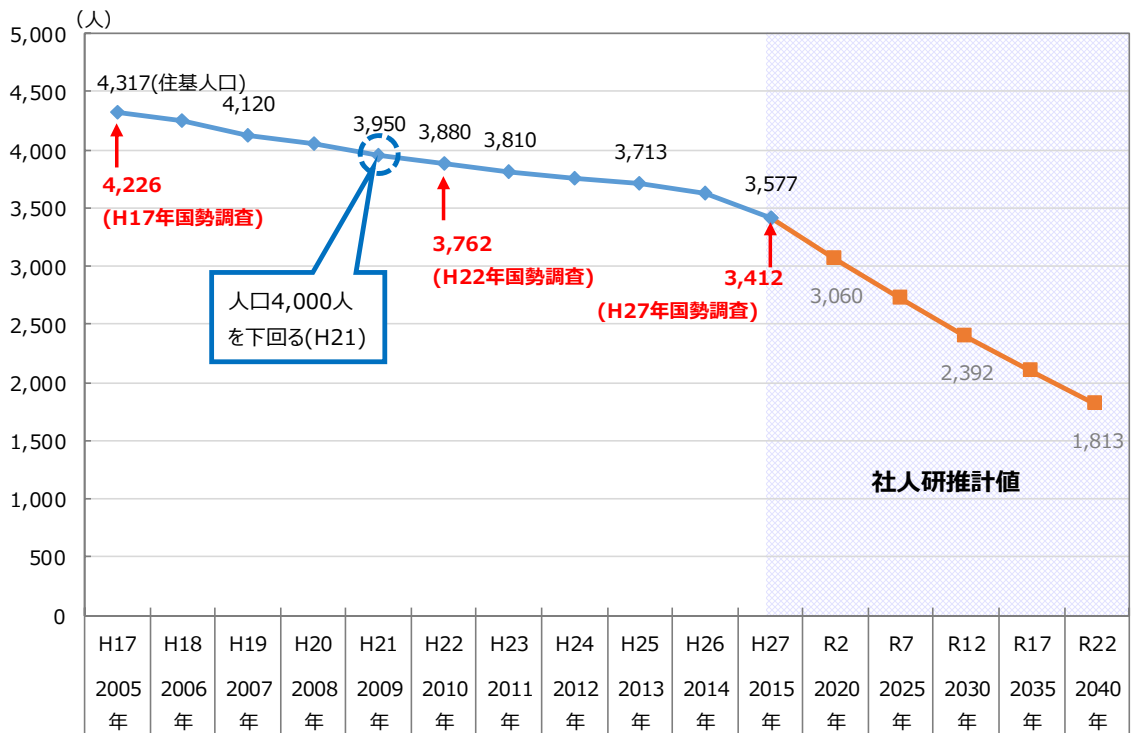
本村の人口は、平成 27（2015）年に行われた国勢調査では 3,412 人でした。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が平成 30（2018）年に公表した推計では、令和 22（2040）年には 1,813 人と、この 25 年間で約半数近くまで減少すると予測されています。

平成 27 年度に策定した人口ビジョンのシミュレーションでは、令和 22（2040）年の人口は合計特殊出生率が人口置換水準である 2.1 に回復すると想定した場合 2,119 人、さらに人口の流出が止まった場合は 2,885 人と推計していました。

このため本村では、定住移住促進や子育て支援などの施策を行い、平成 28（2016）～30（2018）年にかけて合計特殊出生率が全国数値を上回りました。

しかし全国的に少子高齢化が進む中、村の活力を維持するためには、関係人口や交流人口など村の外に住む人とのつながりも強め、その力を活用していくことが必要と考えられます。

<図> 大蔵村の人口推移と将来推計



出典：大蔵村住民基本台帳、国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

第3章 大蔵村の現状と課題

3-1. 社会の動向

(1) 持続可能な社会へ（環境・行政）

2016年以降の国際目標として、「持続可能な開発目標（SDGs）」が定められ、我が国においてもその達成に向けた取組みが各所ですすめられています。本村においても大蔵村が大蔵村として存続していくために、「主体的で、自然を活かした、地に足をつけた取組み」と「生活の質を向上させていくための取組み」が持続可能な発展の鍵となります。

※P6 解説「SDGs」参照

(2) 地域の弾力性と回復力（防災）

近年、地震や気候変動に伴う大規模災害が相次ぎ、公的な防災措置や公助の前提として「自分で自分の身を守る」「地域で助け合う」ことの重要性が高まっています。災害等に対して被害を減少させる力や、被害にあっても立ち直ることができる「しなやかさ」のことを「レジリエンス」といいます。全体が急峻な地形にあり大雨被害等が懸念される本村において、人、地域、行政、三者のレジリエンスを高めていくことが必要です。

(3) インバウンドの促進（産業・観光）

2020年のオリンピック・パラリンピック開催を控え、また国全体としても「インバウンド＝訪日外国人旅行」誘致促進の取組みが各所で展開されています。東北への外国人宿泊者数は国全体に比して少なく、山形県については全体のわずか0.8%となっています。観光の主目的が買物等の消費から体験型へと移行する中、豪雪や棚田等の特色ある地域資源は本村の強みであり、東北デスティネーションキャンペーン等と呼吸をあわせて地域の魅力向上・周知を図ることが必要です。

(4) 少子化への応戦（人口・教育）

高齢化と併せて我が国においては「少子化」が人口減少の大きな要因となっています。なぜ結婚する若い人が減少しているのか、なぜ子どもを持つ世帯が減少しているのか。子どもは社会の宝です。社会全体で若い世代の結婚・

出産・子育てに対する不安や負担を解消し、希望を叶えていくことが必要です。また、多様な子育てが応援される仕組みづくりと、生命の尊厳や多様性の尊重を基調とした教育も必要です。

(5) 幸齢（高齢）社会へ（健康・福祉）

全世界的に高齢化は問題となっており、これまで高齢化が進行してきた先進国地域はもとより、開発途上国地域においても、今後2060年までに高齢化が急速に進展すると見込まれています。我が国は世界一の高齢社会を迎えていると言われ、本村もその1つです。少子高齢化、人口減少、地域の活力減少という連鎖が懸念される中、いかに地域の活力を保っていくかが課題です。在宅医療の活動等が全国的にも評価されてきた本村においても、生涯誰もが健やかに生き抜いていく支援体制の維持と質の向上を目指していく必要があります。

3-2. 大蔵村の概況

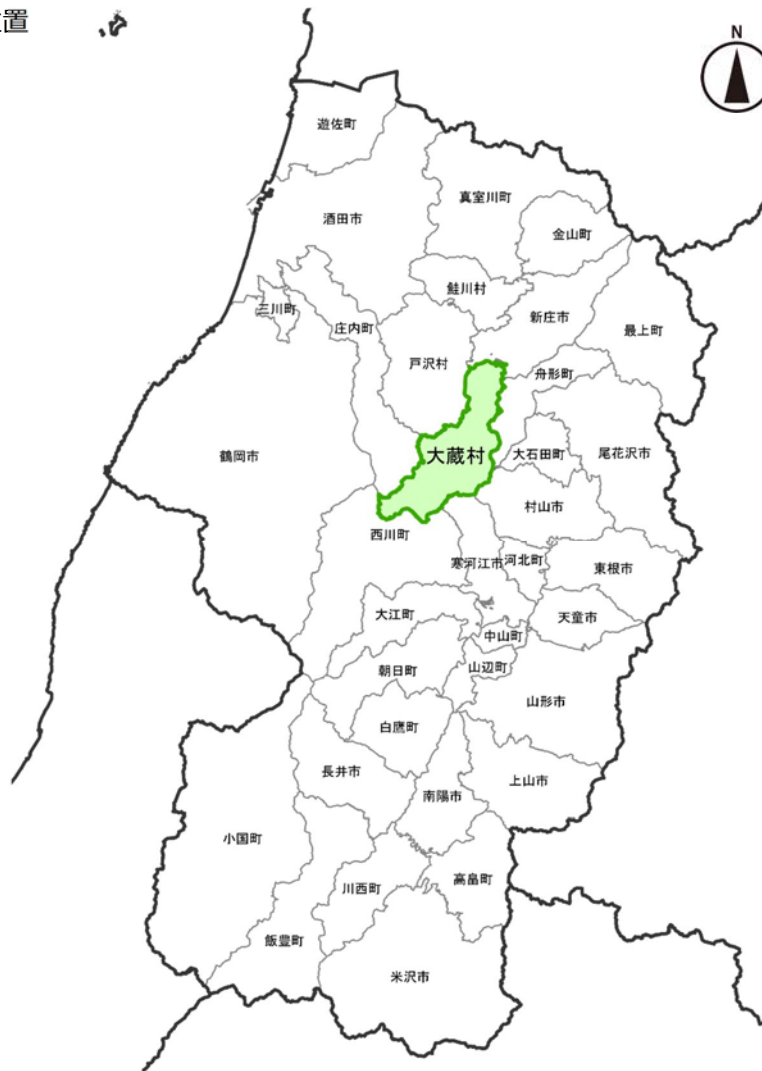
(1) 位置・地勢

本村は、山形県北東の内陸部、最上郡に位置し、郡内の中心都市、新庄市に隣接しています。総面積は211.63km²。山形県を横顔に見立てたときの耳にあたり、南方は霊峰・月山、葉山の山懐に抱かれ、村内を南北に銅山川が縦断しています。

本村の南側を中心に山林が85%を占め、村の役場などの機能は新庄市にも近い村の北側、最上川付近に集中しています。銅山川に並行して村の中央部を南北に走る国道458号に沿って集落が点在しており、ところどころにある広々とした台地は農耕地として利用されています。

四季を通して急峻な地形に築かれた棚田の風景が美しく、冬は2m～4mの積雪がある日本有数の豪雪地帯でもあります。

<図> 大蔵村の位置



(2) 沿革

中世から近世の最上地方の隆盛は最上川の舟運とともにありました。

本村の清水には、山形最上氏の北進策の拠点と、最上川舟運統制のため最上氏支族である清水氏代々の居城が築城され、138年間にわたり最上地方の大半を支配しました。

最上氏が秋田仙北、庄内地方も支配するようになり、清水など河岸場（船着場）が設けられると、清水が主要河岸場となりました。物の輸送が盛んに行われ大いに栄えましたが、慶長19年に清水氏が滅亡した後は大石田が主要河岸になりました。



出羽三山登拝図【村指定文化財】

また、最上川は出羽三山への参詣路としてもにぎわい、出羽三山に至る八方七口の肘折口の別当が、片見家（阿吽院）であったため大蔵村烏川では多くの道者が往来しました。

舟運は活発に利用されていましたが、20世紀に入り鉄道が整備され陸上交通が主流になるに従い、最上川舟運はその役割を終え、稲作や肘折の観光等が主要な産業となりました。

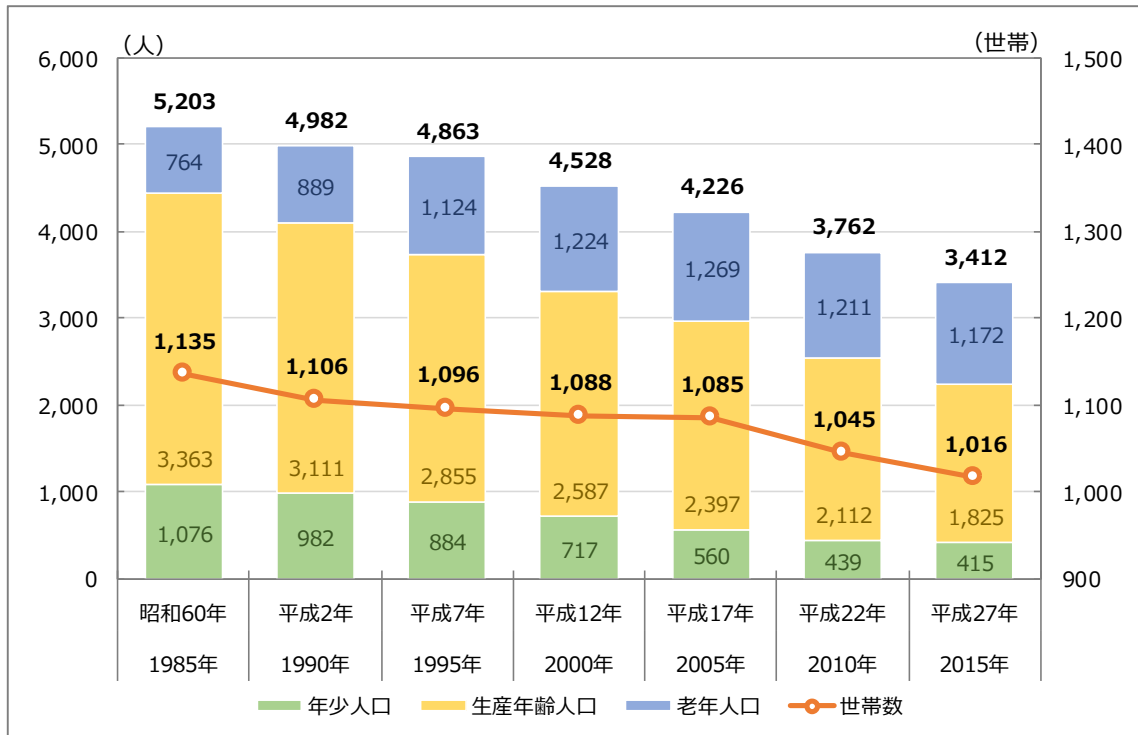
廃藩置県を経て明治22（1899）年、清水町村、合海村、南山村、赤松村が合併し、大蔵村が誕生。人口減少に伴い実施された平成の大合併においても独立を選び、令和元（2019）年に130周年を迎えました。厳しい風雪に耐え、内陸にありながら人々が行き交った歴史を持つ本村は、21世紀においても持続可能な日本のあり方を示す可能性を持っています。

(3) 人口や産業の状況

①人口

本村の総人口は、山形県で最も人口が少なく、平成27(2015)年国勢調査で3,412人でした。10年前と比べると生産年齢人口を中心に約800人減少しています。世帯数は1,016世帯で、高齢者の夫婦世帯が増加しています。また高齢者の人口は平成7(1995)年からほぼ横ばいです。

<図> 人口と世帯数の推移



出典：国勢調査

■ 現況、将来人口推計の要旨 (詳細は人口ビジョン参照)

- ・ 近隣市町村への転出が多く、全体的な人口減少が続いている
- ・ 高齢化が進んでおり、令和27(2045)年頃、65歳以上の高齢者1人を生産年齢人口0.82人で支えることになる
- ・ 定住移住促進や子育て支援などの施策を行い、平成28(2016)～30(2018)年にかけて合計特殊出生率が全国数値を上回った

■ 課題

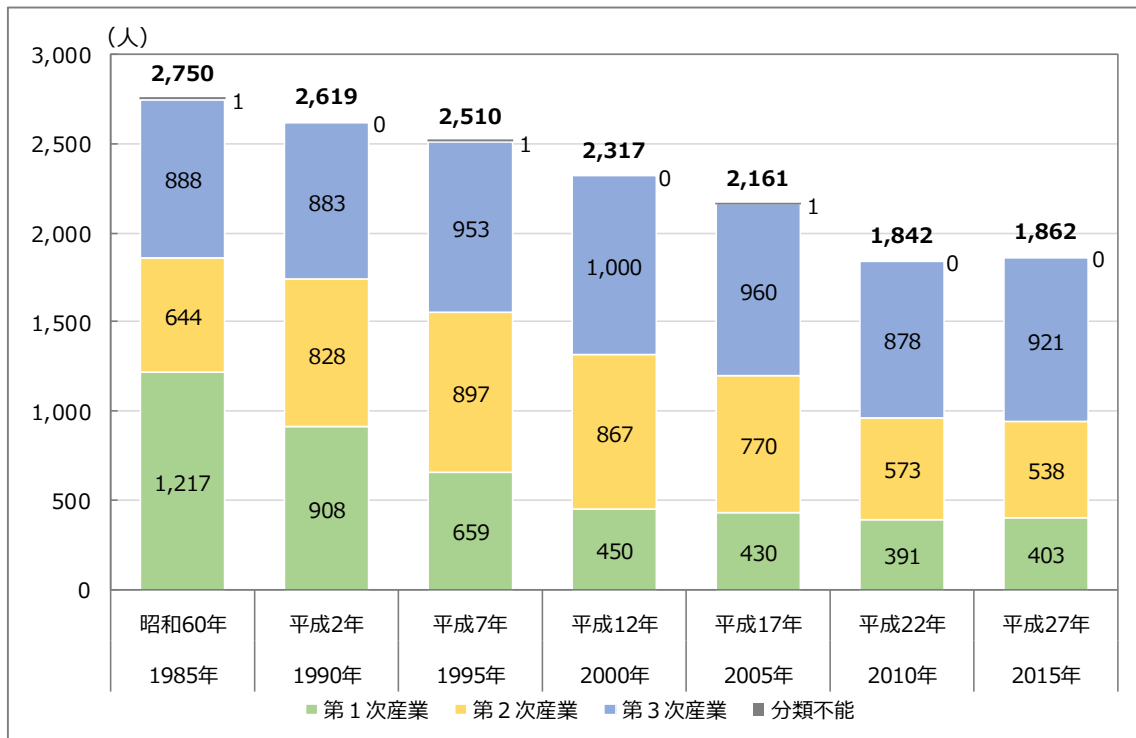
- ・ 村の活力を維持するためには、近隣市町村への転出を抑制し、関係人口や交流人口などの力を活用していくことが必要と考えられる

②産業

●就業者数 新規就農者の増加と働き手の高齢化

- ・就業者数は平成27(2015)年で1,862人と5年前に比べて20人増加
- ・第1次産業の従事者は403人、第3次産業は921人と5年前に比べて増加、第2次産業の従事者は538人で35人減少
- ・30年前と比べて生産年齢人口が約1,500人減少しているのに対し、就業者数は約900人の減少で、働き続ける高齢者が増えている
- ・トマトを中心とした新規就農者支援や定住促進施策を行ってきた結果、第1次産業、第3次産業の就業者増加につながった

＜図＞ 就業者数の推移



出典：国勢調査

※第1次産業：農業、林業、漁業

第2次産業：製造業、建設業、鉱業など

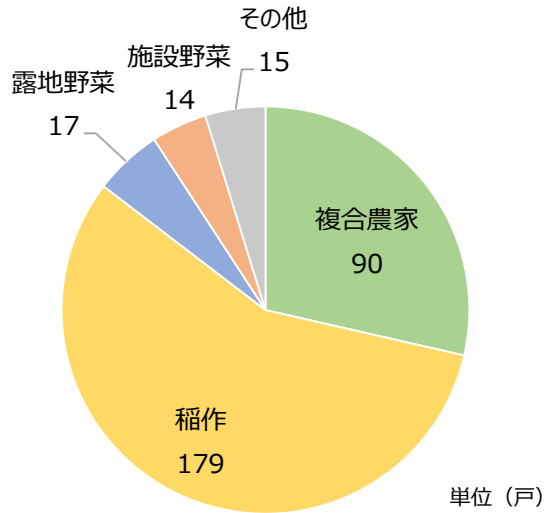
第3次産業：商業、運輸、通信、金融、公務、サービス業、ガス・電気・水道業など

● 主な産業の状況

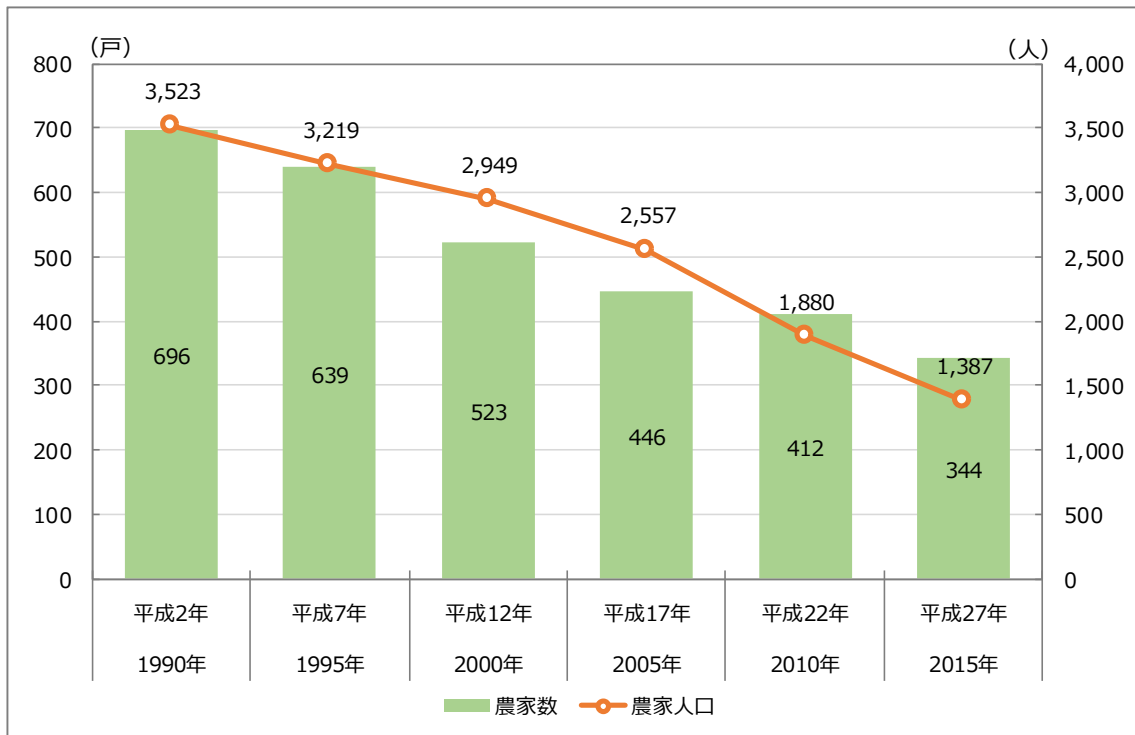
農業

- ・販売のあった経営体数は稲作が最も多く、次いで複合農家が多い
- ・農家数、農家人口ともに減少しており、一層の作業効率化とマーケティング戦略が必要

<図> 販売のあった経営体数（平成27年）



<図> 農家数、農家人口

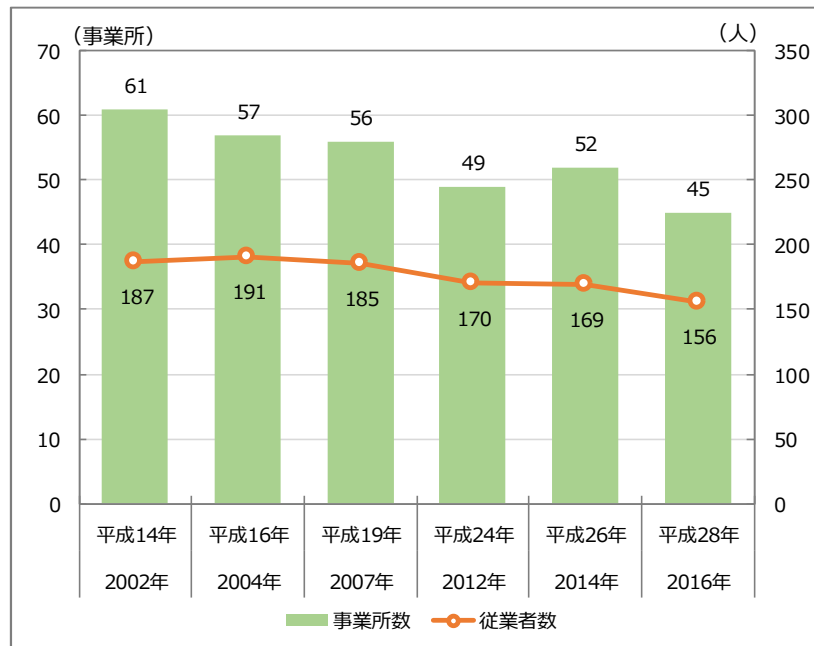


出典：2015年農林業センサス

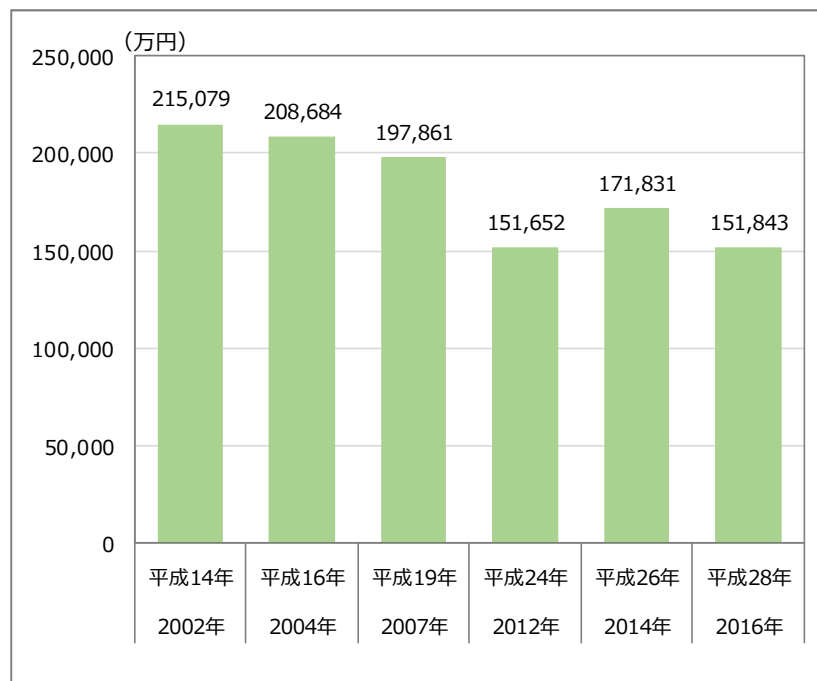
商業

- ・事業所はそのほとんどが小売業である
- ・事業所数、従業者数ともゆるやかに減少している
- ・買い回り品等は新庄市等近隣市町村へ行く必要がある
- ・ふるさと産品やインターネット販売の拡充が期待される

<図> 事業所数、従業者数



<図> 年間商品販売額

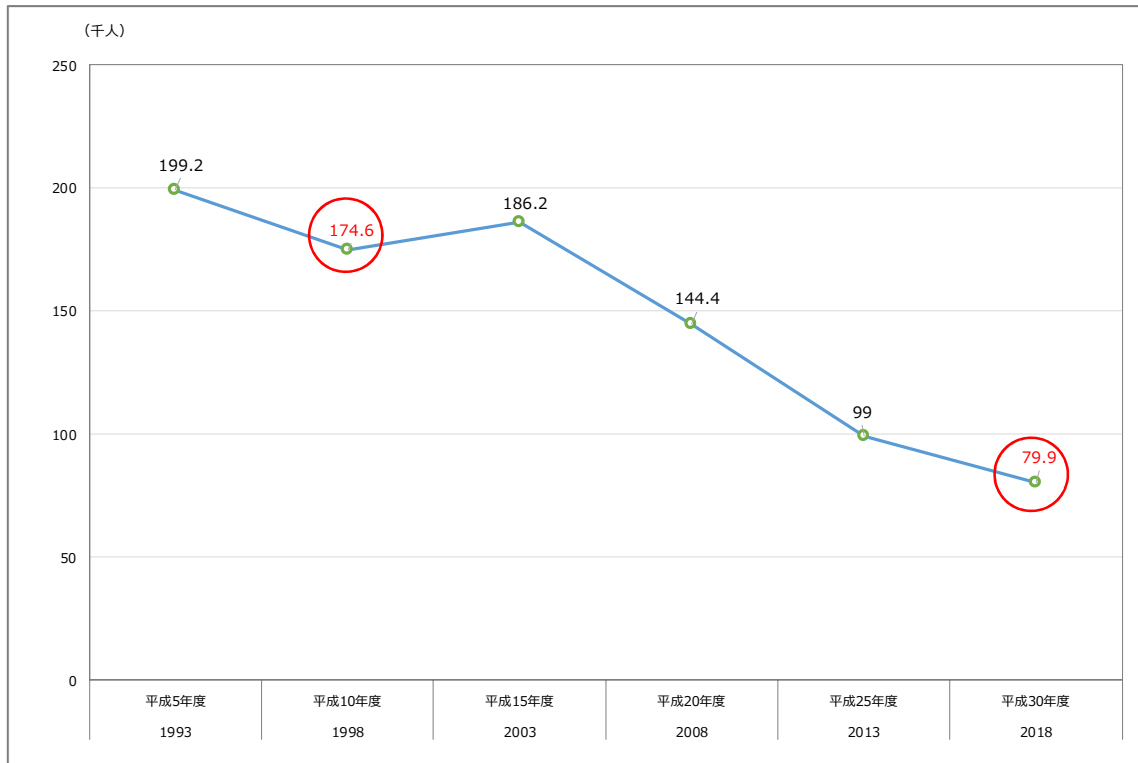


出典：商業統計調査（H14～19,26）、経済センサス-活動調査（H24,28）

観光

- ・ 村の観光者数は、20年前と比べ半数以下となっている
- ・ 肘折温泉への1人当り宿泊数は減少
- ・ 1人旅、また外国人旅行者が増加している
- ・ インバウンドへの対応、新しいニーズへの対応が求められる

<図> 大蔵村観光者数

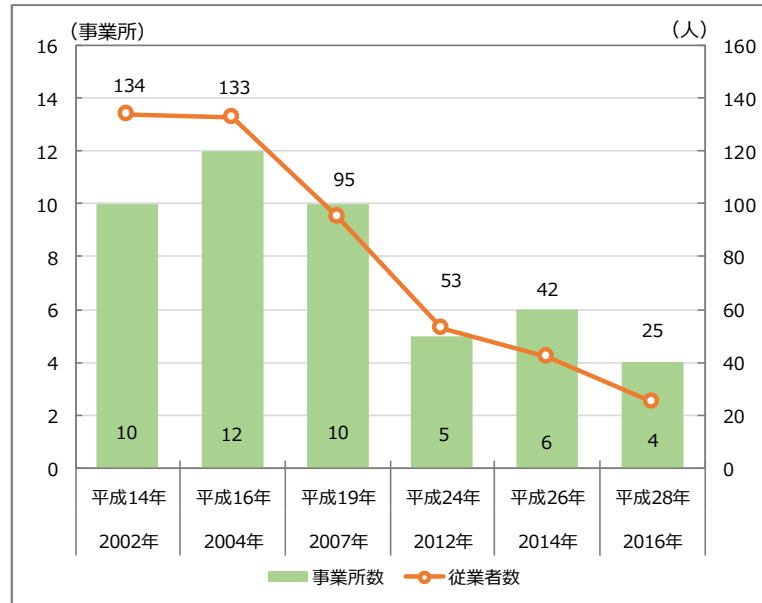


出典：山形県観光者数調査

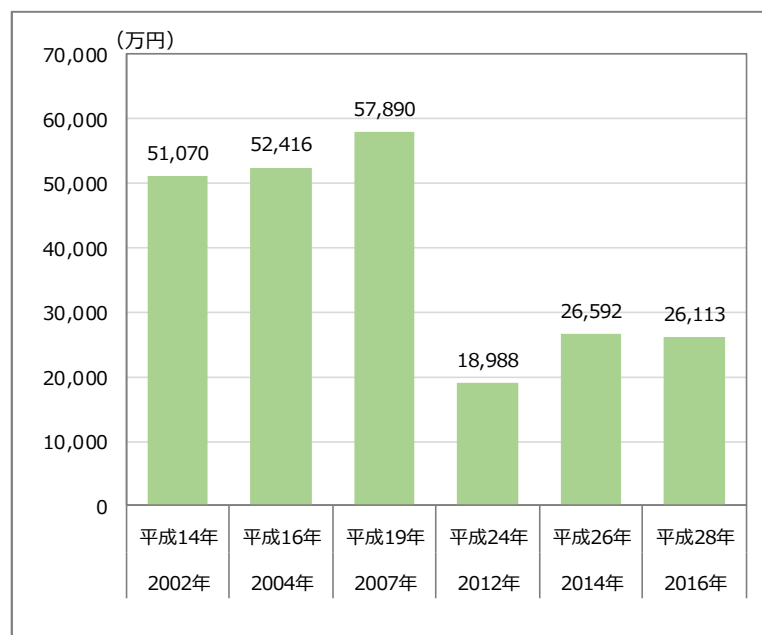
工業

- ・事業所数、従業者数ともに平成24（2012）年に激減した
- ・最上地域では再生可能エネルギーの導入や農作物の6次産業化を推進しており、本村においても同様に労働生産性を高める取組みが求められる

<図> 事業所数、従業者数



<図> 年間製造品出荷額等



出典：各年工業統計調査

3-3. 村づくりへの取組み

(1) アンケート・聞き取り調査

住民参加の一環として、村政や望ましい村の姿に関する意見を聴取するため、アンケートや聞き取り調査を実施しました。各概要を以下に示します。

※各アンケート結果詳細は資料編に掲載

① 村民アンケート

- ・アンケートを1,500名の方に配布し、10代を含む村民753名から回答を得た
- ・今後重点的に改善を図り、満足度を向上させていく必要があるものとして「村の財政運営」「生活道路の整備」「幹線道路の整備」があげられた
- ・満足度が高く今後も重点的に維持していくべきものとして「地域医療」「除雪体制」「教育環境」があげられた
- ・60代を中心に「引き続き村に住み続けたい」意向が高い

② 中学生アンケート

- ・中学生66名全員から回答を得た
- ・村への愛着について、「どちらかというとな愛着がある」「たいへん愛着がある」が合せて全体の81%である
- ・村の暮らしやすさについて、「どちらかというとな暮らしやすい」「とても暮らしやすい」が合せて全体の77%である
- ・村の宝として「肘折」「温泉」「棚田」「トマト」の他、「村民のあたたかさ」「じじ、ばば」等人に関するものがあげられた
- ・村の魅力向上のために「PRの工夫が必要」とする意見が多かった

③ 観光客アンケート

- ・肘折温泉の宿泊施設等に5,000部を配布し、124票の回答を得た
- ・大蔵村への訪問が「初めて」の方が36%、2回以上のリピーターが64%
- ・四ヶ村の棚田や大蔵村のトマトについて認知度が低い
- ・村の魅力として温泉や自然に関する項目の評価が高い
- ・村の魅力として交通、見どころ、情報提供に関する項目の評価が低い
- ・魅力向上につながる視点として、「魅力の再確認」「付加価値の創出」「情報発信」があげられた

④地区座談会での意見交換

- ・12地区の座談会において、本計画の説明をし、意見交換を行った
- ・人口減少により、地区や産業における担い手が不足しているため、村全体で考えていく必要がある
- ・全国で大規模な自然災害が多発しているが、本村も対策を講じていかなければならない
- ・生活していくうえで、雪対策、生活・幹線道路整備を推進していくべきである、などの意見が出された

⑤若い子育て世代への聞き取り調査（肘折地区）

- ・観光業に携わる子育て中の女性5人に村政全般についてヒアリングを行った
- ・子育て中の女性は孤立しやすいので集える場があるとよい
- ・入院施設がある病院は遠いので、大変
- ・結婚していない同世代も多く、婚活事業も大事
- ・ふれあいサロンの充実や小さい図書館の開設など少しずつでもできることをやっていきたい
- ・その他、提言
 - （1）女性も高齢者も活躍できる肘折〈学びの場の確保〉
 - （2）住民同士で支え合う肘折〈仕事マッチングへの支援〉
 - （3）地域で子どもを見守る肘折〈安心して子供が遊べる場の創出〉

(2) 住民ワークショップ

アンケート結果をふまえ、村の具体的な取組みに反映させる意見聴取のため、庁内の若手職員と村の若手リーダーを中心としたワークショップ「おおくらみらい会議」を開催しました。概要を以下に示します。

日 時：令和元年9月25日（水）18：30～20：30

場 所：赤松生涯学習センター2階学習室

参加者：26名

概 要：村の職員と若手リーダーを中心に26名が参加し、中学生アンケート等でも村の宝とされた「棚田」「トマト」「肘折」3つのグループに分かれ、「にぎわう大蔵村とするため何ができるか」について意見交換を行った。

■各グループで共有されたこと

グループ1：テーマ「棚田」
<ul style="list-style-type: none"> ●棚田のよさとは何か、地元に住む大人でもよく分かっていない ●小・中高生の力を最大限に活用することが大事 ●「棚田」単体ではなく「肘折温泉」とコラボするなど村全体として協力することが必要ではないか
グループ2：テーマ「トマト」
<ul style="list-style-type: none"> ●若者の生産者が多く、定着している ●「大蔵のトマト」をまずは地元にもっと知ってもらい地元で購入できるようにする
グループ3：テーマ「肘折」
<ul style="list-style-type: none"> ●若い人が活躍しているが、村民が遊びに行くことは少ない ●温泉以外にも、「居る楽しみ」があるとよいのではないか ●たくさんの人が集い話し合うことでアイデアが生まれ、小さなアイデアに挑戦してみることが大事

3-4. 村づくりの課題

(1) 村づくりへの取組みから見えた課題

前項アンケートやワークショップの結果等より、共通してあげられた村の課題を以下のように整理しました。

- ・ 村民から魅力の再確認
- ・ 農業・観光・自然が連携しての付加価値の創出
- ・ 情報発信
- ・ 村全体としての協力体制の構築
- ・ 小さなチャレンジ

(2) 前期計画の検証による課題

第3次総合計画の取組みについて、10年を総括して評価する形で各課ヒアリングを行いました。ヒアリングには共通の評価シートを用いて①取組みの進捗、②今後の方向性、③優先度の3項目について、担当課・総務課・コンサルの三者でレベル評価し、達成度や課題について聞き取りを行いました。

● レベル評価の概要

①取組みの進捗	諸施策の7割以上が計画通り進行した。
②今後の方向性	ほとんどが継続すべきと考えられている。拡充すべきと考えられる取組みは全体の20分の1と少なく、施策の大綱4の分野（インフラの整備や防災体制の充実）で最も多い。改善・見直しをすべきと考えられる取組みが最も多いのは施策の大綱2の分野（産業）である。
③優先度	優先度が高いと考えられる取組みは施策の大綱2の分野で最も多く、次いで施策の大綱4の分野が多い。

● 評価詳細と今後の課題

- ・ 名実ともに「美しい村」として存続させていくための取組みが必要
- ・ 目標や取組みの意味が十分に村民に理解され、共有されることが必要
- ・ 時代の変化に応戦し、棚田米やトマトなどの農業を「なりわい」として成立させ安定させていく取組みが必要
- ・ 「肘折温泉」と「棚田」をはじめとしたその他の大蔵村の「売り」を組み合わせ、時代の変化に応じた「余暇の価値」を生み出していくことが必要

- ・大蔵村の急峻な地形がもたらす災害リスクに、村民一人ひとりが、より高度に備えていくことが必要
- ・子育て世帯や高齢者世帯など、暮らしに寄り添った支援の継続が必要

<表> 課題・次期計画への提案等一覧

担当課	課題	次期計画で必要と思われる施策・取組み
総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・交通利便性の確保 ・空き家以外での定住、移住促進 ・空き家対策、活用の推進 ・地域計画の作成 ・全世代を通じての国際性・多様性を養う教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備されたインターネット環境を活用しての行政サービス ・移住定住の促進 ・大蔵村の実情に適した空き家対策
危機管理室	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が進行する中での消防団員数の維持 ・集落の人口による防災力の差異のカバー ・段階的な避難行動の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の消防団入団の推進 ・消防団設備の効率的な統廃合と維持管理 ・避難場所の整備 ・住民の避難対応力、防災力の向上（どこが危険か、だれと、どこへ逃げるか）
健康福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育の方向性の明確化 ・現在の助け合いの暮らしが維持できる仕組み ・「ボランティア」を村に馴染む概念になるような運用の工夫 ・ゴミ処理、リサイクルに関する村民の暮らし方向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスの充実、人材の確保・維持 ・食事宅配サービスやシェアハウス等ニーズの把握と対策 ・時代に即した介護施設の利便性向上
産業振興課	<ul style="list-style-type: none"> ・農業や観光業をいかに「なりわい」として成り立たせていくか ・棚田景観の維持保存 ・村の将来、目標等の村民意識への浸透（シビックプライドの醸成） ・効果的なPR ・インバウンドへの対応体制構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・転作地を活用した戦略的周年農業の確立 ・農作物（大蔵米、棚田米、トマト等）のブランド力向上 ・肘折温泉街の魅力向上 ・新しい湯治スタイルの検討
地域整備課	<ul style="list-style-type: none"> ・10年前と比べて災害対応の重要度が増加 ・道路網のダブルネットワーク化なども必要 ・大雨や土砂災害への警戒や対策が必要 ・ハードだけでなくソフトとあわせた防災対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代に即した災害対応 ・浄水施設の整備 ・合併処理浄化槽の整備促進 ・除排雪対策の推進
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・世情の変化に合わせ、スクールバスの待機時間の安全確保等学校と地域が一体となった対策が必要 ・社会背景や村の産業の変化等も考慮し、取組みや施策の見直しが必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ・認定子ども園への移行 ・国際教育の推進（子ども～おとなまで） ・地産地消の食育推進 ・地域と協力した安全な通学体制の確保
診療所	<ul style="list-style-type: none"> ・予防医療、地域医療、看取り3つの柱の維持 ・医師・専門職の確保 ・運営体制の検討—人口減少を背景とした恒久的施設の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・予防医療の徹底 ・戦略的な医療機器の更新 ・人材、人員の確保 ・地域連携による運営体制の構築

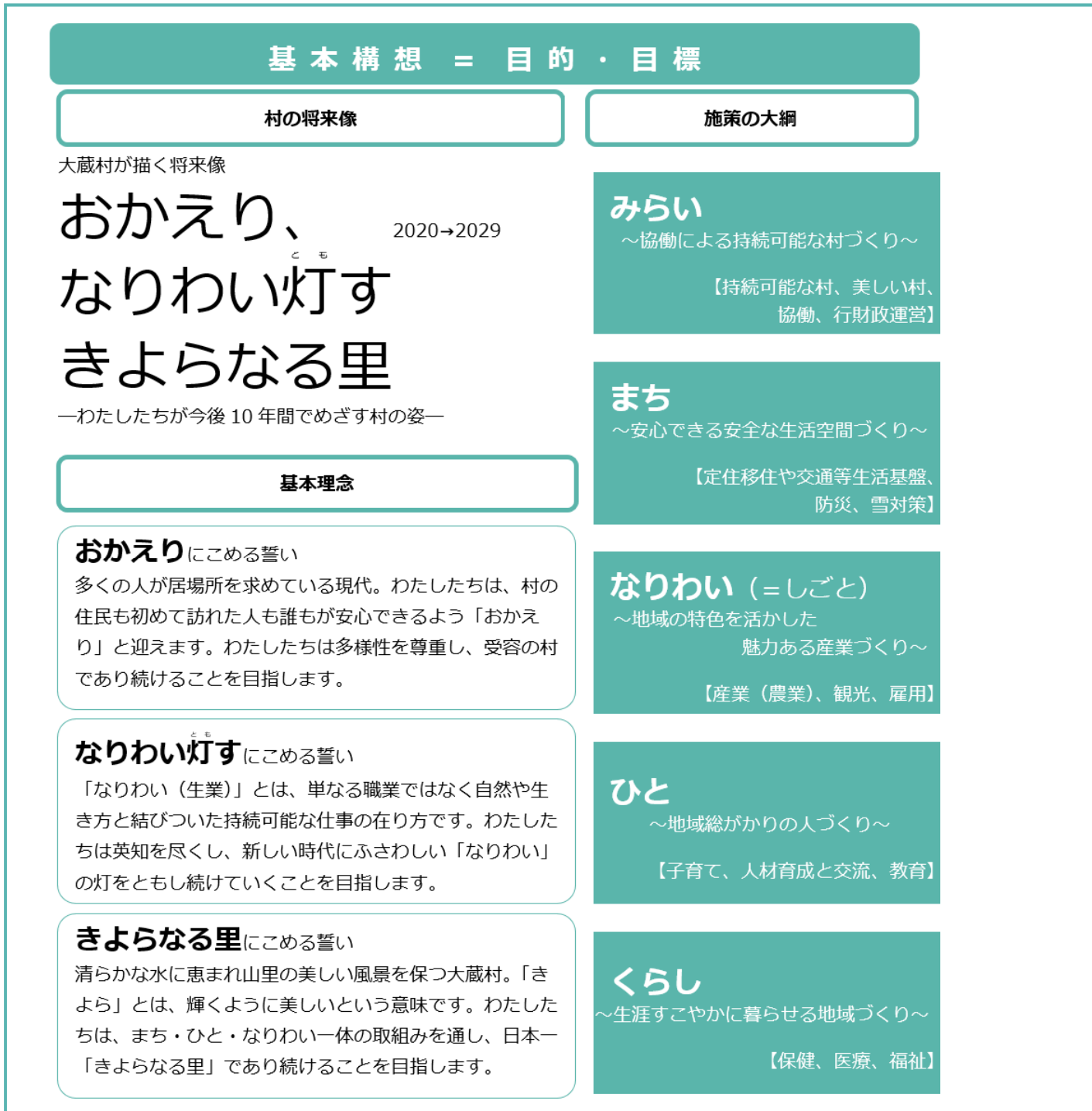
第4次

大蔵村総合計画

第2編
基本構想
と
基本計画

基本構想・基本計画体系図

○総合計画は、村の目標を示した基本構想と、目標を実現するための基本計画



○将来像の実現に向けて、分野ごとに5つの施策の柱（=施策の大綱）をおき

○取組みを推進するにあたっては施策の大綱の【】の分野に関連し「～●～」

○5つの大綱ごとに、4つのプロジェクト（基本計画）が定められています

から構成されています。

基本計画 = 手段

基本計画

1. 未来へ続く美しい暮らしプロジェクト
2. 歴史と文化をつなぐプロジェクト
3. 協働の村づくりプロジェクト
4. 持続可能な行財政運営プロジェクト

1. 定住・安住・移住促進プロジェクト
2. 雪につよい暮らしの確保プロジェクト
3. 防災力・防犯力向上プロジェクト
4. 広域連携の地域づくりプロジェクト

1. 持続可能な農業経営確立プロジェクト
2. 地域の特色ある観光産業振興プロジェクト
3. 地域ぐるみの活力向上支援プロジェクト
4. 多様な働き方支援プロジェクト

1. 保育・学校教育充実プロジェクト
2. 生涯学べる環境づくりプロジェクト
3. 地域ぐるみで子育て環境づくりプロジェクト
4. 交流で育む人づくりプロジェクト

1. 豊かな幸齢（高齢）社会へ向けた支援プロジェクト
2. ノーマライゼーション推進プロジェクト
3. 健康づくり推進プロジェクト
4. 幸せに貢献する医療体制充実プロジェクト

取組みを推進していきます。
の視点を入れて取組んでいきます。
す。

第1章 基本構想

1-1. 大蔵村の将来像と基本理念

さまざまな技術革新により情報や物、人がより自由に行きかう時代、「ここにしかないもの」「ここだからこそ魅力」がいよいよ重要性を増すと考えられます。

前編での課題をふまえ、第4次大蔵村総合計画ではこの10年間でめざす村の将来像を、「おかえり、なりわい^{とも}灯す きよらなる里」としました。

この将来像は3つの基本理念を「誓い」として含んでいます。

1つ目は、多様性を尊重し、多様な人を「おかえり」という気持ちで迎え入れる受容の村であり続けることの誓い。2つ目は、自然と結びついた持続可能な仕事を「なりわい」として続けていくという誓い。3つ目は、輝くように美しい「きよらなる里」であり続けるという誓いです。どこかの誰かをたよるのではなく、自分たちが主体的にすすめていくのだという意志を表す「誓い」です。

1つの将来像を5つの施策の柱が支え、柱ごとの4つのプロジェクト（基本計画）、合せて59の事業と280の取組みをもって実現を目指していきます。

<図> 計画の全体像



1-2. 施策の大綱

村の将来像を実現するため5つの施策の柱を設定しました。

1. みらい～協働による持続可能な村づくり～

関連分野【持続可能な村、美しい村、協働、行財政運営】

本村は「日本で最も美しい村」連合に加盟し、暮らしやなりわいと不可分な美しい景観の保全に努めてきました。この取組みは村民の自発があつてこそ成り立つものです。村民と行政の協働の取組みで今後も持続可能な村づくりを進めます。

2. まち～安心できる安全な生活空間づくり～

関連分野【定住移住や交通等生活基盤、防災、雪対策】

本村は、美しくかつ厳しい自然条件の下にあります。だれもが安心して暮らし続けることができるように、お互いに支え合う地域のつながりをつくと同時に近隣の市町村と連携し、環境整備とともに地域の防災力を高めます。

3. なりわい(=しごと)

～地域の特色を活かした魅力ある産業づくり～

関連分野【産業（農業）、観光、雇用】

本村においては基幹産業である農業・観光が、多くの方が安心して働ける場や関係人口の創出等に大きく関係しています。単なる労働ではなく、「なりわい」たり得る魅力ある農業、観光業の発展に取り組めます。

4. ひと～地域総がかりの人づくり～

関連分野【子育て、人材育成と交流、教育】

少子化の時代にあつて、村の活力を維持し活性化していくためには、未来を担う子ども達を安心して生み育てる環境づくりはもちろん、おとなが生き生きと暮らすことが大切です。生涯を通じた人育てに、地域総がかりで取り組めます。

5. 暮らし～生涯すこやかに暮らせる地域づくり～

関連分野【保健、医療、福祉】

本村は高齢者の割合が34%を超え、超高齢社会となっています。高齢者にもさらに元気に長く活躍してもらえよう社会参画や地域活動に対する支援を充実させるとともに、心身ともにすこやかな生活を送るための取組みを進めます。

第2章 基本計画

～大蔵村まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）～

2-1. 施策の大綱1

みらい～協働による持続可能な村づくり～

関連分野【持続可能な村、美しい村、協働、行財政運営】

施策の大綱1は、協働による持続可能な村づくりをめざす取組みの柱です。

(1) 大綱を支える4つのプロジェクト

1. 未来へ続く美しい暮らしプロジェクト
2. 歴史と文化をつなぐプロジェクト
3. 協働の村づくりプロジェクト
4. 持続可能な行財政運営プロジェクト

(2) 各プロジェクトの概要

1. 未来へ続く美しい暮らしプロジェクト

「美しい村づくり」と関連して、景観の保全や交流の促進を図ります。特に将来像にも掲げた「おかえり」を体現する風土づくり、原動力となる目的意識の共有に力を入れていきます。また循環型社会を目指し、ゴミの減量化とリサイクルの推進、クリーンエネルギーへの転換を図ります。

2. 歴史と文化をつなぐプロジェクト

本村に残る歴史や遺跡、文化の保存、継承につとめます。また芸術文化に関する生涯学習プログラムの充実を図ります。

3. 協働の村づくりプロジェクト

村民参画の促進を目指し、NPO 団体など住民が主役となる地域団体の育成を図ります。また地域づくりリーダーの育成や、地域活性化推進事業を通じて、地域が自ら育つ環境づくりを支援します。

4. 持続可能な行財政運営プロジェクト

持続可能な行政運営を目指し、職員の技能研修など対応力の向上につとめるとともに、更なる財政の健全化に努めます。

(3) 数値目標

施策の大綱1の分野では7項目の数値目標を設定しています。

No	数値目標	KPI			関連 施策
	内容	目標値	基準値	(単位)	
1	ゴミの資源化率（リサイクル率）	10.6	7.8	%	5
2	NPO団体数	2	1	団体	10
3	地域活性化推進事業活用数	15	13	地区・団体	11
4	各種審議会・委員会女性登用率	30	11.7	%	11
5	山形県市町村職員研修参加者数	20	19	人/年	13
6	将来負担比率	0未満	0未満	%	14
7	実質公債費比率	10.0未満	8.1	%	14

※目標値はR6年度

(4) 施策一覧


4つのプロジェクトに全14の事業、47の取組みを設定しています。特に、すべてのプロジェクトの根底にあり、取組みへの基本姿勢でもある「協働の村づくり」を推進します。

基本計画	施策	NO
未来へ続く美しい暮らし プロジェクト	交流と連携の促進事業	1
	景観保全事業	2
	目的共有化事業	3
	「おかえり」の体制づくり事業	4
	資源循環型社会推進事業	5
	有機・減農薬栽培などによる食の安全「美しい食」の推進事業	6
歴史と文化をつなぐ プロジェクト	芸術文化振興事業	7
	歴史・文化財保護事業	8
	伝統芸能保存継承事業	9
協働の村づくりプロジェクト	村民参画支援事業	10
	地域づくり支援事業	11
持続可能な行財政運営 プロジェクト	効率的な行財政推進事業	12
	効果的な行財政検討事業	13
	持続可能な行財政運営構築事業	14



各施策の主な取組みを次頁以降で紹介します。

(5) 施策の詳細

(例) ●●プロジェクト

<p>NO 施策名●●事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業で主に何をするか 	<p>SDGs 関連項目</p> 	<p>数値目標 総合戦略 関連項目</p>
--	--	-------------------------------

未来へ続く美しい暮らしプロジェクト



<p>1. 交流と連携の促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「日本で最も美しい村」連合加盟町村や全国棚田（千枚田）サミット開催を通し、加盟自治体との交流、連携を進める ●四ヶ村の棚田などの景観を活用した交流人口の拡大を図る 		
<p>2. 景観保全事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●特有の風景である肘折温泉郷などの街並を保全する ●「きよらなる里」山の風景である四ヶ村の棚田を保全する ●棚田周辺や月山、葉山等景観を楽しめる展望スポットを整備する 		
<p>3. 目的共有化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●施策の実効性を高めるためには目的の理解と共有が不可欠であり、美しい村条例の周知等啓発活動を徹底する ●「この風景が価値あるものである」と気づく、村民の景観に対する意識を醸成する 		
<p>4. 「おかえり」の体制づくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「ただいま」と、ほっとできるような風景をつくる美化・緑化活動を推進する ●勉強会等を開催し、インバウンドも意識した「もてなしのスキルアップ」を通し、もてなしの心を醸成する 		
<p>5. 資源循環型社会推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小水力発電等クリーンエネルギーへの転換を推進する ●不法投棄防止の仕組みを検討する ●リサイクルへの取組みが他市町村に遅れているため、ゴミの減量化とあわせ強く推進する 		<p>数値目標 1</p>
<p>6. 有機・減農薬栽培などによる食の安全「美しい食」の推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大蔵村産トマト等を中心とする大蔵村「食の柱」をつくる ●生産する過程も美しい地域内循環型の食の供給を推進する 		

歴史と文化をつなぐプロジェクト

<p>7. 芸術文化振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●豊かな心の醸成を目的とし、芸術鑑賞の機会を創出する ●美しい心の醸成を目的とし、生涯学習において芸術に関するプログラムを取り入れる ●サークル等自主的な文化活動を支援する 		
--	--	--

8. 歴史・文化財保護事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 村固有の史跡・遺跡の調査を行い保護保存に努める ● 肘折こけしなど伝統工芸品のPRや保存に努める 		
9. 伝統芸能保存継承事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 動画の利用等も検討し伝統芸能の保存・次世代継承に努める ● 交流人口の活用等も検討しながら、肘折さんげさんげなど伝統行事の保存継承に努める 		

協働の村づくりプロジェクト

10. 村民参画支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 村民と行政の協働の村づくりの情報共有のため、インターネットを活用した「見える化」の仕組みをつくる ● 村づくりへの村民参画を進め、地区座談会などの充実を図る ● 自主的に行われている活動が継続していけるようNPOなど地域団体の育成と連携を推進する 		数値目標 2
11. 地域づくり支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 自主的な地域づくりを目的とし、地域活性化推進事業を継続する ● 各種審議会等委員への女性登用率をふやし、女性も活躍する地域づくりリーダーの育成を推進する 		数値目標 3.4

持続可能な行財政運営プロジェクト

12. 効率的な行財政推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 事業の優先性・重要性を検討し効率化を図る ● 国が推進する「Society5.0」をかんがみ先端技術の活用による省力化や最適化の可能性を検討する 		
13. 効果的な行財政検討事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 職員のスキル向上を目指し、研鑽の機会をつくる ● 施策の効果的な展開を目的とし産官学の連携、民間活力の導入を推進する 		数値目標 5
14. 持続可能な行財政運営構築事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設等を適正に配置・管理する ● 持続可能な行財政運営を維持する 		数値目標 6.7

2-2. 施策の大綱2

まち～安心できる安全な生活空間づくり～

関連分野【定住移住や交通等生活基盤、防災、雪対策】

大綱2は、施設や設備等村の基本的な安全性を確保し、たとえ災害等がおきたとしても再び立ち上がる力（レジリエンス）を育て、安心して暮らせる生活空間の形成をめざす取組みの柱です。安全はモノがつくりますが、安心はヒトがつくれます。

(1) 大綱を支える4つのプロジェクト

1. 定住・安住・移住促進プロジェクト
2. 雪につよい暮らしの確保プロジェクト
3. 防災力・防犯力向上プロジェクト
4. 広域連携の地域づくりプロジェクト

(2) 各プロジェクトの概要

1. 定住・安住・移住促進プロジェクト

人口減少が進むなか社会減をいかに食い止めるかが課題です。住み続けたい、住んでみたい村であるために、平凡に見えたとしても重要な「住まう」に関する安全と安心を整えていきます。

2. 雪につよい暮らしの確保プロジェクト

日本有数の豪雪地帯の本村だからこそ、日本で最も雪とのおつきあいに長けた村づくりをすすめます。除雪等に関わる担い手の育成、民間との連携等を図る他、雪の活用にも取り組めます。

3. 防災力・防犯力向上プロジェクト

自然災害が頻発するなか、公によらない自助共助がこれまで以上に求められています。多くの急峻な地形を有する本村では、地域はもちろん住民一人ひとりの防災力向上を目指します。

4. 広域連携の地域づくりプロジェクト

人口減少が進むなか自治体単体ではなく、近隣の市町村と連携することが施設やサービスの維持、向上に大きく関わってきます。本村のつよみを認識しながら様々な分野で近隣市町村との連携、協力を推進します。

(3) 数値目標

施策の大綱2の分野では6項目の数値目標を設定しています。

No	数値目標	KPI			関連 施策
	内容	目標値	基準値	(単位)	
8	移住相談件数	10	5	人	大綱2
9	# (ハッシュタグ) 大蔵村の数	5,000	2,700	件	19
10	水洗化率	76	73.9	%	21
11	くらしボランティア登録数 (除雪)	25	21	人	23
12	自主防災組織防災訓練実施件数	5	0	地区・団体	26
13	交通事故死亡ゼロ連続日数	8,000	6,800	日	27

■ # (ハッシュタグ) = SNS で検索に使われるもの

※目標値は R6 年度

(4) 施策一覧


4つのプロジェクトに全15の事業、58の取組みを設定しています。大きな災害が全国で発生している中、特に「防災力・防犯力向上」につとめます。中でも地域レジリエンスの向上には、普段からの地域のつながりが大きな力を発揮します。

基本計画	施策	NO
定住・安住・移住促進 プロジェクト	住みやすい住環境整備事業	15
	つながりの機会創出事業	16
	空き家予防対策・活用推進事業	17
	交通ネットワーク形成事業	18
	IT活用事業	19
	安全な水道水供給事業	20
	下水道等整備事業	21
雪につよい暮らしの確保 プロジェクト	日本一雪に強い村づくり事業	22
	雪処理対策充実事業	23
防災力・防犯力向上 プロジェクト	自然災害対策事業	24
	消防・救急体制充実事業	25
	地域レジリエンス向上事業	26
	交通安全・防犯環境整備事業	27
広域連携の地域づくり プロジェクト	広域連携による体制拡充事業	28
	広域連携による地域の魅力づくり事業	29

各施策の主な取組みを次頁以降で紹介します。

(5) 施策の詳細

(例) ●●プロジェクト

NO 施策名●●事業	SDGs 関連項目	数値目標
●事業で主に何をするか		

定住・安住・移住促進プロジェクト



15. 住みやすい住環境整備事業		
<ul style="list-style-type: none"> ●ハードだけではなくソフト面でも何が住みやすさに貢献するのか、ニーズ調査を行う ●公園や自然環境の利活用を通じ、やすらぎ空間の醸成を図る 		
16. つながりの機会創出事業		
<ul style="list-style-type: none"> ●近隣市町村住民や移住者と村民の交流を図り、担い手の育成につなげる ●地域間交流や異業種間交流などのつながりの場づくりを支援する 		
17. 空き家予防対策・活用推進事業		
<ul style="list-style-type: none"> ●本村では一冬住まないことが家に大きなダメージを与えるため、事前相談等空き家予防の対策を推進する ●空き家バンクの充実を図り、空き家の利活用を推進する 		
18. 交通ネットワーク形成事業		
<ul style="list-style-type: none"> ●新庄市との交通、村内の交通確保のため整備促進を図る ●自動運転の視察等新交通システムを検討し、村営バスのより効果的・効率的な運用を検討する 		
19. IT 利活用事業		数値目標 9
<ul style="list-style-type: none"> ●観光や移住につながるよう SNS 等を活用し村の魅力発信に努める ※数値目標に検索につかわれる「# (ハッシュタグ) 大蔵村」を設定。本村で発信したものの他、旅行者が自主的につけたタグも含む		
20. 安全な水道水供給事業		
<ul style="list-style-type: none"> ●上水道施設の老朽化・耐震化対策を推進する ●広域連携を推進し、経営の安定化を図る 		
21. 下水道等整備事業		数値目標 10
<ul style="list-style-type: none"> ●合併処理浄化槽の普及率が 50%程度であり、整備を推進する ●下水道への接続世帯を増やし水洗化率を向上させる 		

雪につよい暮らしの確保プロジェクト

22. 日本一雪に強い村づくり事業		
<ul style="list-style-type: none"> ●道路等除排雪サービスのレベルを維持するため、除雪機械オペレーターの育成を推進する 		
23 雪処理対策充実事業		数値目標 11
<ul style="list-style-type: none"> ●雪処理施設を整備し、雪に強く住みやすい環境を整備する ●要支援者が冬期間に安心して生活できる体制を整える 		

●日本有数の豪雪を利用し雪室の活用を促進する		
------------------------	--	--

防災力・防犯力向上プロジェクト

24. 自然災害対策事業 <ul style="list-style-type: none"> ●公共施設や住宅の耐震化を推進する ●河川改修や地すべり予防等基盤整備を促進する 		
25. 消防・救急体制充実事業 <ul style="list-style-type: none"> ●限られた消防団員数での効果的な組織編成を検討するとともに、人員確保に努める ●現在8市町村で運用している最上広域消防の充実を図る 		
26. 地域レジリエンス向上事業 <ul style="list-style-type: none"> ●想定外の災害が増えており、風水害震災関係の避難体制を強化する ●1次避難場所から安全な場所への避難体制を確立する ●住民一人ひとりが「自分の命は自分で守る」力をつけることを目的とし、地域研修と訓練を行う 		数値目標 12
27. 交通安全・防犯環境整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ●子どもや高齢者を地域で見守るという意識で、防犯体制を強化する ●マイカーが交通の主要手段である暮らしだからこそ、交通事故の軽減につとめ、交通安全教育を行う 		数値目標 13

広域連携の地域づくりプロジェクト

28. 広域連携による体制拡充事業 <ul style="list-style-type: none"> ●生活利便性向上とサービス維持のため、公共施設の共同利用を推進する ●一次医療と高度医療の連携のように、新庄市を中心とした近隣市町村と福祉・医療面での連携を強化する 		
29. 広域連携による地域の魅力づくり事業 <ul style="list-style-type: none"> ●オリンピックを機とした国のインバウンド拡充や、県の「道の駅」充実の動きと連携し、最上圏のなかの大蔵村として魅力発揮に努める ●連携の前提として、ヒトの交流を推進する 		

2-3. 施策の大綱 3

なりわい(=しごと)

～地域の特色を活かした魅力ある産業づくり～

関連分野【産業（農業）、観光、雇用】

大綱3は、農業や観光など本村特有の「なりわい」を盛り上げ、未来につなぎ、人の交流を生むための取組みの柱です。「美しい村」としての本村の風景は、本村のなりわいがあればこそです。

(1) 大綱を支える4つのプロジェクト

1. 持続可能な農業経営確立プロジェクト
2. 地域の特色ある観光産業振興プロジェクト
3. 地域ぐるみの活力向上支援プロジェクト
4. 多様な働き方支援プロジェクト

(2) 各プロジェクトの概要

1. 持続可能な農業経営確立プロジェクト

村の基幹産業である農業を今後も持続させるために、意欲のある担い手を育成していきます。その担い手が稼げる農業を実現させるため、適地適作、作物のブランド化、スマート農業を推進していきます。

2. 地域の特色ある観光産業振興プロジェクト

肘折温泉郷を中心とした歴史ある観光資源を最大限に活用し、旅行客も「おかえり」という気持ちで迎え入れる受容の村として、おもてなしの醸成を図ります。湯治や体験型商品を拡充し、滞在型観光を推進します。

3. 地域ぐるみの活力向上支援プロジェクト

イベントなどの観光情報が容易に入手できる仕組みをつくり、効果的なプロモーションを展開します。地域内外の多様な人材・機関と連携し、活力ある商工業の育成を目指します。

4. 多様な働き方支援プロジェクト

暮らしの基盤である就労の場の確保に努めるとともに、若者や高齢者、障がい者や子育て中の人など、すべての村民が安心して働ける環境づくりを推進します。

(3) 数値目標

施策の大綱3の分野では10項目の数値目標を設定しています。

No	数値目標	KPI			関連 施策
	内容	目標値	基準値	(単位)	
14	農業生産・集落営農法人数	10	7	団体	31
15	新規就農者数 (R2-R6)	6	(H28-R1)6	人	31
16	ふるさと納税返礼品登録数	75	60	商品	32
17	観光客数	85,000	76,315	人	34
18	インバウンド外国人旅行客数	500	419	人/年	34
19	着地型・体験型旅行商品数	23	20	商品	34
20	湯の里ひじおり倶楽部会員数	1,400	1,200	人	34
21	雪を活かしたイベント数	8	7	回	35
22	キャッシュレス決済導入割合	28	21	%	37
23	雇用促進補助事業による資格取得者	10	9	人/年	38

※目標値は R6 年度

(4) 施策一覧

4つのプロジェクトに全10の事業、84の取組みを設定しています。なりわいは暮らしの基盤となる分野であり、美しく、かつ稼げる農業・観光を目指してブランド力を磨きます。その前提となるのは性別年齢問わずの働き方改革です。

基本計画	施策	NO
持続可能な農業経営確立 プロジェクト	適地適作による農業振興事業	30
	生産体制の強化と担い手育成事業	31
	生産物ブランド化推進事業	32
	循環型農林畜産業への取組み事業	33
地域の特色ある観光産業振興 プロジェクト	観光拠点としての基盤づくり事業	34
	地域資源活用検討事業	35
地域ぐるみの活力向上支援 プロジェクト	にぎわいづくり事業	36
	商工業への支援事業	37
多様な働き方支援 プロジェクト	雇用創出事業	38
	安心して働ける環境づくり支援事業	39

各施策の主な取組みを次頁以降で紹介します。

(5) 施策の詳細

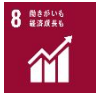
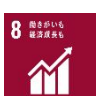
(例) ●●プロジェクト		
NO 施策名●●事業	SDGs 関連項目	数値目標
●事業で主に何をするか		
持続可能な農業経営確立プロジェクト		
30. 適地適作による農業振興事業 <ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な農業確立を目的とし、戦略的周年農業や、施設園芸等適地適作による農業を推進する ●遊休農地を活用し、飼料米作付け等転作を推進する ●山菜農園等、農業だけではなく観光と結びついた振興策を推進する 	 	
31. 生産体制の強化と担い手育成事業 <ul style="list-style-type: none"> ●人口減少社会の農業生産体制の変化に対応することを目的とし、法人化や集落営農の形成を推進する ●農作物（大蔵米、棚田米、トマト等）のブランド力向上を目指し、担い手の技術指導や経営指導を行う ●本村に適した形でのスマート農業導入を目的とし、若手の研修派遣等育成を行う 	 	数値目標 14.15
32. 生産物ブランド化推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ●大蔵米、大蔵村産トマト、最上ねぎなどブランド力向上を目指し、品質向上を進めるとともに農産物の6次産業化に取り組む ●農業体験等をとおり、交流型農業をすすめ観光に結びつく事業を推進する ●ふるさと納税返礼品の充実や通信販売等、インターネットによる利益獲得と魅力発信を推進する ●学校給食や旅館での地産地消等、足元から大蔵農産物のファンを増やす 		数値目標 16
33. 循環型農林畜産業への取組み事業 <ul style="list-style-type: none"> ●循環型農業を目指し畜産業と農業の連携を図る ●豊富な森林資源の活用を検討する 		
地域の特色ある観光産業振興プロジェクト		
34. 観光拠点としての基盤づくり事業 <ul style="list-style-type: none"> ●外国人旅行者が増加するなか、日本のふるさととしてだけでなく、「世界の日本のふるさと」として、本村のブランディングを推進する ●肘折温泉「街」としてのまとまりのある魅力向上に努める ●旅行スタイルの変化に対応し、もてなし力の向上を推進する ●四ヶ村の棚田や山菜採りなど、本村のなりわいと結びついた着地型・体験型旅行商品を拡充する ●山形空港からのアクセス等、二次交通の整備を促進する 		数値目標 17.18. 19.20

35. 地域資源活用検討事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 棚田、月山・葉山、水辺など景観資源の活用を推進する ● 交流人口、関係人口の活用による棚田の保存を検討する ● 雪を活かしたイベント等、雪が多いことをメリットとする観光施策を推進する 		数値目標 21
---	--	------------

地域ぐるみの活力向上支援プロジェクト

36. にぎわいづくり事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 交流人口、関係人口の拡大はもちろん村民がここでの暮らしを楽しむ、交流することを目的とし、イベントや行事の充実を図る ● 旅行スタイル、旅行者層の変化やニーズに対応した情報発信体制をつくる ● 清水地区等中心部にもにぎわいを生むことを目的とし、中心部の魅力づくりやイベント等での人の滞留・交流を推進する 		
37. 商工業への支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ● IoT 導入の視察や研修等、若手経営者の育成を支援する ● 小規模事業者の後継者が減少しており、運営等支援する 		数値目標 22

多様な働き方支援プロジェクト

38. 雇用創出事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 農業と観光を軸として、新たな「なりわい」たり得る仕事の創出や担い手の育成を支援する ● 高齢化が進み健康寿命も伸びるなか、豊かな経験を有する高齢者に第2ステージの働き手となってもらえるよう支援する 		数値目標 23
39. 安心して働ける環境づくり支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ● UI ターン者が安心して働くことができるよう、奨学金返還も含めた支援を行う ● 仕事に就く女性が安心して暮らすことができるよう、環境・制度面から支援する ● 人口減少が進み、働き手が不足することから、子育てや介護をしている家庭を地域まるごとで支援する仕事場づくりを進める 		

2-4. 施策の大綱4

ひと～地域総がかりの人づくり～

関連分野【子育て、人材育成と交流、教育】

大綱4は、人が生涯を通して自ら学ぶため、また国際人として通用し、地域に貢献する人材を育成するための取組みの柱です。「まち」も「なりわい」も村の宝ですが、なによりの宝は「ひと」です。

(1) 大綱を支える4つのプロジェクト

1. 保育・学校教育充実プロジェクト
2. 生涯学べる環境づくりプロジェクト
3. 地域ぐるみで子育て環境づくりプロジェクト
4. 交流で育む人づくりプロジェクト

(2) 各プロジェクトの概要

1. 保育・学校教育充実プロジェクト

本村の明日を担う人材を育成するため、確かな学力を身につけるのはもちろんのこと、これからの時代を生きていくための豊かな心や柔軟な発想、創造性を育てていく保育・教育を推進します。

2. 生涯学べる環境づくりプロジェクト

学校・家庭・地域の連携を強化し、地域全体で子どもを育てていきます。大人になっても、いつでもどこでも学べる環境づくりを推進します。

3. 地域ぐるみで子育て環境づくりプロジェクト

出産・子育ての負担を軽減し、子どもたちが健やかで安全に成長できるよう、地域ぐるみの子育て支援を推進します。

4. 交流で育む人づくりプロジェクト

地域間交流や国際交流、研修をとおり、多様性を理解し、国際的な人材を育成していきます。

(3) 数値目標

施策の大綱4の分野では3項目の数値目標を設定しています。

No	数値目標	KPI			関連 施策
	内容	目標値	基準値	(単位)	
24	年少人口(0~14歳)	370	362	人	大綱4
25	図書室利用者数	130	111	人/年	43
26	学童保育児童利用者数	42	39.3	%	46

※目標値はR6年度

数値目標24は大綱4全体にかかる目標として設定しました。本村では移住施策が効を奏し、子育て支援住宅に子育て世代のUターン・移住がありました。今後ますます核家族化がすすみ、また、新たな家族のかたちや出産・子育ての増加が考えられます。本村では合計特殊出生率が増加傾向にあります。それを1つの宝としながら、子どもが健やかに育つ、子育てしやすい環境づくりをすすめます。

(4) 施策一覧


4つのプロジェクトに全9の事業、40の取組みを設定しています。学ぶ環境づくりはもちろん、子どもを地域の宝として、地域ぐるみで子育て・人育てに尽力します。

基本計画	施策	NO
保育・学校教育充実 プロジェクト	初等中等教育充実事業	40
	学ぶ環境整備事業	41
生涯学べる環境づくり プロジェクト	生涯学習活動支援事業	42
	生涯学習施設充実事業	43
地域ぐるみで子育て環境づくり プロジェクト	出産支援事業	44
	子どもの安全と成長支援事業	45
	子育て支援事業	46
交流で育む人づくり プロジェクト	地域間交流の促進事業	47
	国際交流の人材育成事業	48


各施策の主な取組みを次頁以降で紹介します。

(5) 施策の詳細

(例) ●●プロジェクト

NO 施策名●●事業	SDGs 関連項目	数値目標
●事業で主に何をするか		

保育・学校教育充実プロジェクト

40. 初等中等教育充実事業 <ul style="list-style-type: none"> ●新学習指導要領に沿って、生きる力、学ぶ力を育む教育を推進する ●外国語、国際教育を推進する ●地産地消を進め、村の食を中心とした食育を推進する ●保小中の連携による教育を推進し指導力を高めるとともに、社会性の育成を行う 		
41. 学ぶ環境整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ●特色のある学ぶ環境づくりのため、学校独自の取組みを支援する「元気な学校づくり」を推進する 		

生涯学べる環境づくりプロジェクト


42. 生涯学習活動支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ●サークル活動の立ち上げ、活動継続のための情報提供を行う ●子育て支援や防災など、機能や目的ごとに団体の強化を行う ●松の実塾など、学校・家庭・地域の連携による体験学習を継続する 		
43. 生涯学習施設充実事業 <ul style="list-style-type: none"> ●図書室の利便性向上を目的として、機能強化や蔵書充実を図る ●生涯学習の拠点として、利用しやすい環境づくりを行う ●耐震化など施設改修を推進する 		数値目標 25

地域ぐるみで子育て環境づくりプロジェクト

44. 出産支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ●出産にかかる負担軽減のため、祝い金支給等支援を行う 		
45. 子どもの安全と成長支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ●人口減少により保育所の維持が困難なところもあるなか、保育所の維持運営につとめ、保護者の就労等に合わせた各種サービスの充実を図る ●学童等、放課後時間や見守り当番等を維持し、地域ぐるみで「子どもの安全な時間」、「大人が安心な時間」をつくる 		数値目標 26
46. 子育て支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ●様々な支援の前提として、各種相談の充実を図り支援ニーズを把握する ●学童等放課後時間の充実と、高齢者も含めた大人の活躍を兼ねて、地域の大人が教える学びの時間を設ける 		

●家族形態の変化から子育てが孤立する傾向があるため、子育てする者同士の交流機会の充実を図る		
---	--	--

交流で育む人づくりプロジェクト

47. 地域間交流の促進事業 <ul style="list-style-type: none"> ●多様性を理解するため、地域間・異業種間など幅広い交流事業を行う ●移住の前提として、本村に足を運んでもらう、体験してもらう等の交流促進を行う 		
48. 国際交流の人材育成事業 <ul style="list-style-type: none"> ●海外研修やSDGs学習の時間を設ける等、国際交流の人材育成を行う 		

2-5. 施策の大綱 5

くらし～生涯すこやかに暮らせる地域づくり～

関連分野【保健、医療、福祉】

施策の大綱 5 は、誰もが生涯すこやかに、幸せに暮らせる地域をめざす取組みの柱です。「すこやか」とは健康状態だけでなく、心のあり方や生き方、人との関係性を含みます。

(1) 大綱を支える4つのプロジェクト

1. 豊かな幸齢（高齢）社会へ向けた支援プロジェクト
2. ノーマライゼーション推進プロジェクト
3. 健康づくり推進プロジェクト
4. 幸せに貢献する医療体制充実プロジェクト

(2) 各プロジェクトの概要

1. 豊かな幸齢（高齢）社会へ向けた支援プロジェクト

歳を重ねることには本来、経験による熟練や、人間関係の熟達など豊かな意味があります。高齢者がもつ経験値を活かしながら社会参加を促し生涯輝く人生を支援します。

2. ノーマライゼーション推進プロジェクト

高齢者、障がいの有無といった年齢や社会的少数派であること等により阻害されることがなく、生活や権利が保障された環境をつくっていくこと＝ノーマライゼーションをハード・ソフト両面から推進します。

3. 健康づくり推進プロジェクト

住み慣れたふるさとで生涯すこやかに過ごすためには健康が何より重要です。健康であることは自身の生活の質をあげ、村の財政負担の軽減につながります。普段からの健康づくりや予防の取組みを推進します。

4. 幸せに貢献する医療体制充実プロジェクト

本村は訪問看護や看取りの取組みで高い評価を得てきました。人口減少と高齢化が進む中、生涯村ですこやかに過ごしてもらえるよう、村で対応出来る初期医療の充実と高度医療の連携に取組みます。

(3) 数値目標

施策の大綱5の分野では4項目の数値目標を設定しています。

No	数値目標	KPI			関連 施策
	内容	目標値	基準値	(単位)	
27	60～79歳の有業率	56	53.9	%	大綱5
28	ふれあいサロン開催数	250	222	回	49
29	特定健康診断受診率	70	64	%	55
30	3歳児虫歯のない子の割合	94	89.4	%	55

※目標値はR6年度

数値目標27は大綱5全体にかかる目標として設定しました。本村では全体的な人口減少とあわせ高齢化率が34%を越えており、高齢者の活躍が村の活力維持に欠かせません。また個人の生活においても、役割や生きがいを持ち続けることが、すこやかに輝き続ける人生に不可欠と考えられます。

(4) 施策一覧

4つのプロジェクトに全11の事業、51の取組みを設定しています。健康づくりを基盤としながら、幸せな高齢社会の実現につとめます。


基本計画	施策	NO
豊かな幸齢(高齢)社会へ向けた 支援プロジェクト	自分らしい生き方実現支援事業	49
	地域支えあい推進事業	50
	安心できるサービス基盤の整備事業	51
ノーマライゼーション推進 プロジェクト	活動への支援事業	52
	環境改善事業	53
健康づくり推進 プロジェクト	賢い生活習慣推進事業	54
	予防対策の推進事業	55
	地域のスポーツ振興事業	56
幸せに貢献する医療体制充実 プロジェクト	地域医療充実事業	57
	高度医療と広域連携推進事業	58
	医療財政安定化事業	59

- ノーマライゼーション=normalization 直訳すると「普通にすること」。障がいの有無等の条件によらず、生活や権利が保障された環境をつくっていく考え方

各施策の主な取組みを次頁以降で紹介します。

(5) 施策の詳細


(例) ●●プロジェクト

NO 施策名●●事業 ●事業で主に何をするか	SDGs 関連項目 	数値目標
----------------------------------	---	------

豊かな幸齢（高齢）社会へ向けた支援プロジェクト

49. 自分らしい生き方実現支援事業 ●相談窓口や高齢者向け生涯学習プログラムの充実を図り、一人ひとりの生きがいや役割づくりを支援する ●社会福祉協議会と連携し、ボランティア活動を支援する		
50. 地域支えあい推進事業 ●要支援者訪問サービスや食事宅配サービス等、高齢者がひとりで暮らせる補助の仕組みを検討する ●習慣として行われてきた地域の助けあいを、誰もが参加・利用しやすい形とすることを目的とし、NPO等組織化を図る ●高齢者共同住宅のニーズ・要件等について検討する		数値目標 28
51. 安心できるサービス基盤の整備事業 ●地域包括支援センター等の専門的人材の確保に努める ●施設・設備の時代に合わせた更新を行い、維持に努める ●住宅ケアサービスを維持・継続し、介護予防と自立支援サービスの充実を図る		



ノーマライゼーション推進プロジェクト

52. 活動への支援事業 ●障がい者福祉サービスの充実を図る ●相談しやすい環境づくり等、自立や社会参加を支援する		
53. 環境改善事業 ●公共施設のバリアフリー化を推進する ●補そう具や車椅子の購入をはじめ移動環境の改善に関わる支援を行う		

ノーマライゼーション：理念・目的
 社会の主流となっている規範や形態にできるだけ近い日常生活の条件を障がい者が得られるようにすること

バリアフリー：手法
 小さな子どもや高齢者、障がい者等の社会参加を妨げている物理的、精神的な障害を取り除くために設備や制度を整える

例えば、テレビ番組に手話通訳をつける（＝コミュニケーションのバリアフリー）と耳の不自由な人も普通に番組を楽しむことができる（ノーマライゼーション）。スロープをつける（＝物理的バリアフリー）と、階段を登れない人もその場所まで普通に移動できる（ノーマライゼーション）。要するに、誰もが普通に暮らせる社会にしたいよね、ということです。

健康づくり推進プロジェクト		
54. 賢い生活習慣推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ●食育を推進し、食生活改善推進協議会の活動を支援する ●村民1人1スポーツ等運動習慣づくりを推進する ●健康に関する意識改革、啓発活動を行う 		
55. 予防対策の推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ●健康に関する教育や相談窓口を充実させる ●子どもから高齢者まで、歯の健康づくりを推進する ●誰ひとり置き去りにしない社会実現のためにも、早期の精神保健相談を推進する ●未病の段階で防ぐ、発病したとしても早期の段階で発見することを目的とし、各種検診の実施と受診を推進する 		数値目標 29.30
56. 地域のスポーツ振興事業 <ul style="list-style-type: none"> ●総合型地域スポーツクラブ等、各種スポーツ団体の育成を推進する ●運動公園や生涯学習センター等施設の利便性向上と利活用を図る 		
幸せに貢献する医療体制充実プロジェクト		
57. 地域医療充実事業 <ul style="list-style-type: none"> ●「予防医療・地域医療・看取り」に対応できる診療所の体制を維持し、人員を確保する ●診療所を中心に各機関と連携し、保健・医療・福祉が一体となった医療体制づくりを推進する ●交通弱者に対応した通院のための交通利便性の向上を図る 		
58. 高度医療と広域連携推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ●中核病院との連携により、「高度医療受診を早く簡易に」受けられる体制づくりを推進する ●高度医療へとスムーズにつなぐことを目的とした初期医療の充実を図る ●最上地区市町村との医療の相互連携を促進する 		
59. 医療財政安定化事業 <ul style="list-style-type: none"> ●国民健康保険の健全な運営を確保する ●心身ともに健康に長生きできるよう、各機関が一体となって、予防医療を充実させる 		

さいごに～みんなの計画とするために大事なこと～

たくさんの方が意見を出し、話し合いを行い、第4次大蔵村総合計画が策定されました。

総合計画審議会の最終回では、「計画を立てた」だけで終わらせないこと、行政だけでなく、子どもから大人まで多くの住民と「村が目指す姿」が共有され、お互いに協力して取組みを進めていくことが大事だという意見が出されました。

～第5回第4次大蔵村総合計画審議会より～

「みんなの計画としていくためのアイデア」

- 施策の柱にある「協働の村づくり」をすすめるには村民が計画を知ることが必要だ
- これまでの総合戦略と同様、達成状況を検証・報告する
- 簡単に要旨を把握できる概要版を作成し、全戸に配布する
- 概要版を活用し、各委員会や会合の冒頭などで、読み合わせや確認の時間を設ける
- 小学生・中学生に総合計画を伝える機会が設けられるよう検討する
- 子どもを巻き込み、親も見る・知る機会をつくる

まずは、本計画が自分と関係のあることだと気づくことが大切です。村づくりの目的を共有するために「計画をみんなで読む」「計画をみんなが知る」ことから始めましょう。

第4次

大蔵村総合計画

資料編

大綱 1 みらい～協働による持続可能な村づくり～

【持続可能な村、美しい村、協働、行財政運営】

施策 NO	施策	事業・取組み	取組 NO
未来へ続く美しい暮らしプロジェクト			
1	交流と連携の促進事業	「日本で最も美しい村」連合加盟町村との交流、連携推進	1
		景観を活用した交流人口の拡大	2
2	景観保全事業	肘折温泉郷などの街並・修景保全	3
		四ヶ村の棚田の保全	4
		棚田や月山等遠景の展望スポット整備	5
3	目的共有事業	美しい村づくり条例の周知	6
		村民の景観に対する意識醸成	7
		村への愛着醸成のため村民歌策定等の検討	8
4	「おかえり」の体制づくり事業	美化・緑化活動の推進	9
		もてなしの心の醸成	10
5	資源循環型社会推進事業	クリーンエネルギーへの転換	11
		不法投棄防止の仕組み検討	12
		ゴミの減量化とリサイクルの推進	13
		最上広域共同ゴミ処理体制の充実	14
6	有機・減農薬栽培などによる食の安全「美しい食」の推進事業	トマト等を中心とする大蔵村「食の柱」づくり	15
		食の供給・地域内循環の推進	16
歴史と文化をつなぐプロジェクト			
7	芸術文化振興事業	芸術鑑賞の機会創出	17
		大蔵村作品展の充実	18
		芸術文化協会への支援	19
		芸術文化の生涯学習プログラムの充実	20
		サークルなど自主的な文化活動の支援	21
8	歴史・文化財保護事業	指定文化財・天然記念物の保護	22
		史跡の維持整備	23
		遺跡の調査と保存	24
		既存施設を利用した歴史文化資料の保管展示	25
9	伝統芸能保存継承事業	伝統工芸品の保存	26
		合海田植え踊り、大蔵太鼓など伝統芸能の保存継承	27
		さんげさんげなどの伝統行事の保存継承	28
協働の村づくりプロジェクト			
10	村民参画支援事業	情報「見える化」の仕組みづくり	29
		地区座談会などの充実	30
		地区代表との連携	31
		NPOなど地域団体の育成と連携	32
		地域コミュニティ構築・再編の検討	33
11	地域づくり支援事業	地域主導の地域づくり計画作成体制支援	34
		地域活性化推進事業の継続	35
		最上地域交流の推進	36
		地域づくりリーダーの育成	37
持続可能な行財政運営プロジェクト			
12	効率的な行財政推進事業	組織体制及び事務事業の再編	38
		優先事業選択による効率化	39
		先端技術を取り入れた省力化の推進	40
13	効果的な行財政検討事業	職員の対応力向上	41
		情報公開の推進	42
		産官学連携の推進	43
		業務の一部民間委託等の検討	44
14	持続可能な行財政運営構築事業	公共施設等の計画的管理に向けた検討	45
		効率的な財政運営の推進	46
		財源の安定化	47

大綱2 まち～安心できる安全な生活空間づくり～

【定住移住や交通等生活基盤、防災、雪対策】

施策 NO	施策	事業・取組み	取組 NO
定住・安住・移住促進プロジェクト			
15	住みやすい住環境整備事業	二車をふまえた住環境整備	48
		子育て支援住宅等の整備	49
		戦略的な優良宅地の維持管理	50
		やすらぎ空間の醸成	51
16	つながりの機会創出事業	担い手対策の推進	52
		交流の場づくり	53
17	空き家予防対策・活用推進事業	空き家予防対策・活用の推進	54
18	交通ネットワーク形成事業	山形新幹線のスピード化促進	55
		通勤道路網・高速道路網の整備	56
		幹線村道の整備	57
		生活道路の整備	58
		道路・トンネル等インフラ長寿命化の推進	59
		村営バスの効果的、効率的運行	60
		新交通システムの検討	61
19	IT活用事業	インターネットを活用した情報発信	62
20	安全な水道水供給事業	浄水施設の整備促進	63
		施設の耐震化と設備の更新	64
		広域連携による経営基盤整備	65
21	下水道等整備事業	合併処理浄化槽の整備促進	66
		水洗化率の向上	67
		経営基盤の整備促進	68
雪につよい暮らしの確保プロジェクト			
22	日本一雪に強い村づくり事業	除排雪サービスの維持	69
		除雪機械の整備促進	70
		除雪機械オペレーターの担い手育成	71
		国県道の除排雪の徹底	72
		冬期公共交通の確保	73
23	雪処理対策充実事業	冬期の交通安全確保	74
		流雪溝の効率的な運用	75
		農業用水など流雪溝への利用促進	76
		高齢者等の要支援者への除排雪体制整備	77
		除雪ボランティアの運営支援	78
		生産施設などの雪対策支援	79
		民間会社との連携による除排雪の推進	80
		日本有数の豪雪を活用した雪室の推進	81
防災力・防犯力向上プロジェクト			
24	自然災害対策事業	住宅の耐震化の促進	82
		公共施設の耐震化	83
		砂防事業の推進	84
		地すべり対策事業の促進	85
		急傾斜地崩壊対策事業と雪崩防止事業の促進	86
		河川改修事業の促進	87
25	消防・救急体制充実事業	最上広域消防の維持	88
		消防活動の機能強化	89
		消防施設の効率的な統廃合と機能性の維持	90
		高度救急の効果的な運用検討	91
26	地域レジリエンス向上事業	防災行政無線の効果的な運用	92
		ITを活用した防災情報発信の検討	93
		旧学区ごとの避難場所の整備	94
		地区ごとの避難方法の確立	95
		自主防災組織の育成支援	96
27	交通安全・防犯環境整備事業	地域防犯対策の充実、防犯灯の維持	97
		交通安全対策・教育、啓発活動の推進	98

広域連携の地域づくりプロジェクト			
28	広域連携による体制拡充事業	最上広域市町村圏事務組合の充実	99
		新庄・最上定住自立圏形成事業の推進	100
		公共施設の共同利用の推進	101
		福祉施設や医療施設の連携推進	102
29	広域連携による地域の魅力づくり事業	特産品のブランド化に向けた連携促進	103
		広域観光、交流事業、イベントの連携	104
		住民や各種団体の交流促進	105

大綱3 なりわい(=しごと)～地域の特徴を活かした魅力ある産業づくり～

【産業(農業)、観光、雇用】

施策NO	施策	事業・取組み	取組NO
持続可能な農業経営確立プロジェクト			
30	適地適作による農業振興事業	適地適作による中山間地域農業の振興	106
		施設園芸の拡大支援	107
		山菜園などの観光農業の促進	108
		飼料米作付け等転作の促進	109
		遊休農地の利活用促進	110
		基盤整備事業の推進	111
		農地防災事業の促進	112
		生産組織体制の運営支援	113
31	生産体制の強化と担い手育成事業	栽培技術の指導支援	114
		集落営農の形成・法人化の推進	115
		新規就農者の育成	116
		技術及び経営指導の継続	117
		スマート農業の推進	118
		農業生産施設の整備支援継続	119
		周年農業作物の高品質化	120
32	生産物ブランド化推進事業	高品質な大蔵産米づくりの促進	121
		大蔵村産トマトのブランド化	122
		最上ねぎの特産化支援継続	123
		棚田米のブランド化による流通確保	124
		生産工程の組織化による農産物の6次産業化推進	125
		農業体験交流の推進	126
		通信販売など販売促進の検討	127
		交流型農業の推進	128
		SNSの活用による販売促進	129
		ふるさと納税返礼品の充実	130
		大蔵村サポーターづくり	131
		安全安心な作物の品質見える化	132
		食を語る村民の育成	133
		学校給食や旅館での地産地消促進、地域内循環の推進	134
33	循環型農林畜産業への取組み事業	循環型農業へ向けた農畜連携の促進	135
		林道の整備・木材の活用	136
		特用林産物の生産促進	137
地域の特徴ある観光産業振興プロジェクト			
34	観光拠点としての基盤づくり事業	「おかえりの村」観光戦略の検討	138
		湯治を活用した保養型温泉地づくりへの支援	139
		湯治場の風情を残す肘折温泉街の景観づくり支援	140
		地産地消による「食」の魅力向上	141
		活性化施設の魅力向上	142
		観光ガイドの育成	143
		外国人観光客の受入体制の構築	144
		東北中央自動車道等高速交通網の整備促進	145
		2次交通の整備検討	146
		国道458号粟山地区内の整備促進	147
		主要地方道戸沢大蔵線の整備促進	148
		利便性向上の移動手段の検討	149
		着地型・体験型旅行商品の拡充	150
		農業体験の受入体制づくり	151
		観光協会による観光事業の推進	152
		地域特産品開発等の支援	153
		広域観光企画の検討	154
		「もてなしの技術」醸成	155
		肘折温泉ファンづくり・拡充支援	156

35	地域資源活用検討事業	棚田の保存と活用	157
		清水城址周辺の史跡・伝統文化の活用	158
		月山・葉山などの登山道の整備	159
		巨木の活用推進	160
		雪を活用した観光施策の推進	161
		水辺の景観活用検討	162
		淡水魚養殖事業の支援・特産化の推進	163
地域ぐるみの活力向上支援プロジェクト			
36	にぎわいづくり事業	冬の観光商品開発の推進	164
		肘折温泉郷の伝統行事等の充実	165
		ひじおりの灯などイベントの支援	166
		四ヶ村棚田ほたる火コンサートの運営支援	167
		特色あるまつり・イベントの継続	168
		おおくら大産業市の拡充	169
		観光情報の発信体制づくり	170
37	商工業への支援事業	PRの充実	171
		商工会の活動支援	172
		商品券発行事業の支援	173
		独自融資制度の充実	174
		若手経営者等の人材育成支援	175
		地元産業の育成と振興	176
		企業の受入体制づくり	177
オンリーワンのものづくり	178		
多様な働き方支援プロジェクト			
38	雇用創出事業	村内産業の振興	179
		広域連携による雇用の場の創出と雇用対策	180
		地域のしごと育て・後継者・担い手育成支援	181
		高齢者の就労支援	182
39	安心して働ける環境づくり支援事業	勤労者生活安定資金制度の継続	183
		就労環境の整備	184
		UIターン者の受入支援	185
		子育て支援の充実	186
		女性の就労支援	187
		子育てしながら働ける環境づくり	188
		県や産業界等と連携した奨学金返還支援	189

大綱 4 ひと～地域総がかりの人づくり～

【子育て、人材育成と交流、教育】

施策 NO	施策	事業・取組み	取組 NO
保育・学校教育充実プロジェクト			
40	初等中等教育充実事業	新学習指導要領の実施	190
		確かな学力を身につける教育の推進	191
		学びに向かう力をつける教育の推進	192
		体育・スポーツの推進	193
		豊かな心を育む道徳教育の推進	194
		自然体験学習の推進	195
		保小中の連携による教育の推進	196
		特別支援教育の充実	197
		外国語、国際教育の充実	198
		地域に学ぶ学習の推進	199
		地産地消の食育推進	200
		41	学ぶ環境整備事業
スクールバス運行利便性の向上検討	202		
学校施設の整備促進	203		

生涯学べる環境づくりプロジェクト			
42	生涯学習活動支援事業	青少年健全育成活動の推進	204
		生涯学習活動の情報提供の充実	205
		団体、サークル活動の支援	206
		成年、女性団体の活動支援	207
		学校・家庭・地域連携事業の推進	208
43	生涯学習施設充実事業	図書室機能の充実	209
		中央公民館の施設更新	210
		生涯学習センターの施設改修	211
		生涯学習センターの利活用推進	212
地域ぐるみで子育て環境づくりプロジェクト			
44	出産支援事業	母子保健の推進	213
		お祝い支給等子育て費用負担の軽減化	214
45	子どもの安全と成長支援事業	保育所の運営支援	215
		保育所の老朽化対策検討	216
		未満児保育、学童保育の充実	217
		保育と教育の連携	218
		地域ぐるみの安全体制づくり	219
46	子育て支援事業	子育て交流機会の充実	220
		育児支援ニーズの把握	221
		母（父）子・児童福祉の充実	222
		障がい児への支援の充実	223
		育児相談の充実	224
		児童虐待の防止、早期発見対策の推進	225
交流で育む人づくりプロジェクト			
47	地域間交流の促進事業	多様性教育の推進	226
		移住の促進	227
48	国際交流の人材育成事業	海外研修事業の推進	228
		SDGs 学習プログラムの推進	229

大綱5 暮らし～生涯すこやかに暮らせる地域づくり～

【保健、医療、福祉】

施策 NO	施策	事業・取組み	取組 NO
豊かな高齢（高齢）社会へ向けた支援プロジェクト			
49	自分らしい生き方実現支援事業	一人ひとりの生きがいと役割づくり	230
		高齢者学習の充実	231
		社会福祉協会との連携	232
		ボランティア活動の支援	233
		相談窓口の充実	234
50	地域支えあい推進事業	老人クラブの育成と地域の交流促進	235
		高齢者世帯の訪問サービスの推進	236
		たすけあい文化の組織化	237
		食事宅配サービスなど高齢者自立支援の検討	238
		高齢者共同生活の仕組み検討	239
51	安心できるサービス基盤の整備事業	地域包括支援センターの人材確保	240
		保健、医療、福祉（介護）の連携強化	241
		介護予防と自立支援サービスの充実	242
		介護施設設備の更新と維持	243
		在宅ケアサービスの継続維持	244
		住宅福祉改修の支援	245
ノーマライゼーション推進プロジェクト			
52	活動への支援事業	障がい者福祉サービスの充実	246
		自立、社会参加への支援	247
53	環境改善事業	公共施設のバリアフリー化	248
		補そう具や車椅子の購入支援	249
		移動支援	250

健康づくり推進プロジェクト			
54	賢い生活習慣推進事業	食育の推進、食生活改善推進協議会の活動支援	251
		村民1人1スポーツ等運動習慣の推進	252
		保健衛生推進員、健康づくり推進員の活動支援	253
		健康意識高揚事業の推進	254
55	予防対策の推進事業	生活習慣病予防の啓発	255
		健康教室、健康相談の充実	256
		母子保健の推進と育児相談の充実	257
		子どもの歯の健康、ヘルシーティース事業の推進	258
		8020運動の推進	259
		元気高齢者づくりの推進	260
		早期の精神保健相談の推進	261
		基本健康診断（診査）の推進	262
		各種がん検診の推進	263
		診療所と連携した肺がんCT検診の推進	264
56	地域のスポーツ振興事業	総合型地域スポーツクラブ活動支援	265
		スポーツ団体の育成支援	266
		スポーツ協会と連携した事業推進	267
		生涯学習センター体育館利便性向上	268
		運動公園の利用促進	269
幸せに貢献する医療体制充実プロジェクト			
57	地域医療充実事業	「予防医療・地域医療・看取り」に対応する診療所の維持	270
		時代に適応した医療機器の更新と拡充	271
		診療所を中心とした医療・保健・福祉の連携推進	272
		学校や保育と連携した予防医療の推進	273
		通院のための交通利便性確保	274
58	高度医療と広域連携推進事業	高度医療受診を早く簡易に	275
		救急救命医療受診を早く簡易に	276
		中核病院との連携推進	277
		最上地方市町村との医療の相互連携の促進	278
59	医療財政安定化事業	国民健康保険の健全な運営確保	279
		特養等との連携、予防医療受診の確保	280

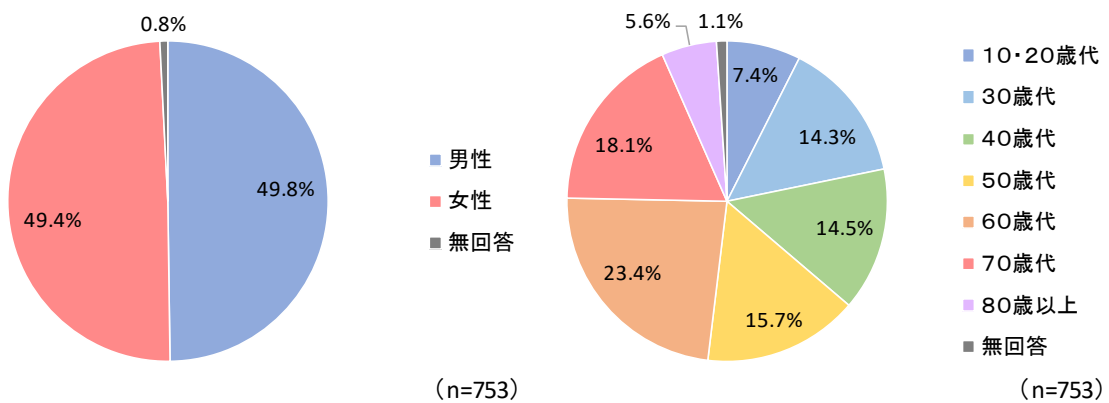
村民アンケート

平成 31 年、村民 1,500 人を対象に村政についてのアンケートを実施した。回収した 753 票の回答結果を以下に示す。

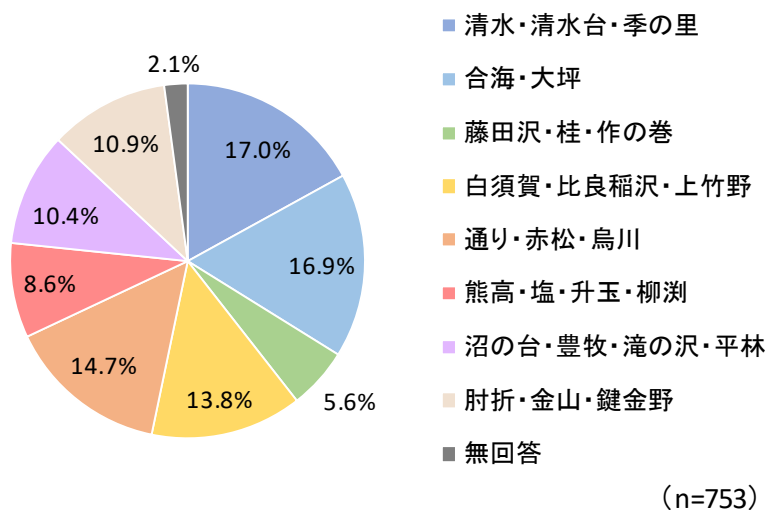
1. 回答者の属性（問 1・問 2・問 5）

（1）性別・年齢別

- 回答者は、男女約半数ずつとなっています。
- 約半数が 60 歳代以上となっているが、若い世代からも回答を得ました。



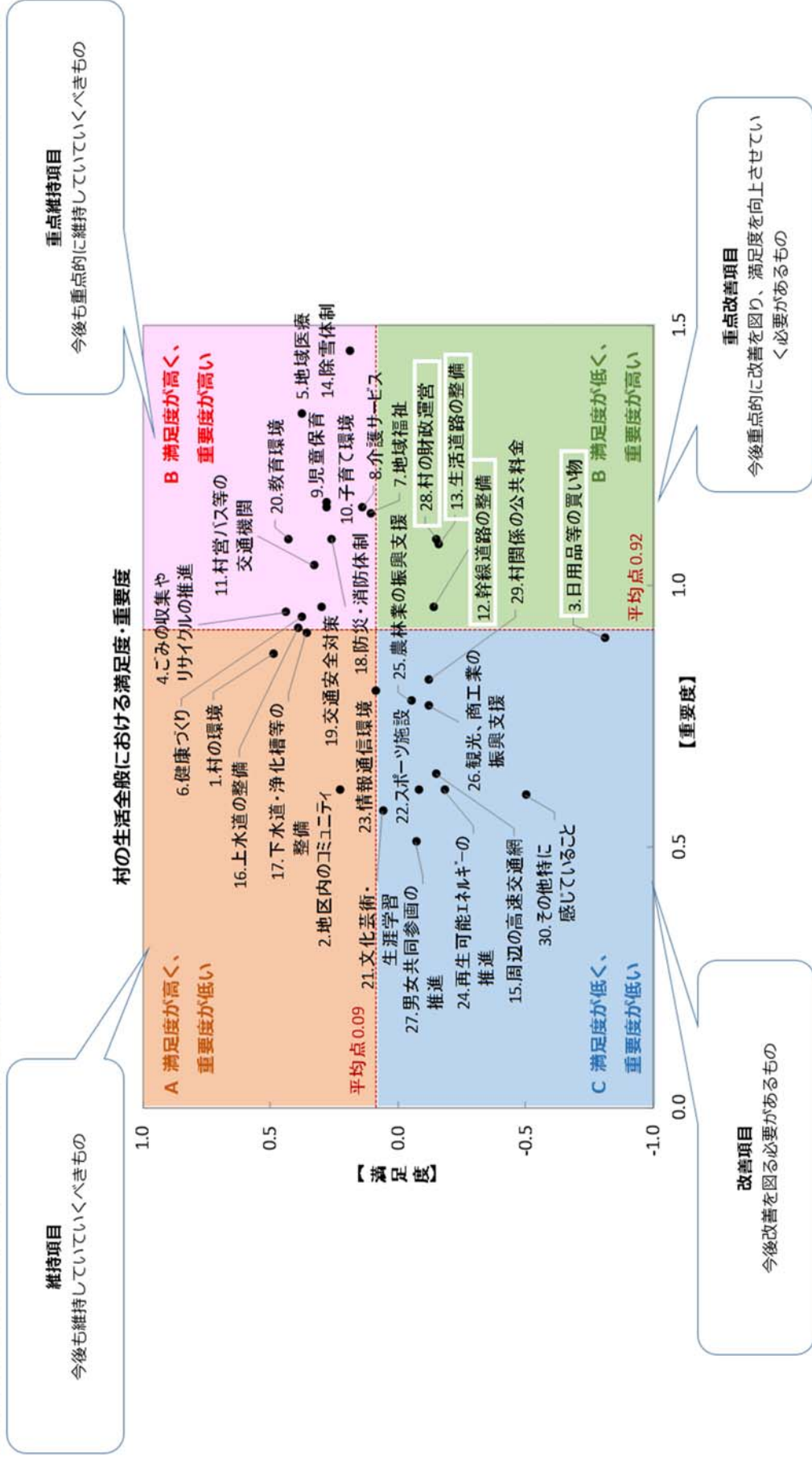
（2）地区別



3-2. 満足度と重要度 (問7・問8)

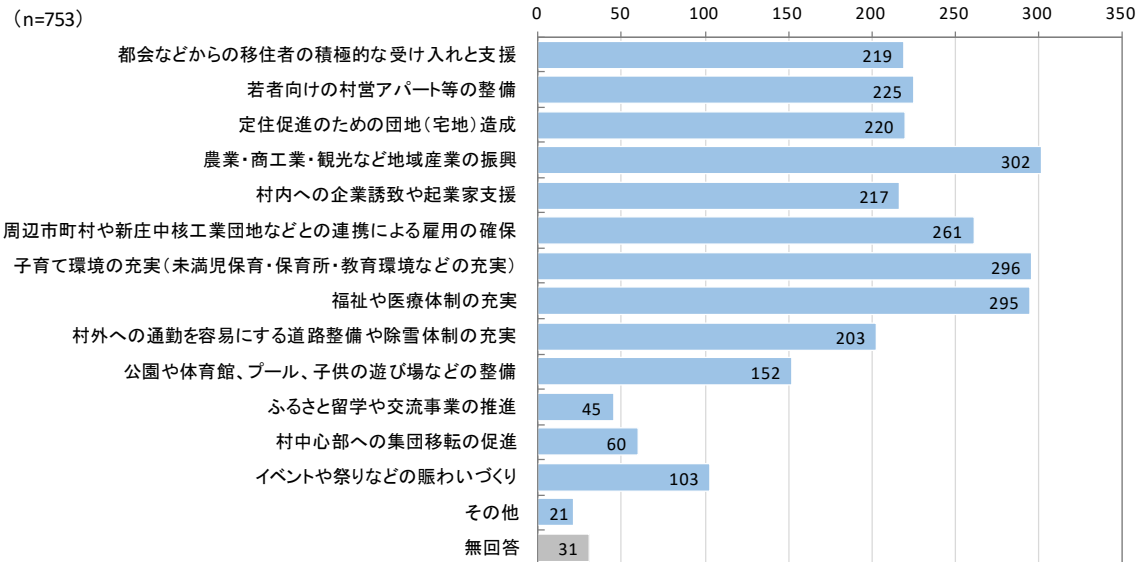
(1) 全回答

- 重要度が高いにもかかわらず、満足度が低い項目は、「村の財政運営」「生活道路の整備」「幹線道路の整備」となっています。
- 日常生活に不可欠な「日用品等の買い物」については、全項目のうち満足度は最も低い状況です。



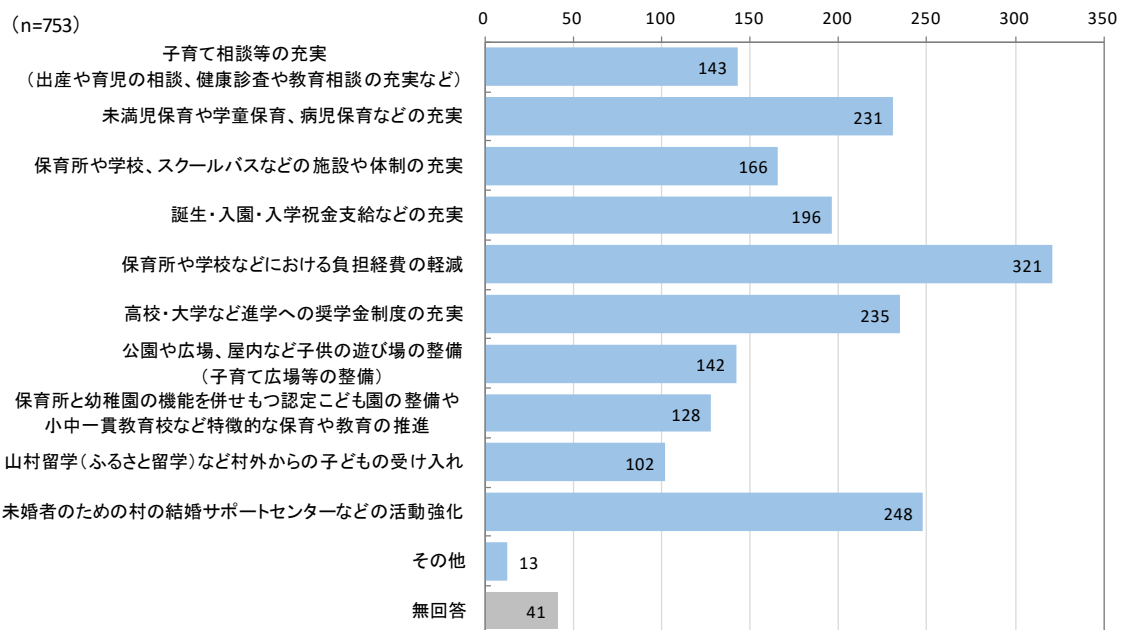
3. 人口減少対策について（問9）

- 最も多いのが「地域産業の振興」、次いで「子育て環境の充実」「福祉や医療体制の充実」「雇用の確保」が多い状況です。



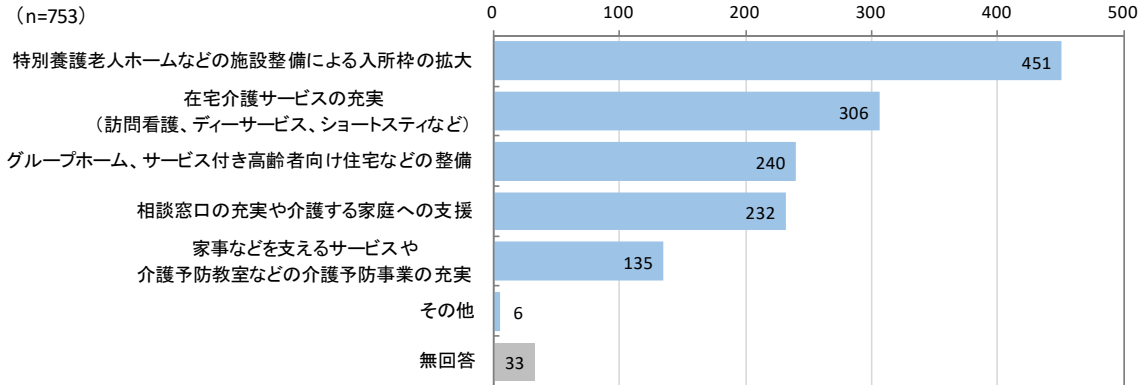
4. 少子化対策について（問10）

- 最も多いのが「負担経費の軽減」、次いで「未婚者のための活動強化」や「進学奨学金制度の充実」「保育の充実」が多い状況です。



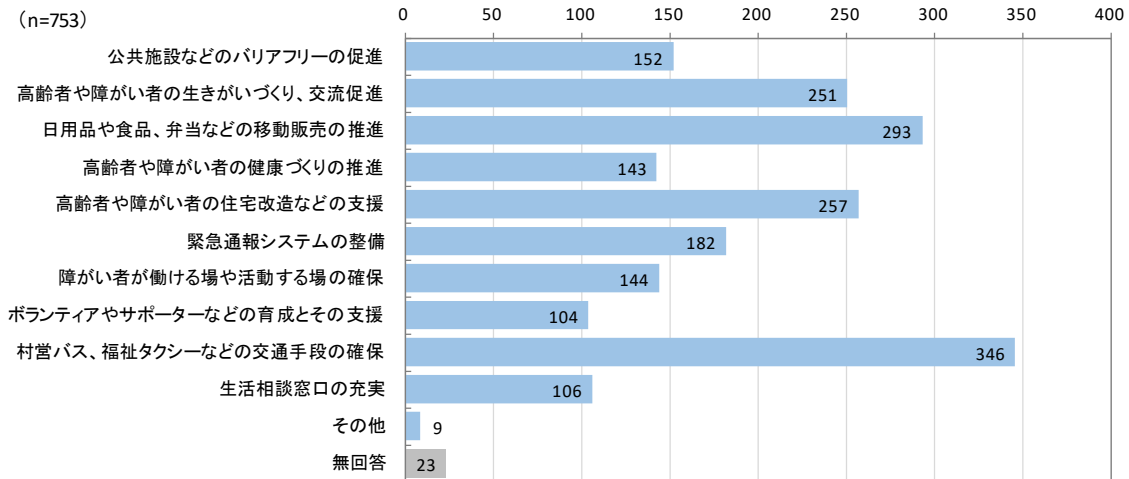
5. 介護福祉について（問 11）

- 最も多いのが「施設整備による入所枠の拡大」、次いで「在宅介護サービスの充実」が多い状況です。



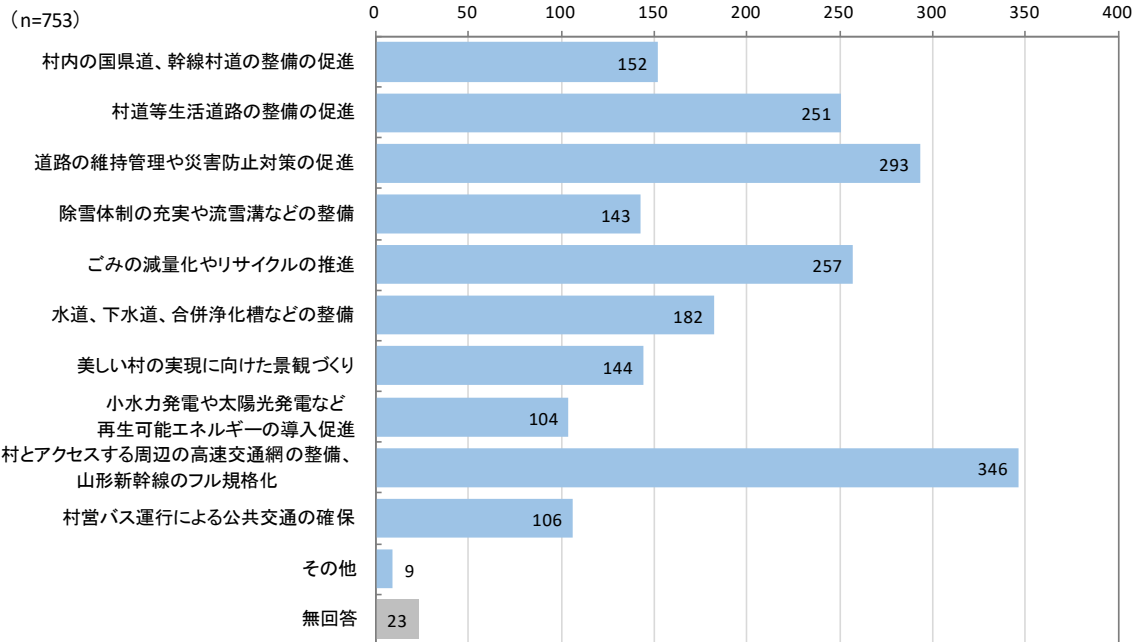
6. 高齢者・障がい者福祉について（問 12）

- 最も多いのが「交通手段の確保」、次いで「日用品や弁当などの移動販売の推進」「高齢者や障がい者の住宅改造などの支援」が多い状況です。



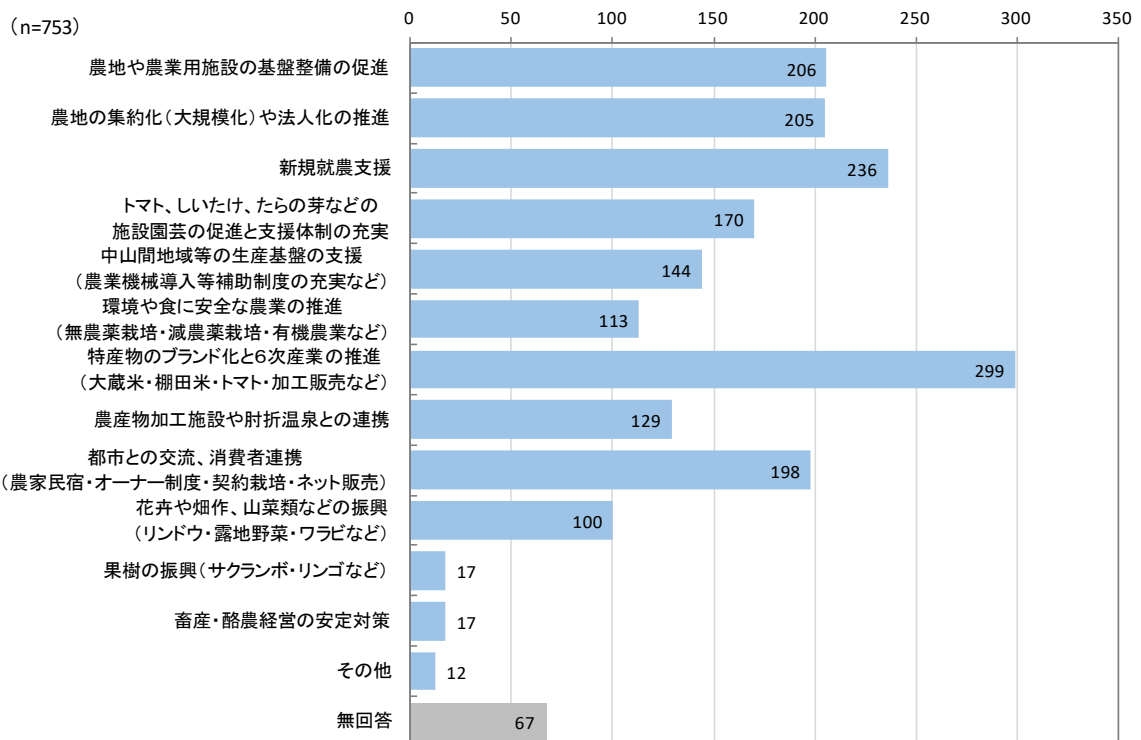
7. 生活環境について (問 13)

- 最も多いのが「周辺の高速交通網や新幹線フル規格の整備」、次いで「道路維持・災害防止対策の促進」「ごみの減量化やリサイクルの推進」が多い状況です。



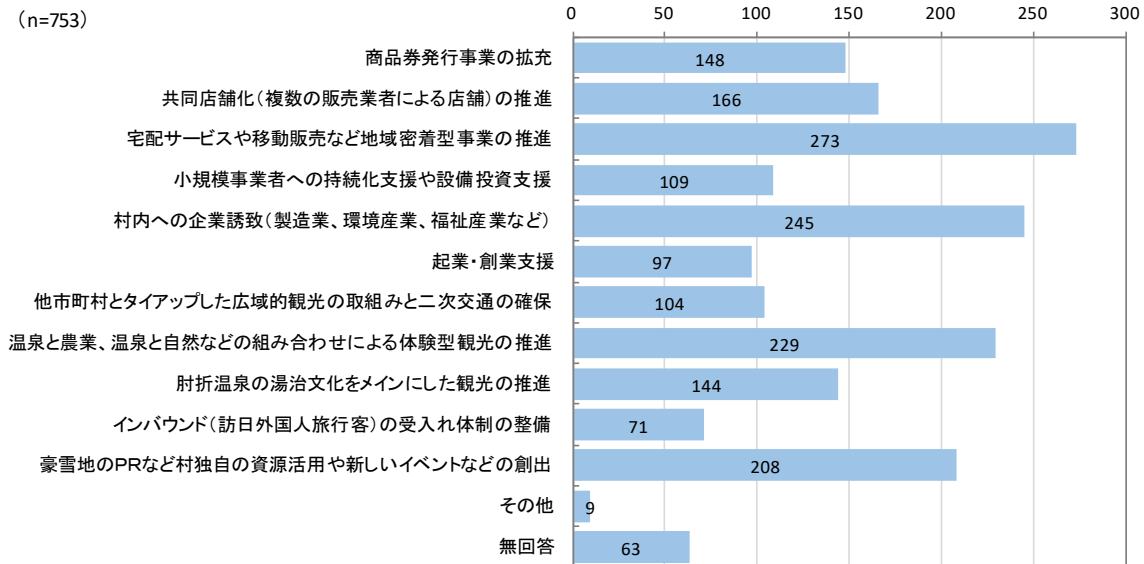
8. 農業振興について (問 14)

- 最も多いのが「ブランド化と6次産業の推進」、次いで「新規就農支援」「農地や農業用施設の基盤整備の促進」「農地の集約化や法人化の推進」が多い状況です。



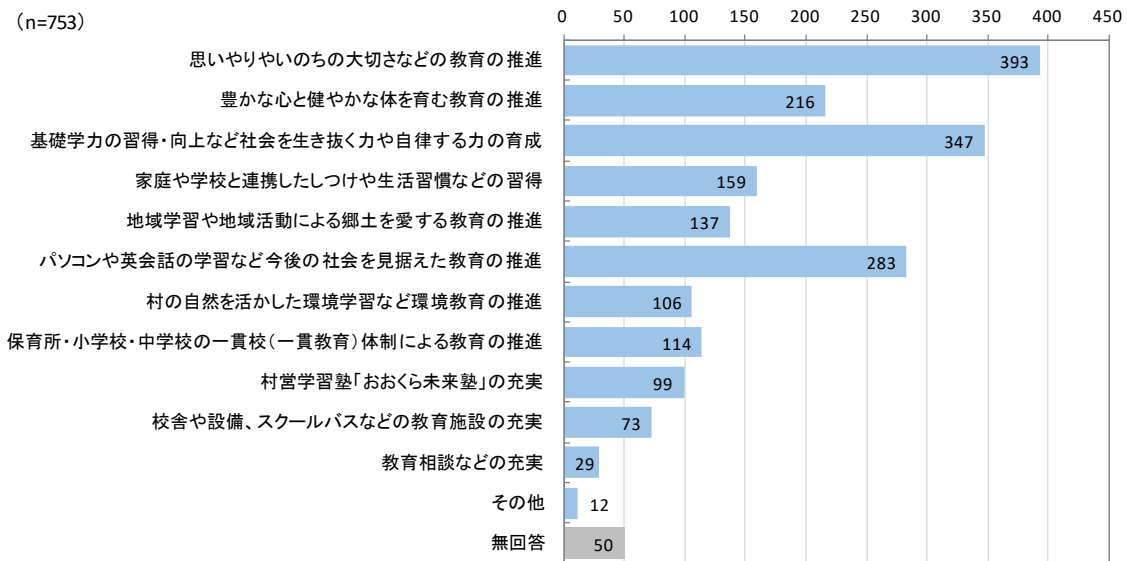
9. 商工観光の振興について（問 15）

- 最も多いのが「宅配サービスや移動販売などの推進」、次いで「村内への企業誘致」「体験型観光の推進」「資源活用やイベントの創出」が多い状況です。



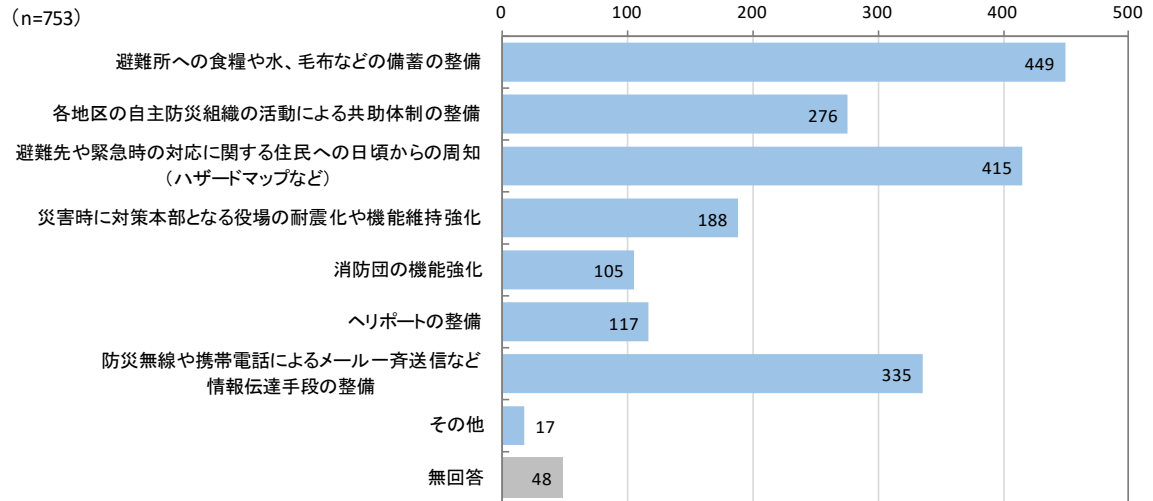
10. 子どもたちの教育について（問 16）

- 最も多いのが「思いやりやいのちの大切さなどの教育の推進」、次いで「社会を生き抜く力」や「今後の社会を見据えた教育」が多い状況です。



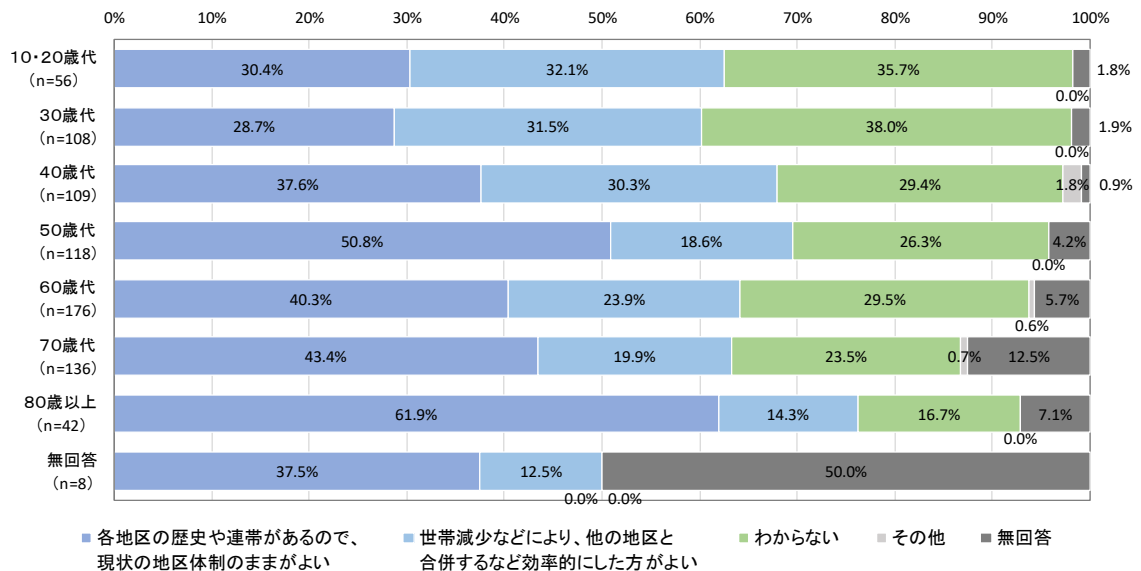
11. 防災対策（問 17）

- 最も多いのが「備蓄の整備」、次いで「住民への日頃からの周知」が多い状況です。その他「情報伝達手段の整備」を求める声も多くなっています。



12. 地区の体制（問 18）

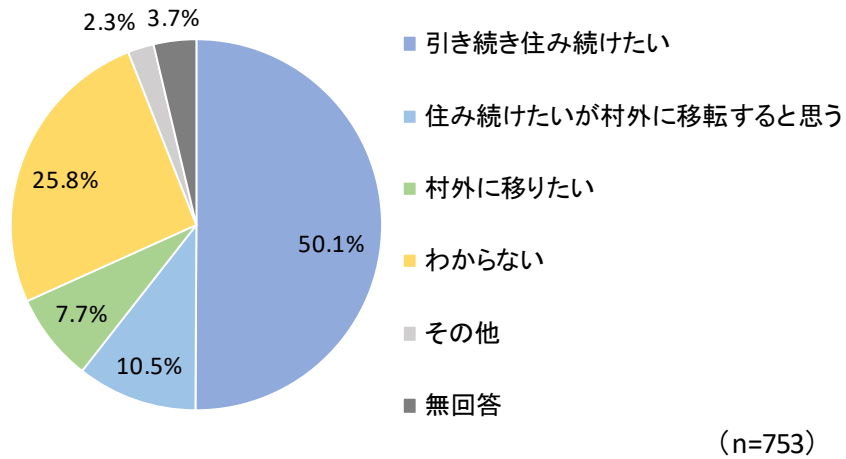
- 「現状の地区体制」を望む声が最も多くなっています。しかし、40歳代以下は、「効率的な体制」を求める声が3割以上となっていました。



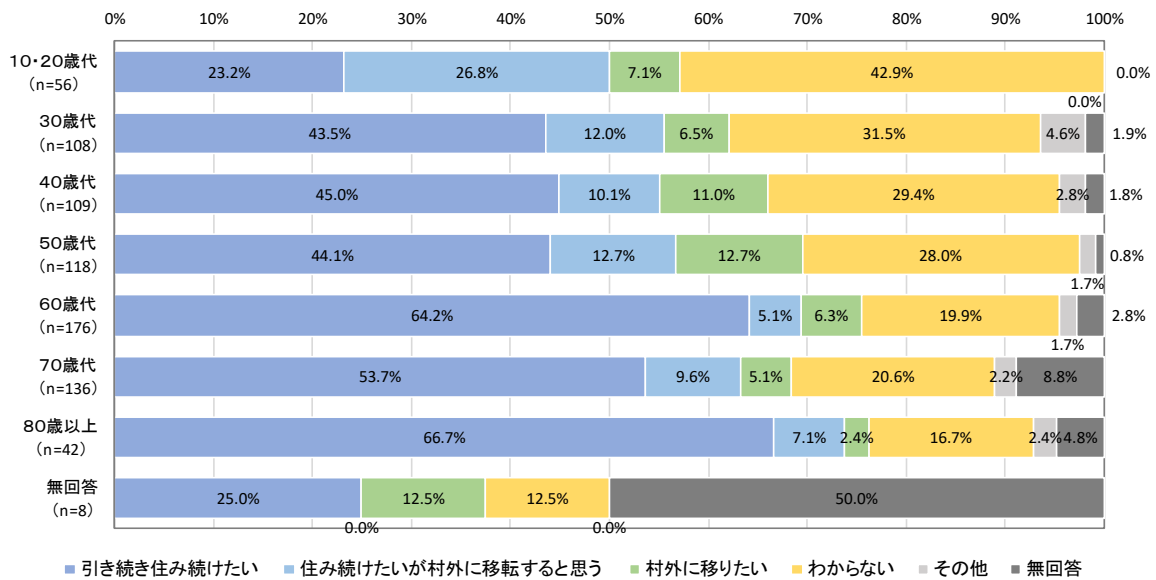
13. 今後の居住意向について（問 19）

- 約半数が「住み続けたい」と回答しています。しかし、10・20歳代の若者は「住み続けたいが村外に移転すると思う」という声が多い状況です。

（1）全回答



（2）年齢別割合



14. 自由記述 (問 20)

自由意見の中から、多く寄せられた主な意見について、下記に整理しました。

(1) 美しい村

- 新緑と紅葉の美しさをもっとアピールした方がいいと思います。
- 最上川の堤防の両側に桜の木を植えたらきれいだと思います。川をきれいにして、舟下りなど出来たら大蔵もひらけて来るのではないのでしょうか。
- なにより、**人がやさしくて**、これからも住み続けていきたい。
- 小・中学生にも、「暮らしのごみ」も考えて快適な生活環境をととのえることを**大蔵の自然を守る**ためにお願いしたい。
- 一芸に特化した地域おこし協力隊**に来てもらい、外の意見を取り入れたり、文化保護のサポートをしたりしてもらいたい。

(2) 高齢者・子育て・若者・移住定住

- 大蔵村で就職するのは限られていて難しいので、せめて**最上管内に就職したら（何かしら）免除してくれる条件**があれば、地元に戻ってくる若者も増えると思う。
- 夫婦のみでは子育ては限界がある。**冬場、子供と遊ぶ所がない**。山形市、天童市、東根市みたいに公園を整備してほしい。
- 空屋の再利用**を検討し、都会などからの移住者の積極的な受け入れを支援。
- 村営アパートの新規建設よりは、**既存の建物（空き家等）を利活用**してはどうか。
- 将来、年を取った際に近所に身内がいなくても、**親身になって相談できる友人や知人**がいれば安心して生活できる。
- 大蔵村民なら定年後もゆっくり働ける環境作り（除雪・農業・子供達への指導など）。

(3) 日常生活

- もっと**商店街を応援**して活性化等応援してもらいたい。
- 高齢者が安全で便利だと思えるように、**歩いていける距離に店**があったり、**移動販売**などがあったりしたらいいと思う。
- 冬の除雪**の件で大変困ってます。
- 今、地域の**人と人との繋がりが気薄**になっている。こういう僻地だからこそ助け合いの精神が必要と思う。
- 高齢者の負担を減らせるように、**ボランティアなどでサポート**していけたらいいと思う。
- 大蔵診療所もせめて**土曜日診療**してもらえれば。
- 交通手段の確保**。

(4) 農業・産業

- 村民以外の人からよくトマトを買える場所がないか聞かれるので**産直みたいなもの**をつくったらどうですか。
- 効率的な農地の利用**、農業をしたい人と、農地を活用してほしい人をつなぐ支援が必要。
- 農業は予算をもらって手厚くフォローしてもらっているので、もっと**個々の向上**を見たい。
- 休耕田、畑を活用した**農業法人の立ち上げ**（特産物の開発 わらび等）。

(5) 交流

- 子どもと遊ぶとなると村外の公園等に行き遊んでいる。**村内に親子で遊べる施設**（キャンプ場等）があると、良いと思う。
- 大蔵村が一番に考えねばならないのは肘折温泉を中心とした道路の早期改善だと思います。
- 中心地にも観光客を足止め出来る「花見処」みたいな**見所を作る**事で肘折への素通りがなくなる。
- 歴史と産業を組み合わせた観光**（例 清水城跡と小屋酒造見学、トマトつみ、上竹野遺跡、味来館でのそば等・休耕田、畑を活用した農業法人の立ち上げ 特産物の開発 わらび等）。

(6) まちづくり

- 歴史・文化・伝統を重視した長期計画の策定と、これに見合った**きめこまかな教育**（人間教育）の進行を望みたい。
- 呼びかければ村内に色んな**アイデアをもつ若者**がいっぱいいるはず。
- 若者の定住促進に向けた**企業誘致**を進めてほしい。現在、農産加工場が稼働しているが、もっとそのような政策を展開する。
- 住民自らの働きかけにより起こるものに補助**するような、村がサポートしていくような体制が理想。
- 子育て支援についても、ほとんど自分で子育てしてこなかった世代や男性ばかりで話をしてもあまり意味がないのでは？**現役のママ達が集まる場に出向き、意見を取り入れる**べきだと思う。
- 大蔵村の未来のアイデアがでたときに伝えられるように「大蔵村へよりよくする手紙」係みたいな名前をつけ、**常に提言、意見、アイデアを受けとれるように**したらどうか？
- 東北芸工大や山形大学以外と連携するのもおもしろい村作りになると思います。大蔵村はNPO法人がなく農業法人がない現状です。今後、NPO法人で村の福祉充実や障害者雇用施設など挑戦出来る人材が必要です。

中学生アンケート

令和元年7月、中学校の協力を得て中学生66名を対象にアンケート調査を行った。主な質問項目は、自身の将来像と村の将来像の2点である。

<総括>

- ・問9「住みやすさ、村の魅力向上のアイデア」では全員が回答し、村への関心の高さが伺える
- ・個人の将来像では、つきたい職業を決めている人が約半数であり、医療関係職の希望が多い
- ・村への愛着があり、自分にとって村は暮らしやすいと感じている人がほとんどである
- ・村の暮らしにくさの理由や村の将来像では買い物など日常生活の便利さの改善が望まれている
- ・村のよさや大事にするべきことの価値が共有されている

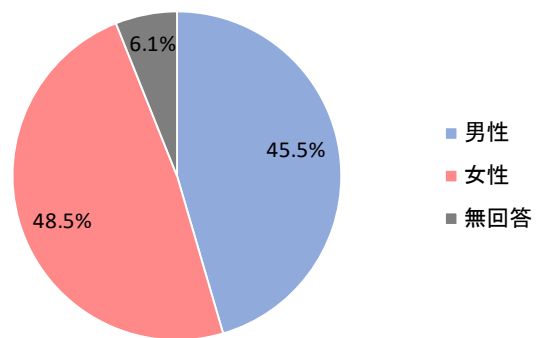
<人口減少等への課題>

- ・将来の職業に農業や観光業等の回答がないが、農の「楽しさ」を体験する機会をつくることや暮らしの「充実」を示すことが数十年先のUターンへつながる可能性がある
- ・学力を伸ばし職業選択の自由度を高めることが、暮らす場として村が選ばれることにつながる可能性がある

設 問	
I 属性	
(1)	学年
(2)	性別
II 個人の進路・将来	
問1	卒業後の進路
問2	高校進学先を決める条件
問3	つきたい職業
III 村や暮らしについて	
問4	村への愛着
問5	暮らしやすさ
問6	村の自慢・残したいもの
問7	どんな村になったらいいか
問8	どんなふうに住らしたいか
問9	村づくりのアイデア

I 属性

	回答数
1学年	17
2学年	18
3学年	28
無回答	3
合計	66

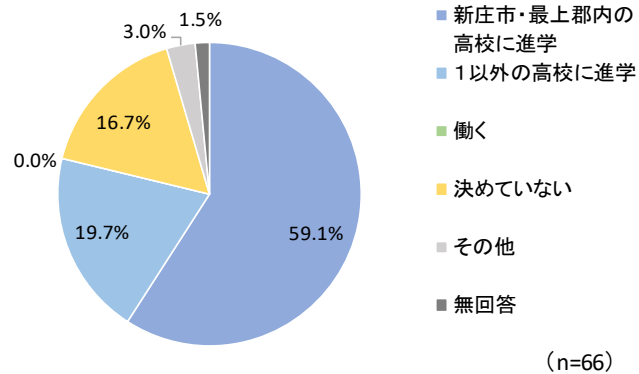


(n=66)

Ⅱ 個人の将来・進路

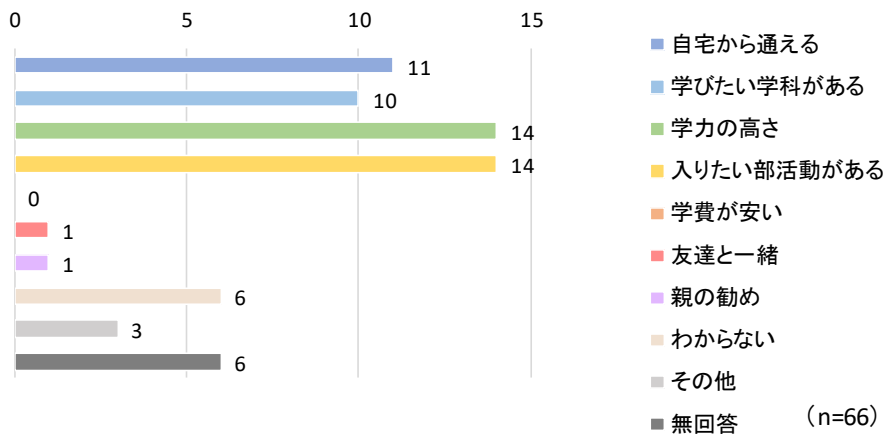
問 1 卒業後の進路

- ・卒業後の進路については、約8割の生徒が進学を希望すると回答した
- ・働くとは回答した人はゼロである
- ・各学年で進路選択の割合はほぼ同様である



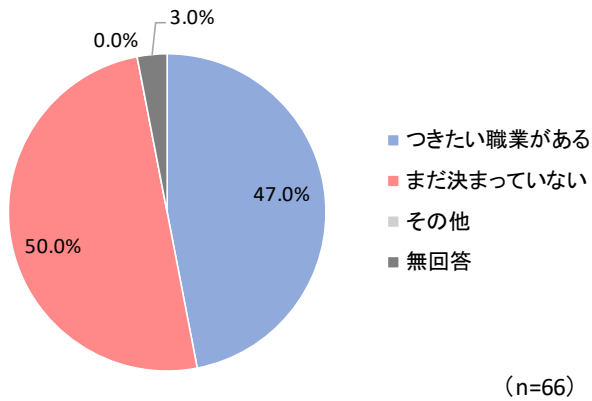
問 2 高校進学先を決める条件

- ・「学力の高さ」と「入りたい部活動がある」が同数で最も多く、次いで「自宅から通える」「学びたい学科がある」が多い
- ・学年別にみると、1、2学年では「学力の高さ」が多く、3学年では「自宅から通える」が多い



問 3 つきたい職業

- ・「つきたい職業がある」と「まだ決まっていない」がほぼ同率である
- ・学年別にみると、1学年では4人のうち3人が「つきたい職業がある」と回答し、2学年ではほぼ同率、3学年では3人のうち2人が「まだ決まっていない」と回答した
- ・つきたい職業の内訳では、医療関係の希望が最も多い



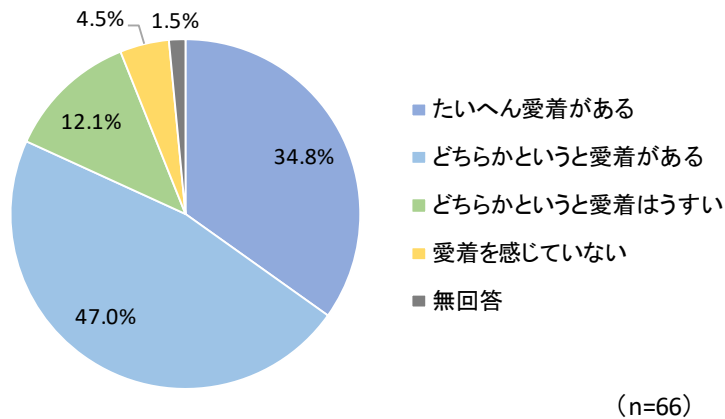
■つきたい職業の例

1 学年	
料理人	魚類学者
弁護士	医師
看護師	プロ野球選手
薬剤師	メイクアーティスト
スポーツ選手	JAXAで働く
2 学年	
助産師	美容師
看護師	医者関係
パン屋	医者
3 学年	
自動車工	薬剤師
栄養士	自分の好きなこと
スポーツ系	教師
美容師	飲食業
保育士	

Ⅲ 村や暮らしについて

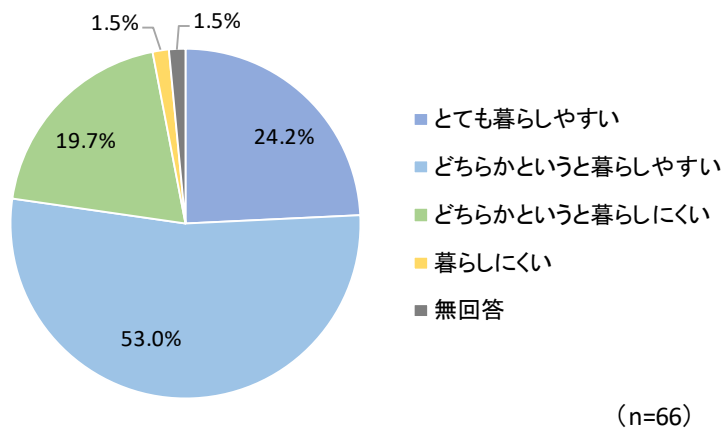
問 4 村への愛着

・「どちらかというとな愛着がある」「たいへん愛着がある」が合せて全体の 81%である



問 5 村の暮らしやすさ

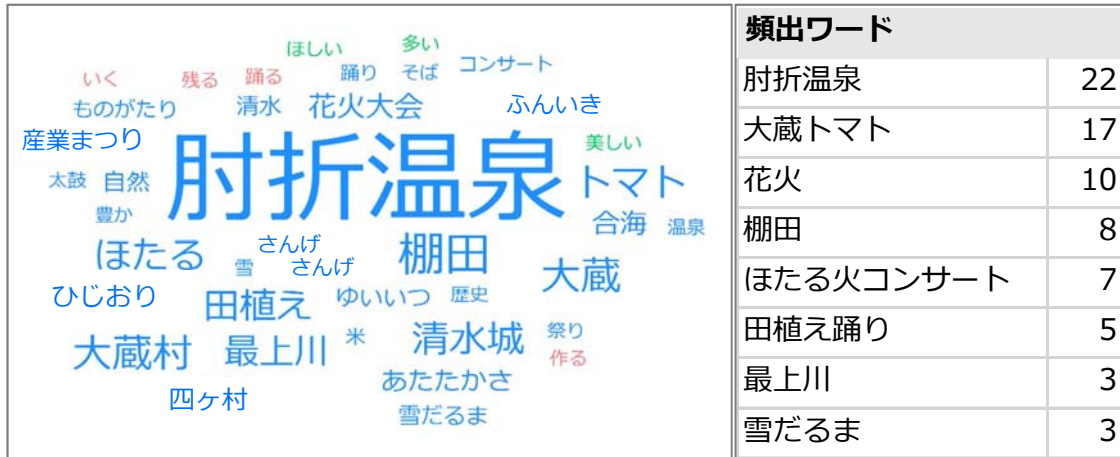
- ・「どちらかというとな暮らしやすい」「とても暮らしやすい」が合せて全体の 77%である
- ・「どちらかというとな暮らしにくい」「暮らしにくい」は合せて全体の 21%である
- ・暮らしやすさの理由としては「自然がゆたか」「人がやさしい」等があげられた
- ・暮らしにくさの理由としては「雪が多い」「コンビニがない」等があげられた



問6 村の「じまんしたいもの」「残ってほしいもの」

- ・「肘折」や「温泉」が多い
- ・「棚田」や棚田に関係する行事が多い
- ・「トマト」や「米」その他の農産物が多い
- ・「村民のあたたかさ」や「じじ、ばば」など人に関するものがある

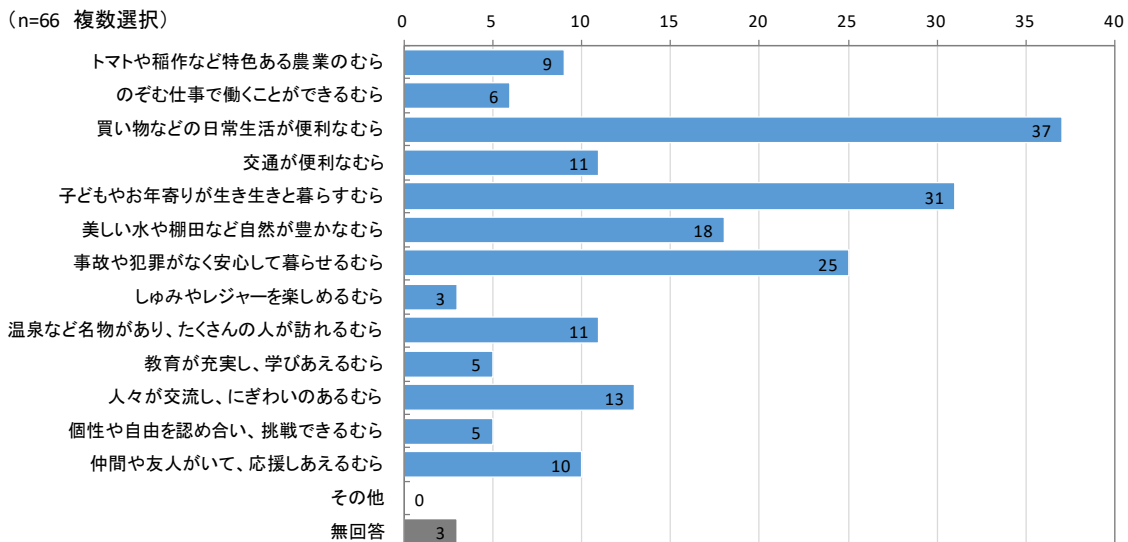
<図> テキストマイニングの結果



※頻出した言葉ほど大きく中央に表示されています。青字＝名詞、緑字＝形容詞、赤字＝動詞

問7 大蔵村の将来像

- ・「買い物など日常生活が便利なむら」が最も多く、次いで「子どもやお年寄りが生き生きと暮らすむら」「事故や犯罪がなく安心して暮らせるむら」が多い



問 8 自分の将来像

- ・仕事を重要視し、趣味とバランスよく暮らしたいという傾向にある
- ・家族や友人など身近な人間関係を大事にしたいという傾向にある
- ・暮らす場所として明確に村外を希望する人は5人、村を希望する人は1人いる

問 9 住みやすさ・魅力向上のアイデア

- ・他の項目で無回答の人も全員が回答している
- ・買物利便施設や交通など生活利便性に関することが多い
- ・村の特産品や村をPRすべきという意見が多い
- ・お年寄りから子どもまで皆が安心して暮らせるための意見が多い

<全回答>

1	デパートを作る。イオンを作る。洋服店、遊園地を作る。
2	大蔵の特産物をもっとPRしたり、移住する人を増やす。
3	地域のひととの交流を増やす。トマトやそばなどの食べ物で料理を作って観光客を増やす。
4	スーパー、コンビニなどを置く。特産物をSNSを使ってアピールする。高齢者、障害者のためにバリアフリーにする。高齢者が買い物しやすいように、ネットショッピングを取り入れる。観光客が来やすいように交通の便を良くする。小さい子が遊べるような施設をつくる。
5	村民が、「ここいいな!」と思うことをアンケートを集めて、ポスターにする
6	お店を増やす。CMなどでせんでんをして、移住してくれる人や観光客を増やす。バリアフリーを考える。
7	おとしよりも使えるスマホなどをやる
8	大人も小人も遊べる場所がほしい。大蔵村だけの食品や名物を増やす。
9	仕事をする場所を多くする。例) 養殖場。サクラマスなどを養殖して、全国から有名になる。
10	農産物を増やす。道路や歩道をひろくする。リーフレットやCM、ネットなどで魅力を伝える。ネットショッピングをする。
11	養殖場をつくる→養殖した魚をブランド化→全国に公告して大蔵村を有名にする
12	交通を便利にする。今やっているイベントや食べ物などをもっとせん伝する。
13	交通の便をよくする。買い物ができる店を増やす。人口が多い。村の人々が協力できる。観光スポットを増す。お年寄りの方が買い物をしやすいようにネットショッピングなどを行ってほしい。
14	日常生活が便利になる建物をつくる。仕事ができる場所を増やす。お年寄りが買い物をしやすい環境にする。
15	コンビニをつくる。老人のために階段ではなくスロープにする。CMなど作り、アピールする。SNSなどを通して広める。ボランティア活動をする。大蔵の物を使い、オリジナルの物をつくる。(グッズなど)
16	大蔵村の魅力などをホームページなどで伝えて人口を増す。
17	特産物をPRして、海外に輸出する。バリアフリーにする。(お年寄りが多いから)
18	ファミマ。書店。杉をなくす(花粉症)⇒違う木にする
19	棚田にインスタのわくをおいたら良いと思う→QRコードを使ってみりよくを伝える。※イラストあり
20	村プロで提案したものを全部実行してほしい
21	村プロジェクトで大蔵村の産業について取材したり製品をつくらうとしているので、もっと産業をおこしていったほうがよいと思います。
22	スーパーをつくり、新庄にわざわざいかけていいようにしてもらいたい
23	コンビニを作る。ボランティア。
24	観光名所を増やす。インスタに大蔵のものをのせる。

25	ポスターなどで、アピールする。道のせいびをする。
26	若い人、子供が楽しめる場所や、イベントがあってほしい。(運動する場所) ネット、メディアを利用し、若い人が見やすいようなインスタで情報発信したらいいと思う。
27	店やコンビニを増やす。
28	料理を作ってPRして、食という面でも有名な村にする
29	もっと温泉をPRする。温泉ツアーをつくる。大きなプール。
30	買い物できるところをふやす
31	コンビニをつくる
32	大蔵の自然について、もっとPRしていく。
33	イベントを増やす。スーパーやコンビニを作る。
34	村プロをがんばる
35	大きな温泉パーク。スーパーとコンビニをつくる。1日村長体験
36	村プロをがんばります(大蔵村の食材を使った鍋を作ってそれで、大蔵の食の魅力を伝えたい。)
37	コンビニ、アパートをつくる。若い人がすみやすいように、お店をひらく体験などを開催する。
38	鉄道をつくる。
39	人口を増やす。心配事がない。温泉をもっとしてもらおう。
40	ネット通販をする。
41	草刈りをしたらいいと思う。観光スポットを増やす。
42	大蔵トマトをもっと全国に売り出す。
43	ネットツーハンをやる
44	大蔵村は、トマトやわさびなど野菜のものが多く、肉系や魚系を増やすとよいと思います
45	おおくらくんのグッズを増やし、それを肘折の朝市などで売る。
46	コンビニを作る。スーパーを作る。店を増やす。野菜などたくさんつくる。
47	わかい人が増すこと
48	コンビニがほしいです。
49	施設内でのルールを減らしていく。例中央公民館の〇〇室や、体育館などの解放など。
50	コンビニを増やしてほしい。天文台をつくる。イオンをつくる。
51	コンビニをつくる。(24H) 清水城を復元。てんぼう台をつくる。子どもを増やす。スキー場をつくる。イオンをつくる。住みやすい土地にする。駅をつくる。交通を良くする。草刈する。
52	草刈をする
53	ゴミひろい
54	コンビニ。観光客に楽しんでもらえるような場所を増やす。例) 〇〇巡りなど
55	買ったものの宅配サービス
56	スーパーやコンビニがあればいいと思います。肘折温泉などの魅力をうりだせばいいと思います。
57	スーパーやコンビニがあるといい。肘折温泉の魅力をもっと上げるといいと思う
58	名物を増やす
59	店をつくる。もっと自然を大切に。(ゴミひろいとか)
60	コンビニを増やしてほしい公園を増やす
61	コンビニを増やす。公園を増やす
62	特産品を増やす。
63	自然だけではなく、人々に便利なものが増やす。地域で助けあって、いごちのよい村にする
64	良さを全国に広める。→人を増やす
65	自然があるので、いろんなことに木などが使えると思う
66	展望台設置、清水城再建、もっと大蔵の特産物を広める

観光客アンケート

村づくりの効果的な施策の基礎資料とするため、令和元（2019）年7月下旬から約1ヶ月間、肘折温泉の宿泊施設や商店、食事処等にご協力を頂き、観光客の方々を対象としたアンケート調査を実施しました。訪れた観光客の方々から大蔵村はどのように見えているのでしょうか？その結果をお知らせします。

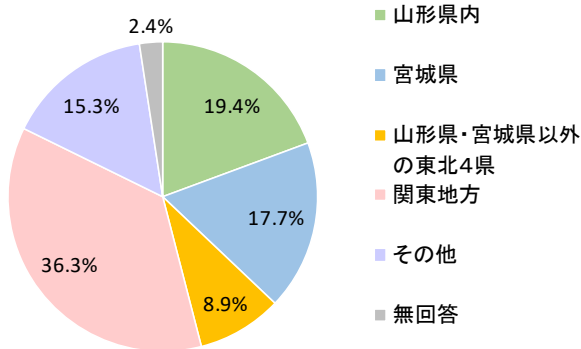
1. 回答者の属性

○回答者の住まいは、東北地方が約半数、関東地方が約4割、その他が約1割となっている。

○回答者の世代は、40代が最も多く約3割、次いで70代以上が約2割となっている。全体で見ると若者から高齢者まで各世代の意見がまんべんなく収集出来た。

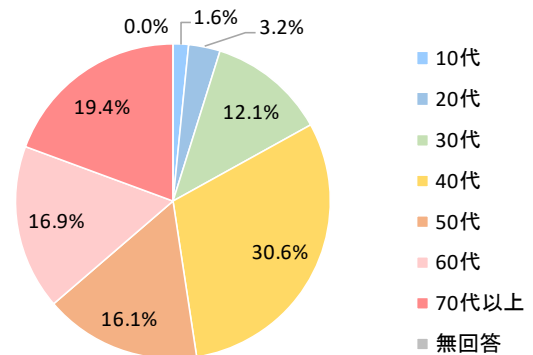
○アンケート結果は、大蔵村への訪問が「初めて」の方が36%、2回以上のリピーターが64%の意見について整理したものである。

■居住地



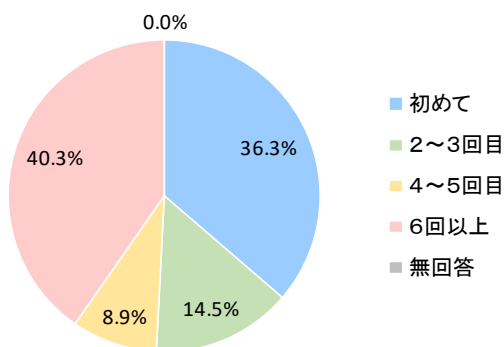
(n=124)

■年齢



(n=124)

■村への訪問回数



(n=124)

2. 村の宝の認知度

(1) 肘折温泉

○旅行前に初めて知った方が約3割。

(2) 四ヶ村の棚田

○行ったことがある方が約45%、知らなかった方が約3割となっている。「行きたいが交通手段がない」という意見も見られた。

○大蔵村への訪問が2回以上の方でも約25%の方が行ったことがない、約18%の方が知らなかったと回答しており、観光情報案内の不足が考えられる。

(3) 大蔵村産のトマト

○山形県で1位の生産量を誇っていることを知っている方は約1割となっており、ほとんどの方に認識されていない状況である。

○大蔵村産のトマトとして認識し食べたことのある方は約24%。また、せっかく大蔵村を訪れているにも関わらず、「大蔵産のトマトを食べたことがない」が約4割見られた。「露出を高めては」との意見もあがっている。

3. 村の魅力の評価

3-1. 全体評価

○最も評価の高かった項目は「温泉地の風情」、次いで「温泉に魅力」「山・川などの自然環境」「地元の人のおもてなしの心」の順となっている。

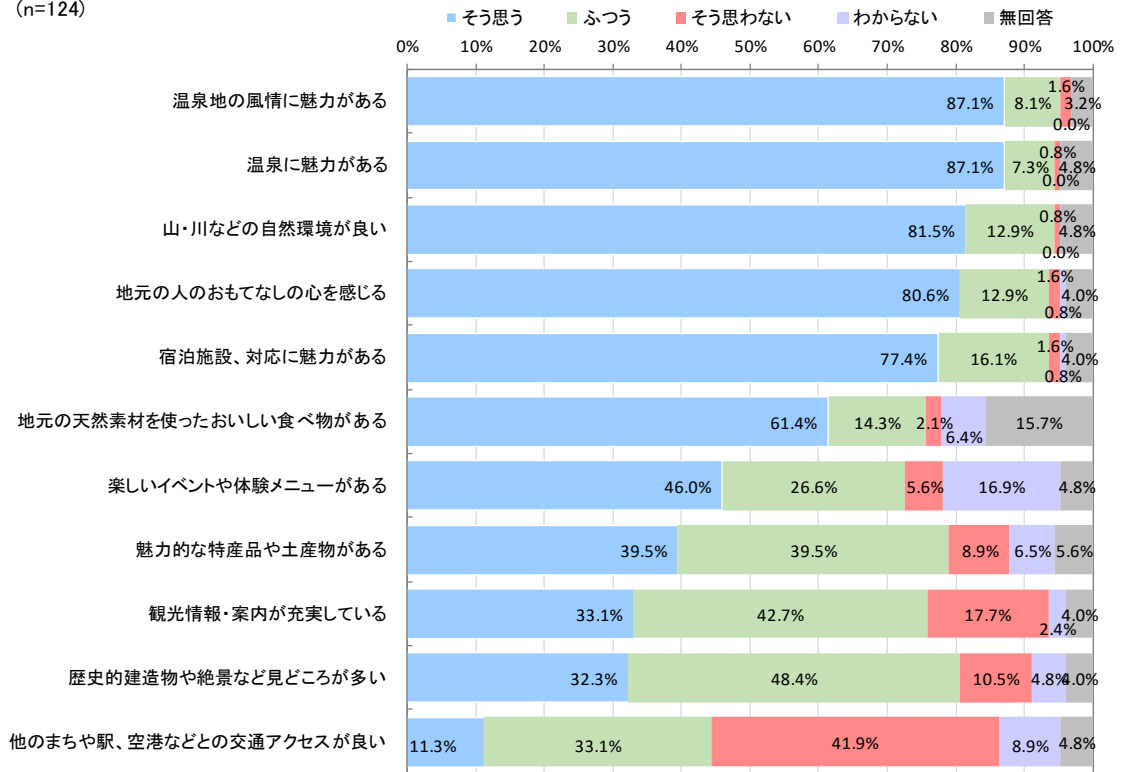
○最も評価が低い項目は「交通アクセス」、次いで「歴史的建造物や絶景など見どころ」「観光情報・案内」となっている。

○評価は低くないものの「楽しいイベント・体験メニュー」について、「わからない」との回答割合が全評価項目の中で最も高い。これはイベントや体験メニューがないということだけではなく、情報が周知されていない、参加しやすいものが少ないといった状況であることが推察される。

○「地元の天然素材を使ったおいしい食べ物がある」について高評価の意見も多い一方で「わからない」と回答した方が6.4%と高い状況となっています。「食べ物がおいしい」との声も多く寄せられている一方で、その魅力を感じとることが出来ない観光客もいるなど、食べ物の魅力のアピールが不足していることが考えられます。

■ 村の魅力の評価

(n=124)



3-2. 世代別評価

村の魅力の評価について、世代による感じ方の違いを確認するため、回答者が約半数ずつとなる40代・50代を境界とし、「40代以下」と「50代以上」の2つの区分で評価を比較した。

- 「50代以上」よりも「40代以下」の方がほとんどの項目で高評価となっている。特に「温泉地の風情」「温泉」「自然環境」の評価が高い状況です。
- 一方「40代以下」は、「地元の素材を使ったおいしい食べ物」「観光情報・案内」「交通アクセス」について、「50代以上」よりも低い評価となっている。インターネットを不自由なく活用できる「40代以下」にとっても「観光情報・案内の不足」が感じられるようだ。

4. 村にきて感じたこと

自由記述より主な意見を抜粋した。

- 肘折温泉に対し「風情がある」「のどかでよい」「このままだよ」「人が優しい」など、今の肘折温泉の姿に魅力を感じている人が多い。一方、接客の技術について改善を期待する意見があった。
- 「人」「温泉」「食」「雪」に魅力を感じるという意見が多い。一方、アピールが上手に出来ないという意見が多い。

	『幸せや魅力』に感じたこと・ところ
肘折温泉	<ul style="list-style-type: none"> ○温泉が素晴らしい。歴史がある。風情があって非常に良い。 ○いつまでも変わらない所が良い。 ○くるとノンビリ・ホッコリする。 ○湯治は東北で一番。 ○泉質がとてもよい。
人	<ul style="list-style-type: none"> ○村民の方々が皆さん親切でゆったりしていて気分が安らいだ。 ○商店で飲んでいたら店員さんも気さくでお客様も仲良く楽しい思い出になった。
交通 アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ○交通の不便さは逆に大きなチャンスになる。 ○来るまでは少し大変だが、来てしまうと温泉街等歩いてゆっくり楽しめる。
情報・PR	<ul style="list-style-type: none"> ○除雪がとても上手いので冬のアピール方法もあると思う。 ○各旅館で送迎もしているので、もっとうまく伝えられと思う（なかなか情報にいきつかない時がある）。 ○もっと露出を高める。 ○体験ツアーの日程がもっとあるとよい。
見どころ ・イベント	<ul style="list-style-type: none"> ○大雪が魅力 ○四ヶ村の棚田の美しさ。 ○星座が大きく見える。
食	<ul style="list-style-type: none"> ○食べ物が美味しい。 ○山菜の美味しさは日本一。 ○日本酒・ご飯が美味しい。
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ○改造されていない建物。 ○大変静かでレトロな感じがする。

	『もうちょっと頑張っ欲しい』と感じたこと・ところ
肘折温泉	<ul style="list-style-type: none"> ○温泉で病がいやされた話を聞いた。もっと温泉の効果をアピールして。 ○ベンチや花などで川沿いも楽しく歩けるように工夫して欲しい。 ○連泊したくなるようなイベントや場所があるとよい。 ○夜に散歩している人がもう少し歩いて歩き飲みや食べ歩きができるとうれしい ○これ以上無理に観光地化しないで欲しい。
人	<ul style="list-style-type: none"> ○良さを後世に引き継ぎ残して欲しい。 ○後継者がきちんと育て欲しいと祈っている。 ○おもてなしの心は感じるが技術がいまひとつ残念。
交通 アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ○四ヶ村に行ってみたいのにアクセス方法がない。 ○車以外のアクセスが少ない。 ○移動手段や手配方法を工夫し丁寧にして欲しい。
情報・PR	<ul style="list-style-type: none"> ○訪問前に滞在中の過ごし方やショートトリップの組み方等、相談に乗ってもらえるワンストップ窓口があるとよい。 ○見せたいところがどこにあるのかわからない。特産品がわからない。 ○棚田の案内看板などをもっと充実させて欲しい。 ○駐車場の場所が一目では分からなかった。案内版で誘導した方がよい。
見どころ ・イベント	<ul style="list-style-type: none"> ○大きなイベント以外に、宿泊客が外で楽しめる小さなイベントがあるとよい。 ○肘折温泉周辺の散歩コースを。地図案内があれば嬉しい。 ○肘折温泉や道中にカフェなどお金を落とせるところがあるととて楽しい。
食	<ul style="list-style-type: none"> ○飲食店がない。夜食事を取れるところが少ない。 ○地元の食材を使っているのかもしれないが説明がなくわからない。
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ○もっと歴史や伝統を売りにできるよう推進して欲しい。

5. 温泉ファンによる魅力向上につながる意見

(1) 魅力を再確認し守っていくことが重要

- 温泉の泉質(色、香り)・山奥に突如現れる温泉街・鄙びた湯治場のような雰囲気・宿の価格、コストパフォーマンス
- 正直、若い方が好き好んで行きたいと思う温泉地ではないと思います。ネガティブではなくて、温泉好きな人にはとても好まれると思います。
- なんととっても温泉の泉質と湯量が豊富なところがよかったです。
- 人見知りせずに声をかけてくれる。
- 共同浴場で地元の方とお話したり、そう言った面ではとても魅力のある場所だと思いました。
- 肘折温泉の季節ごとにあるイベント。
- おおくらくんを見ると幸せな気持ちになる。

(2) いかにか付加価値を付けるかが課題

- 温泉街の雰囲気は昔からの建物や街並みがあるのに、閑散としている感じがしたので、大変だとは思いますが地元の方々に盛り上げて大蔵村の魅力をもっとアピールすれば訪れた人ももっと満足するのでは？
- 山形の特産で思い出すのは、お米やさくらんぼですが、大蔵村で限定すると特産が何かあまりわからなかった印象です。トマトの生産量も初めて知りました。秋口に初めて行きましたが、ファミリーが楽しめるスポットがあればもっと観光客が来るのかな、と思いました。温泉街もいい意味で落ち着いた印象でしたので、シーズンによってはスキーなどで賑わう？のかもしれないですが、閑散期のイベントもあるといいと思う。
- いつもバスで何うので新庄の駅から直行して宿と温泉街だけ楽しんでそのままどこにも寄らずに帰ってきてしまいます。特に不満はありませんが、肘折温泉発の観光地巡りバスとかあれば乗ってみたいです。
- 日本酒花羽陽が美味しかったので蔵元に行ってみたいのですが、どこにあるか、どうやったら行けるかわからなくて。バスから見える景色もなかなかよいのですがなかなかちゃんと見るきっかけもないです。
- 一度連泊したいとは思ってるのですが、丸一日使える二日目をどうしたらいいか、お昼に食べる場所も選択肢が少なすぎるので二の足を踏んでいます。

(3) 情報を発信していくことが必要

- 四ヶ村の棚田は知らなかったなので、もっとアピールしてもいいかと。美味しい蕎麦とだんご屋さんも。
- 肘折温泉以外の大蔵村が全くわからないこと。

子育てママのヒアリング

日時：令和元年 11 月 25 日（月） 14：00～16：00

場所：寿屋（大蔵村大字南山 5 7 1） 2 階

1. 目的

第 4 次大蔵村総合計画策定に向けて、女性や子育て世代の実情を知り取組みへ反映できるよう、施策全般についてヒアリングを行った。

2. 参加メンバー

参加メンバーはいずれも肘折地区在住、子育て中の女性 5 人である。

参加者 A：旅館業、3 児の母

参加者 B：主婦、4 児の母

参加者 C：小売業、3 児の母

参加者 D：小売業、2 児の母

参加者 E：飲食業、2 児の母

※参加者は家業を継いだ方 2 名、

村外から嫁いだ方 3 名



3. トーク内容

（1）子育てについて

【話題】

- 男性は消防や観光、商工会など外出・交流の機会が多いのに対し、母親は留守番と子守の役目となることが多く外出が難しい。
- 女性向けの地域の集まりがほとんどないため、女性同士が知り合う機会が少なく、子どもがいれば保育所などから交流が始まる。
- 家族のサポートがない場合、学校や病院が遠く離れているため、急な用事が発生した際に困ることがある。
- 子ども達が安全に遊べる場や習いごとができる場がほしい。
- マッチングで子どもの面倒をみあう等できないだろうか。

【問題点と展望】

- 肘折地区の子育ては各家庭の母親が主力となっており、家族のサポートも見受けられるものの、ワンオペに近い印象を受ける。「子育ては母親が担い家族はそのサポートである」から「子どもは家族と地域で育てる」という意識への改革が必要ではないか。
- 子どもの保育所入所前、母親同士のつながりができる前の時期、孤独になりがちな傾向がうかがえる。家族以外で相談や手助けを求められる場が必要ではないか。

（ワンオペ＝ワンオペレーションの略。一人が全ての作業を行う状況のことをいい、育児においては、夫婦どちらかの一方に負担がかかっている状況をいう。）

(2) 肘折地区での暮らしについて

【話題】

①個人の時間

- 自営業の場合休みが少なく、肘折地区から出る時間・機会がない。

②交通

- 小・中学生は通学の送迎があるが、それ以外の用事は雪道の運転が出来ないと生活が不便である。
- 大きな病院は新庄まで行かなければならず、遠い。特に付き添いが必要な場合、病院と家との往復等大変である。

③雪、自然

- 観光でくると暮らすのとは異なる。観光的な感覚で暮らし始めるとギャップを感じる。ただし、積雪1mと3mの苦勞はさほど変わらない。
- 自営業の場合、冬は仕事量がそれほど多くない。

④人口

- このまま子供が減少した場合、保育所の存続が危ぶまれる。
- 肘折地区には若い人もいるが、結婚を望みながらも結婚につながる出会いの機会が少なく、将来、肘折地区で子どもの声が聞こえなくなる可能性がある。
- 温泉旅館においては、客数の減少とともに従業員も減少している。
- 婚活パーティーを企画したが継続されなかった。継続が必要だ。
- 企画があれば協力する意思がある。

【問題点と展望】

- 自分達の後継がないことを参加者自身が深く受け止めていた。地域が元気であり続けるためには、若い世代の結婚や子供が増えることが必要である。そのためには、SNSによる魅力の発信の他、出会いのきっかけとなるイベントの継続的な開催が効果的ではないか。参加者は主体的かつ積極的であり、企画等を効果的に運用しまちづくりをすすめる上でのサポートも期待出来る。

(3) 肘折温泉の観光について

【話題】

- 現在、観光振興にあたる動きは60代以上の男性が先導して取り組んでいる。
- 10年前と比べ客数は右肩下がり減少を続けている。しかしここ最近は若い客層が増えてきた印象もあり、「ひじおりの灯」などのイベントによる効果を実感している。
- テレビ番組「水曜どうでしょう」のキャラバンが肘折温泉で開催されてからリピーターが多くなった。
- イベントをきっかけとして肘折の泉質の良さが広まりつつある。40~50代の温泉好きな人の来訪が増えた。
- 女子目線だとカフェやインスタ映えするところがない。

- 昔は長期滞在者が多かったが、現在は2～3泊が多くなっている。一人客が増加しているが、設備や間取りに乖離があり、サービスの提供チャンスを逃すこともある。
- 肘折地区には、つる細工が得意な高齢者や女性がいる。つる細工は都市部からの女性客に人気である。
- 大蔵産のトマトの販売場所を聞かれることがよくあるが案内が出来ない。
- 通信販売で成功している店舗がある。

【問題点と展望】

- 女子の一人旅や若い世代、海外からの来客が増えている。10年後も活力を維持し続けるためには客層にあったハード・ソフトの対応が必要となってきた。ただし、施設整備にはコストが掛かることから現状のニーズに合わせるのか、これからのターゲットのニーズに合わせるのか、それとも両方なのか検討することが必要。さらにプロモーションの方法や新商品開発も考えていく必要がある。
- 「ひじおりの灯」では楽しそうに歩いている人を多く見かける。夜市のようなイベントを定期的に開催し、夜も歩ける仕掛けが必要ではないか。
- トマトや温泉、つる細工など村の資源を活用し、SNSによる情報発信など今の時代にマッチした稼ぎ方を進めていく必要がある。

4. 子育てママたちの提言

～みんなが活躍し、子供の声がひびく元気な肘折であり続ける～

(1) 女性も高齢者も活躍できる肘折<学びの場の確保>

- 男性だけではなく、子供も女性も高齢者も活躍のきっかけとなる場所をつくってはどうか。
子供：共通の「遊び場」「学び場」ですごく
女性：ピアノ、英語、お茶など持っているスキルで「教える」
高齢者：子どもの見守り、つる細工等持っているスキルで「教える」

(2) 住民同士で支え合う肘折<仕事マッチングへの支援>

- 旅館など、人員が不足している。旅館業以外にも子育て支援など、短時間の仕事を頼みたい人と仕事をしたい人を結びつける仕組みができないか。

(3) 地域で子どもを見守る肘折<安心して子供が遊べる場の創出>

- 雪が降っても外で遊ぶ元気な子ども達だが、母親が付きっきりでなくても地域に見守られ、安心して遊べる屋根付きの遊び場を設けることはできないか。

大蔵村総合計画策定事業 「おおくら 未来会議」開催報告

目的：にぎわう大蔵村とするために何ができるか

日時：令和元年9月25日(水)

18:30~20:30

場所：赤松生涯学習センター2階学習室

参加者：26名



これまでがあって、これからがある。 くらのみらいの話をしましょう。

大蔵村総合計画策定事業

おおくら 未来会議

2019年9月25日(水)
18:30~20:30
場所:赤松生涯学習センター

未来会議とは?
みらい会議は、第4次大蔵村総合計画策定・第2期大蔵村総合計画策定の機会に向けて、住民が集い、くらしや課題、なることを目指してみんなで話し合います。当日はワークショップという方法で集めた話し合いができるようになります。学生さん、子育て中のママ、ラートンママ、集まる場所の指定はくらしや、くらしに關心や愛着のある方、どなたでも歓迎です。ぜひご参加ください。

プログラム

- ・くらしのこと
- ・みらい会議の目的と意義のこと
- ・ワークショップ
- Step1: 今までのくらしを振り返り
- Step2: つよみとよわみを深堀り
- Step3: つよみとよわみをグループ分け
- Step4: 発表の時間タイム
- Step5: 発表、仲打ちタイム

参加費 無料
定員 20名
場所 赤松生涯学習センター
「まっぼくくり」多目的ホール
入蔵村人字番 609

お問合わせ・お申込み先
大蔵村総務課総務課
TEL: 0233(75)2211
FAX: 0233(75)2231

申込受付 9/17

※お申込みは総務課総務課まで、電話または104でお寄せください。

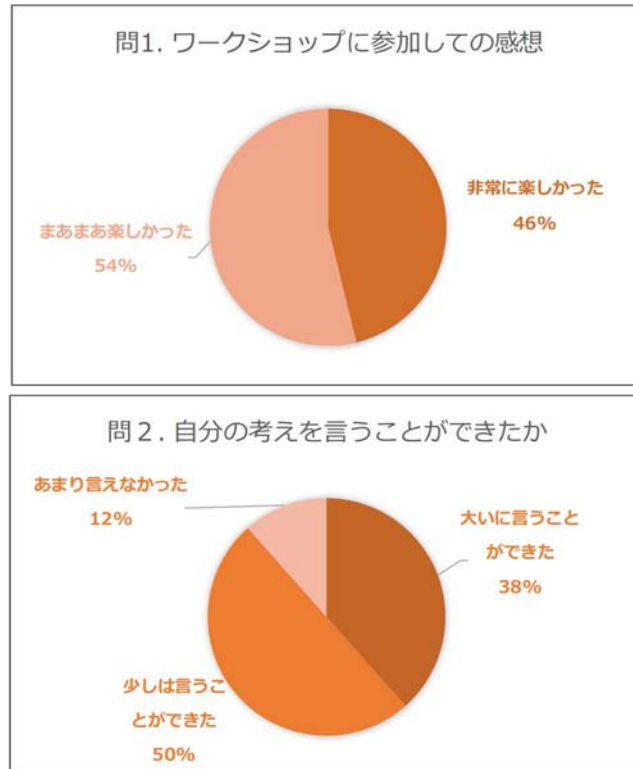
次第：

18:30	開会	：村総務課
	あいさつ	：総合計画審議会八鍬会長
	村の現状と課題、ワークショップの進め方説明	
18:45	ワーク「にぎわう大蔵村とするために何ができるか」	
	グループ分け	
	Step1	つよみとよわみを深堀り
	Step2	つよみとよわみをグループ分け
	Step3	知恵を出しあう
20:15	発表タイム	
20:30	閉会	：村総務課

概要：「おおくら 未来会議」は第4次大蔵村総合計画策定に向けて、職員と住民が意見交換できる場をつくることを目的として開催されました。会には村の職員と若手リーダーを中心に26名が参加。中学生アンケート等でも村の宝とされた「棚田」「トマト」「肘折」3つのグループに分かれ、「にぎわう大蔵村とするために何ができるか」についてワークを行いました。

総括：各グループで活発な対話が行われました。共通の見解として、住んでいる自分たちが村の魅力についてよく知る必要がある、小中学生の授業等に取り入れてはどうか、小さなアイデアから始めていくことが大事だ等があげられました。ワークで得られたアイデアや意見は総合計画の取組み等への反映を検討します。

■参加者アンケート (n=26)



■参加しての感想 (自由記述)

大蔵村の熱意ある方と熱い話ができて有意義な時間でした。
 これで終わらずこの中から何か実現できたら最高です。
 より良い大蔵村にするためには個人ではなく全体で動く事が必要だぞ!!
 若者の話が聞けて大変良かった。
 通年で定期的開催できたら良いと思います。
 いろいろな人の意見をきくことができ良い体験になりました。
 異業種の方と色々お話できて良かったと思います。
 これがただやっただけならば、この会をした意味がない。これが行政に反映され実現されることを望む。
 村民の中での興味、関心に温度差があることを改めて感じました。村が一体となることが大切だと思います。
 様々な意見がでて、肘折だけではなく村の事を考える人が多いなと思った。
 みらい会議をはじめ、大蔵村は、本当に若い方の活躍や未来についての活動が盛んだなと思った。
 大蔵の事を考えている人が多くて良かった。
 村内のことなのに知らない人が多かった。
 発信を強くし、意見をもっともっと聞きとることができたらと願います。
 多くの人の意見を聞くことができた。
 今日のWSの記録を後日参加者の皆さんに配るなどして共有してほしいです。
 いろんな意見を言ったり聞けて良かった。
 村に住んではいますが、トマト(テーマ)について知らなかった事も多く、
 また今後の活用、課題についても考えることができた。
 自分の分野外について考えたり発言できる場でも良かった。
 「トマト」がテーマでしたが知らなかった事が多く、いろいろな話が聞けて楽しかった。
 とりあえず言ってみよう感じがよい。
 今日は3つのテーマについてワークショップをしましたが、それ以外のテーマでもワークショップをしてもらいたい。

グループ1 テーマ「棚田」

つよみ・魅力ポイント（＝ピンクのフセン）とよわみ・惜しいポイント（＝黄色のフセン）を出しあい、グループ分けしました。ポイントは【周辺施設】【アクセス】【費用対効果】【災害】【景観】【イベント】【維持管理】というグループに整理されました。さらに「棚田」という宝をもっと「いい雰囲気をもっていくには？」という視点で、対策（＝青いフセン）について話し合いました。

つよみ・魅力

- とにかく景観が美しい
- ほたる火コンサートがある
- 棚田米がある

よわみ・惜しい

- 案内・アクセスがいまいち
- 維持管理の大変さ、担い手不足
- イベントが一過性

対策

- 棚田オーナー・民泊を促進
- TANADAのブランド化
- 小中学校での郷土教育（しらべ学習など）を強化し、学校の行事にからめる

その他：話し合いで共有されたこと

- 棚田のよさとは何か、地元のおとなでもよく分かっていない
- 小・中高生の力を最大限に活用することが大事
- 「棚田」単体ではなく「肘折温泉」とコラボするなど村全体として協力することが必要ではないか



グループ2 テーマ「トマト」

つよみ・魅力ポイント(=ピンクのフセン)とよわみ・惜しいポイント(=黄色のフセン)を出しあい、グループ分けしました。ポイントは【生産について】【料理加工】【PR】というグループに整理されました。「トマト」そのものへのイメージはあっても「大蔵のトマト」としての認知度は低く、トマト農家の体験と他業種の立場からの見解をまじえて体系的に話し合いました。

つよみ・魅力

- トマトの生産技術がすばらしく生産量が安定している
- 加工品としてあつかいやすい、何にでも合わせやすい
- 体にやさそう
- 小さい子どもも食べられる

よわみ・惜しい

- トマトの栽培が大変
- 好き嫌いが分かれ、地元料理になりにくい
- 買う機会がなく(もらう)、認知度が低い



対策

- トマト狩りで一年中楽しんでもらう
- 就農支援、初期投資のハードルをさげる
- トマトを使った名物料理の開発
- 地元向けに、小中学校での体験を継続させる

その他：話し合いで共有されたこと

- 若者の生産者が多く、定着している
- 「大蔵のトマト」をまずは地元にもっと知ってもらい地元で購入できるようにする



グループ3 テーマ「肘折」

つよみ・魅力ポイント(=ピンクのフセン)とよわみ・惜しいポイント(=黄色のフセン)を出しあい、グループ分けしました。ポイントは【情報発信】【景色雰囲気】【雪】【食】【交流】【温泉】【交通】というグループに整理されました。【景色雰囲気】と【雪】のグループで多くのつよみ・魅力が指摘され、各対策について、じっくりと話し合いました。

つよみ・魅力

- レトロな雰囲気がある
- 日本一の雪だるまや温泉(等資源)がある
- ネームバリューはある

よわみ・惜しい

- 閉店時間が早く、交通面では中心地までが遠い
- 雪が多く、寒い
- 発信力が弱い



対策

- 灯を活かした景観向上や、移動時間自体が楽しみとなるようなバスを導入する
- 夏でも雪体験などもっと雪を推す
- SNSでの情報発信や、マラソンや自転車の大会等交流が生まれる仕掛けをつくる

その他：話し合いで共有されたこと

- 若い人が活躍しているが、村民が遊びに行くことは少ない
- 温泉以外にも、「居る楽しみ」があるとよいのではないか
- たくさんの人が集い話し合うことでアイデアが生まれ、小さなアイデアに挑戦してみることが大事



■ 策定経過

開催日		会議名等
平成31年	1月18日	大蔵村総合計画審議会委員公募開始
	3月1日	第1回大蔵村総合計画審議会開催
	3月1日	大蔵村総合計画策定諮問
	3月20日～4月12日	村民アンケート実施
令和元年	6月～7月	村長・各課ヒアリング実施
	7月	大蔵中学校全校生徒アンケート実施
	7月	観光客アンケート実施
	8月5日	第1回庁内策定委員会
	8月6日	第2回大蔵村総合計画審議会
	9月25日	ワークショップ おおくら みらい会議開催
	9月26日	第3回大蔵村総合計画審議会及び専門部会、庁内策定委員会
	10月～11月	地区座談会開催
	11月7日	第4回大蔵村総合計画審議会
	11月25日	子育てママのヒアリング
令和2年	1月28日	第5回大蔵村総合計画審議会
	2月4日	大蔵村総合計画（案）答申
	2月4日～2月14日	大蔵村総合計画（案）に関する意見募集（パブリックコメント）
	2月20日	村議会議員全員協議会において説明
	3月4日	村議会令和2年第1回定例会 議決

■大蔵村総合計画審議会委員 名簿

(順不同、敬称略)

氏 名	所 属	備 考
八 鋤 信一	大蔵村議会総務文教常任委員長	第2回審議会から会長
矢口 智	大蔵村議会総務文教常任委員長	第1回審議会会長
海藤 邦夫	大蔵村議会産業建設常任委員長	第2回審議会から
長南 正一	大蔵村議会産業建設常任委員長	第1回審議会
八 鋤 賢一	大蔵村教育委員	
国分 明	大蔵村農業委員会会長	
森 清海	もがみ中央農業協同組合大蔵支店長	
鈴木 健一	もがみ南部商工会大蔵支部長	
木村 裕吉	大蔵村観光協会会長	
小屋 重紀	大蔵村社会福祉協議会会長	副会長
須藤 敏彦	大蔵村消防団長	
土屋 徹	大蔵村地区代表連絡協議会会長	
國分 武	大蔵村農業後継者の会会長	
長沼 弘美	読み聞かせの会フレデリック代表	
八 鋤 とも子	ままちゃん工房代表	
石川 竜美	大蔵村建設業協会青年代表	
佐藤 みどり	大蔵小学校母親委員	第2回審議会から
須藤 唯	大蔵小学校母親委員	第1回審議会
早坂 宏美	大蔵中学校母親委員	第2回審議会から
栗田 美和	大蔵中学校母親委員	第1回審議会
早坂 武昌	一般公募	
高山 信男	一般公募	